

社会システム研究科 社会システム研究科 博士前期課程 (2015年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■現代経済専攻	マクロ経済分析基礎 後藤 尚久	1学期		2	1
	ミクロ経済分析基礎 後藤 宇生	1学期		2	2
	計量経済分析基礎 藤井 敦	1学期		2	3
	財政学I 藤 貴子	1学期		2	4
	地域経済論 田村 大樹	1学期		2	5
	経済史 土井 徹平	1学期		2	6
	会計学I 白石 和孝	1学期		2	7
	財務会計I 西澤 健次	1学期		2	8
	経営学I 遠藤 雄二	1学期		2	9
	マーケティング 別府 俊行	1学期		2	10
	経営組織論 山下 剛	1学期		2	11
	情報管理基礎 池田 欽一	1学期		2	12
	マクロ経済学 田中 淳平	2学期		2	13
	ミクロ経済学 朱 乙文	2学期		2	14
	財政学II 藤 貴子	2学期		2	15

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■現代経済専攻	金融論 後藤 尚久	2学期		2	16
	国際金融論 前田 淳	2学期		2	17
	産業組織論 後藤 宇生	2学期		2	18
	統計学 林田 実	2学期		2	19
	計量経済学 藤井 敦	2学期		2	20
	労働経済学 畔津 憲司	2学期		2	21
	環境経済学 牛房 義明	2学期		2	22
	応用地域科学 奥山 恭英	2学期		2	23
	会計学II 白石 和孝	2学期		2	24
	財務会計II 西澤 健次	2学期		2	25
	管理会計 梅澤 俊浩	2学期		2	26
	経営学II 遠藤 雄二	2学期		2	27
	経営戦略論 浦野 恭平	2学期		2	28
	コーポレート・ファイナンス 松本 守	2学期		2	29
	人的資源管理 福井 直人	2学期		2	30

社会システム研究科 社会システム研究科 博士前期課程 (2015年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
備考						
■現代経済専攻	企業論	2学期		2	31	
	山岡 敏秀					
■文化・言語専攻	現代アメリカ文学研究	1学期	2	2	32	
	スコット・ピュー	2年				
	英語翻訳研究	2学期		2	33	
	野島 啓一					
	中国民族文化研究	1学期	2	2	34	
	金縄 初美	2年				
	中国民間文学研究	2学期		2	35	
	竹村 則行					
	中国語教育論研究	2学期		2	36	
	胡 玉華					
	■東アジア専攻	東北アジア研究概論	1学期		2	37
		八百 啓介 他				
アメリカ社会概論		1学期		2	38	
中野 博文						
イギリス地域概論		1学期		2	39	
久木 尚志						
近代中国政治史研究		2学期		2	40	
休講						
中国社会史研究		2学期		2	40	
堀地 明						
現代中国経済研究	2学期		2	41		
白石 麻保						
東アジア国際政治研究	2学期		2	42		
李 東俊						
東アジア政治思想研究	2学期		2	43		
金 鳳珍						
アメリカ社会研究	2学期		2	44		
中野 博文						

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■東アジア専攻	イギリス地域研究 久木 尚志	2学期		2	45
		クラス			
	北欧地域研究 五月女 律子	2学期		2	46
		クラス			
	国際協力研究 大平 剛	2学期		2	47
		クラス			
安全保障研究 戸蒔 仁司	2学期		2	48	
	クラス				
国際政治経済研究 阿部 容子	2学期		2	49	
	クラス				
現代アメリカ文学研究 スコット・ピュー	1学期	2	2	50	
	2年				
■特別研究科目	特別研究基礎 後藤 尚久	1学期	1	2	51
		1年			
	特別研究基礎 後藤 宇生	1学期	1	2	52
		1年			
	特別研究基礎 藤井 敦	1学期	1	2	53
		1年			
	特別研究基礎 田村 大樹	1学期	1	2	54
		1年			
	特別研究基礎 田中 淳平	1学期	1	2	55
		1年			
特別研究基礎 朱 乙文	1学期	1	2	56	
	1年				
特別研究基礎 前田 淳	1学期	1	2	57	
	1年				
特別研究基礎 林田 実	1学期	1	2	58	
	1年				
特別研究基礎 牛房 義明	1学期	1	2	59	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■特別研究科目	特別研究基礎 奥山 恭英	1学期	1	2	60
		1年			
	特別研究基礎 白石 和孝	1学期	1	2	61
		1年			
	特別研究基礎 西澤 健次	1学期	1	2	62
		1年			
	特別研究基礎 別府 俊行	1学期	1	2	63
		1年			
	特別研究基礎 池田 欽一	1学期	1	2	64
		1年			
	特別研究基礎 浦野 恭平	1学期	1	2	65
		1年			
	特別研究基礎 山岡 敏秀	1学期	1	2	66
		1年			
	特別研究 1 後藤 尚久	2学期	1	2	67
		1年			
	特別研究 1 後藤 宇生	2学期	1	2	68
		1年			
	特別研究 1 藤井 敦	2学期	1	2	69
		1年			
特別研究 1 田中 淳平	2学期	1	2	70	
	1年				
特別研究 1 朱 乙文	2学期	1	2	71	
	1年				
特別研究 1 前田 淳	2学期	1	2	72	
	1年				
特別研究 1 林田 実	2学期	1	2	73	
	1年				
特別研究 1 牛房 義明	2学期	1	2	74	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■特別研究科目	特別研究 1 奥山 恭英	2学期	1	2	75
		1年			
	特別研究 1 白石 和孝	2学期	1	2	76
		1年			
	特別研究 1 西澤 健次	2学期	1	2	77
		1年			
	特別研究 1 別府 俊行	2学期	1	2	78
		1年			
	特別研究 1 池田 欽一	2学期	1	2	79
		1年			
	特別研究 1 浦野 恭平	2学期	1	2	80
		1年			
	特別研究 1 山岡 敏秀	2学期	1	2	81
		1年			
	特別研究 2 朱 乙文	1学期	2	2	82
		2年			
特別研究 2 別府 俊行	1学期	2	2	83	
	2年				
特別研究 2 浦野 恭平	1学期	2	2	84	
	2年				
特別研究 3 朱 乙文	2学期	2	2	85	
	2年				
特別研究 3 別府 俊行	2学期	2	2	86	
	2年				
特別研究 3 浦野 恭平	2学期	2	2	87	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■地域コミュニティ専攻	社会心理学 田島 司	1学期		2	88
	生涯学習論 恒吉 紀寿	1学期		2	89
	臨床心理学 田中 信利	1学期		2	90
	社会福祉援助論 小賀 久	1学期		2	91
	児童福祉論 河嶋 静代	1学期		2	92
	人間環境学 野井 英明	1学期		2	93
	文化社会学 濱野 健	1学期		2	94
	都市社会学 稲月 正	1学期		2	95
	コミュニケーション論 松尾 太加志	2学期		2	96
	教育制度論 見玉 弥生	1学期		2	97
	臨床教育学 楠 凡之	2学期		2	98
	福祉コミュニティ論 休講	2学期		2	
	高齢社会論 石塚 優	2学期		2	99
	司法福祉論 深谷 裕	2学期		2	100
	フィールドワーク論 竹川 大介	2学期		2	101

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■地域コミュニティ専攻	臨床社会学 西田 心平	2学期		2	102
	環境社会学 岩松 文代	2学期		2	
■文化・言語専攻	イギリス文学研究概論 木原 謙一 他	1学期		2	104
	アメリカ文学研究概論 前田 譲治 他	1学期		2	
	英語学研究概論 平野 圭子	1学期		2	106
	英語教育法研究概論 伊藤 健一 他	1学期		2	
	英語表現法 クレイグ・ランバート	2学期		2	108
	現代イギリス文学研究 田部井 世志子	1学期	2	2	
	イギリス文学研究 木原 謙一	1学期	2	2	110
	イギリス文化研究 アダム・ヘイルズ	2学期		2	
	アメリカ文学研究 前田 譲治	2学期		2	112
	アメリカ文化研究 吉川 哲郎	2学期		2	
	社会言語学研究 平野 圭子	2学期		2	114
	英語通訳研究 伊藤 健一	1学期	2	2	
	中国語法研究概論 王 占華	1学期		2	116

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■文化・言語専攻	中国文化研究概論 板谷 俊生	1学期		2	117
	中国思想文化研究概論 鄧 紅	1学期		2	118
	中国哲学史研究 鄧 紅	2学期		2	119
	中国語教授法研究 王 占華	2学期		2	120
	中国文化史研究 板谷 俊生	2学期		2	121
	中国古典文学研究 武井 満幹	2学期		2	122
	中国語音声学研究 平田 直子	1学期	2	2	123
	比較文化研究概論 福島 勲 他	1学期		2	124
	日本文化研究概論 佐藤 真人 他	1学期		2	125
	言語学研究概論 漆原 朗子 他	1学期		2	126
	比較文学研究概論 ダニエル・ストラック 他	1学期		2	127
	日本宗教文化研究 佐藤 真人	2学期		2	128
	日本美術史研究 五月女 晴恵	1学期	2	2	129
	日本表象文化研究 真鍋 昌賢	2学期		2	130
	比較広域文学研究 ダニエル・ストラック	2学期		2	131

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■文化・言語専攻	比較広域文化研究 岩本 真理子	1学期	2	2	132
		2年			
	ヨーロッパ比較文化研究 福島 勲	1学期		2	133
	日英比較文化研究 フィオナ・クリーサー	2学期		2	134
	日米比較文化研究 ロジャー・ウィリアムソン	2学期	2	2	135
	2年				
理論言語学研究 (形態論) 漆原 朗子	2学期		2	136	
理論言語学研究 (統語論) 葛西 宏信	1学期	2	2	137	
	2年				
■東アジア専攻	中国研究概論 堀地 明 他	1学期		2	138
	東南アジア研究概論 田村 慶子 他	1学期		2	139
	アメリカ社会史概論 寺田 由美	1学期		2	140
	アメリカ人種関係概論 北 美幸	1学期		2	141
	国際関係研究概論 大平 剛 他	1学期		2	142
現代中国政治研究 下野 寿子	2学期		2	143	
現代韓国経済研究 尹 明憲	2学期		2	144	
日本社会史研究 八百 啓介	2学期		2	145	
近代日本政治外交史研究 小林 道彦	2学期		2	146	

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
備考						
■東アジア専攻	東南アジア近現代史研究 篠崎 香織	2学期		2	147	
	東南アジア地域研究I 伊野 憲治	2学期		2	148	
	東南アジア地域研究II 田村 慶子	2学期		2	149	
	アメリカ社会史研究 寺田 由美	2学期		2	150	
	アメリカ人種関係研究 北 美幸	2学期		2	151	
	国際経済研究 魏 芳	2学期		2	152	
	国際機構研究 山本 直	2学期		2	153	
	イギリス文学研究 木原 謙一	1学期	2	2	154	
	現代イギリス文学研究 田部井 世志子	1学期	2	2	155	
	英語表現法 クレイグ・ランバート	2学期		2	156	
	アメリカ文学研究 前田 譲治	2学期		2	157	
	英語教育法研究概論 伊藤 健一 他	1学期		2	158	
	■専攻共通科目	社会システム総合概論 奥山 恭英	1学期 (ベア)	1	2	159
	■特別研究科目	特別研究基礎 田島 司	1学期	1	2	160
特別研究基礎 恒吉 紀寿		1学期	1	2	161	

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■特別研究科目	特別研究基礎	1学期	1	2	162
	松尾 太加志	1年			
	特別研究基礎	1学期	1	2	163
	見玉 弥生	1年			
	特別研究基礎	1学期	1	2	164
	田中 信利	1年			
	特別研究基礎	1学期	1	2	165
	小賀 久	1年			
	特別研究基礎	1学期	1	2	166
	河嶋 静代	1年			
	特別研究基礎	1学期	1	2	167
	楠 凡之	1年			
	特別研究基礎	1学期	1	2	168
	深谷 裕	1年			
	特別研究基礎	1学期	1	2	169
	野井 英明	1年			
特別研究基礎	1学期	1	2	170	
稲月 正	1年				
特別研究基礎	1学期	1	2	171	
竹川 大介	1年				
特別研究基礎	1学期	1	2	172	
岩松 文代	1年				
特別研究基礎	1学期	1	2	173	
クレイグ・ランバート	1年				
特別研究基礎	1学期	1	2	174	
田部井 世志子	1年				
特別研究基礎	1学期	1	2	175	
木原 謙一	1年				
特別研究基礎	1学期	1	2	176	
前田 譲治	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■特別研究科目	特別研究基礎 吉川 哲郎	1学期	1	2	177
		1年			
	特別研究基礎 平野 圭子	1学期	1	2	178
		1年			
	特別研究基礎 伊藤 健一	1学期	1	2	179
		1年			
	特別研究基礎 鄧 紅	1学期	1	2	180
		1年			
	特別研究基礎 王 占華	1学期	1	2	181
		1年			
	特別研究基礎 胡 玉華	1学期	1	2	182
		1年			
	特別研究基礎 佐藤 真人	1学期	1	2	183
		1年			
	特別研究基礎 ダニエル・ストラック	1学期	1	2	184
		1年			
	特別研究基礎 漆原 朗子	1学期	1	2	185
		1年			
特別研究基礎 葛西 宏信	1学期	1	2	186	
	1年				
特別研究基礎 堀地 明	1学期	1	2	187	
	1年				
特別研究基礎 下野 寿子	1学期	1	2	188	
	1年				
特別研究基礎 白石 麻保	1学期	1	2	189	
	1年				
特別研究基礎 金 鳳珍	1学期	1	2	190	
	1年				
特別研究基礎 尹 明憲	1学期	1	2	191	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■特別研究科目	特別研究基礎 八百 啓介	1学期	1	2	192
		1年			
	特別研究基礎 小林 道彦	1学期	1	2	193
		1年			
	特別研究基礎 篠崎 香織	1学期	1	2	194
		1年			
	特別研究基礎 伊野 憲治	1学期	1	2	195
		1年			
	特別研究基礎 田村 慶子	1学期	1	2	196
		1年			
	特別研究基礎 寺田 由美	1学期	1	2	197
		1年			
	特別研究基礎 中野 博文	1学期	1	2	198
		1年			
	特別研究基礎 北 美幸	1学期	1	2	199
		1年			
	特別研究基礎 久木 尚志	1学期	1	2	200
		1年			
特別研究基礎 五月女 律子	1学期	1	2	201	
	1年				
特別研究基礎 魏 芳	1学期	1	2	202	
	1年				
特別研究基礎 大平 剛	1学期	1	2	203	
	1年				
特別研究基礎 山本 直	1学期	1	2	204	
	1年				
特別研究 1 田島 司	2学期	1	2	205	
	1年				
特別研究 1 恒吉 紀寿	2学期	1	2	206	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■特別研究科目	特別研究 1 松尾 太加志	2学期	1	2	207
		1年			
	特別研究 1 田中 信利	2学期	1	2	208
		1年			
	特別研究 1 小賀 久	2学期	1	2	209
		1年			
	特別研究 1 河嶋 静代	2学期	1	2	210
		1年			
	特別研究 1 楠 凡之	2学期	1	2	211
		1年			
	特別研究 1 深谷 裕	2学期	1	2	212
		1年			
	特別研究 1 野井 英明	2学期	1	2	213
		1年			
	特別研究 1 稲月 正	2学期	1	2	214
		1年			
	特別研究 1 竹川 大介	2学期	1	2	215
		1年			
特別研究 1 岩松 文代	2学期	1	2	216	
	1年				
特別研究 1 クレイグ・ランバート	2学期	1	2	217	
	1年				
特別研究 1 田部井 世志子	2学期	1	2	218	
	1年				
特別研究 1 木原 謙一	2学期	1	2	219	
	1年				
特別研究 1 前田 譲治	2学期	1	2	220	
	1年				
特別研究 1 吉川 哲郎	2学期	1	2	221	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		2学期	1	2	
■特別研究科目	特別研究 1 平野 圭子	2学期	1	2	222
		1年			
	特別研究 1 伊藤 健一	2学期	1	2	223
		1年			
	特別研究 1 鄧 紅	2学期	1	2	224
		1年			
	特別研究 1 王 占華	2学期	1	2	225
		1年			
	特別研究 1 胡 玉華	2学期	1	2	226
		1年			
	特別研究 1 佐藤 真人	2学期	1	2	227
		1年			
	特別研究 1 真鍋 昌賢	2学期	1	2	228
		1年			
	特別研究 1 ダニエル・ストラック	2学期	1	2	229
		1年			
	特別研究 1 ロジャー・ウィリアムソン	2学期	1	2	230
		1年			
特別研究 1 漆原 朗子	2学期	1	2	231	
	1年				
特別研究 1 葛西 宏信	2学期	1	2	232	
	1年				
特別研究 1 堀地 明	2学期	1	2	233	
	1年				
特別研究 1 下野 寿子	2学期	1	2	234	
	1年				
特別研究 1 白石 麻保	2学期	1	2	235	
	1年				
特別研究 1 金 鳳珍	2学期	1	2	236	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■特別研究科目	特別研究 1 尹 明憲	2学期	1	2	237
		1年			
	特別研究 1 八百 啓介	2学期	1	2	238
		1年			
	特別研究 1 小林 道彦	2学期	1	2	239
		1年			
	特別研究 1 篠崎 香織	2学期	1	2	240
		1年			
	特別研究 1 伊野 憲治	2学期	1	2	241
		1年			
	特別研究 1 田村 慶子	2学期	1	2	242
		1年			
	特別研究 1 寺田 由美	2学期	1	2	243
		1年			
	特別研究 1 中野 博文	2学期	1	2	244
		1年			
特別研究 1 北 美幸	2学期	1	2	245	
	1年				
特別研究 1 久木 尚志	2学期	1	2	246	
	1年				
特別研究 1 五月女 律子	2学期	1	2	247	
	1年				
特別研究 1 魏 芳	2学期	1	2	248	
	1年				
特別研究 1 大平 剛	2学期	1	2	249	
	1年				
特別研究 1 山本 直	2学期	1	2	250	
	1年				
特別研究 2 見玉 弥生	1学期	2	2	251	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■特別研究科目	特別研究 2 小賀 久	1学期	2	2	252
		2年			
	特別研究 2 河嶋 静代	1学期	2	2	253
		2年			
	特別研究 2 田部井 世志子	1学期	2	2	254
		2年			
	特別研究 2 木原 謙一	1学期	2	2	255
		2年			
	特別研究 2 前田 譲治	1学期	2	2	256
		2年			
	特別研究 2 鄧 紅	1学期	2	2	257
		2年			
	特別研究 2 王 占華	1学期	2	2	258
		2年			
	特別研究 2 佐藤 真人	1学期	2	2	259
		2年			
	特別研究 2 大平 剛	1学期	2	2	260
		2年			
	特別研究 3 小賀 久	2学期	2	2	261
		2年			
特別研究 3 河嶋 静代	2学期	2	2	262	
	2年				
特別研究 3 田部井 世志子	2学期	2	2	263	
	2年				
特別研究 3 木原 謙一	2学期	2	2	264	
	2年				
特別研究 3 前田 譲治	2学期	2	2	265	
	2年				
特別研究 3 鄧 紅	2学期	2	2	266	
	2年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■特別研究科目	特別研究 3	2学期	2	2	267
	王 占華	2年			
	特別研究 3	2学期	2	2	268
	佐藤 真人	2年			
	特別研究 3	2学期	2	2	269
	真鍋 昌賢	2年			
	特別研究 3	2学期	2	2	270
	大平 剛	2年			
	特別研究 3	2学期	2	2	271
	田島 司	2年			

マクロ経済分析基礎 【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済分析の前提となるマクロ経済学の基礎知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ マクロ経済学の基礎理論を用いた経済分析ができるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ マクロ経済学の基礎知識を正しく活用して、現実経済の抱える問題点を正しく理解できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

マクロ経済分析基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは、経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の一つで、その主要目的は景気循環や経済成長といった諸現象の解明にある。この講義では、所得・支出モデルやIS-LMモデルといった短期のマクロ経済分析のための基礎理論を解説することで、景気循環のメカニズムに対する理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 GDPとマクロ経済循環(1) 【GDP】【付加価値】【最終財】
- 3回 GDPとマクロ経済循環(2) 【三面等価】【貯蓄投資バランス】
- 4回 GDPとマクロ経済循環(3) 【GDPデフレーター】
- 5回 所得・支出モデル(1) 【潜在的GDP】【有効需要原理】
- 6回 所得・支出モデル(2) 【均衡GDP】
- 7回 所得・支出モデル(3) 【乗数効果】【節約のパラドックス】
- 8回 所得・支出モデル(4) 【財政政策】【均衡予算乗数】
- 9回 流動性選好理論(1) 【資産選択】【貨幣と債券】【流動性】
- 10回 流動性選好理論(2) 【貨幣供給】【貨幣需要】【均衡利率】
- 11回 流動性選好理論(3) 【中央銀行】【公開市場操作】
- 12回 流動性選好理論(4) 【貨幣乗数】【コールレート】
- 13回 IS-LMモデル(1) 【IS曲線】【LM曲線】
- 14回 IS-LMモデル(2) 【財政政策】【金融政策】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(3回)・・・30%、期末試験・・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

マクロ経済分析基礎 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ミクロ経済分析基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 後藤 宇生 / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ ミクロ経済分析の理解に必要な高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 現代のミクロ経済の諸問題に関連する情報を収集し、分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ ミクロ経済分析手法を用いて、現代の諸経済問題を確認し主体的に解明できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

ミクロ経済分析基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

価格理論とその応用

教科書 /Textbooks

神取道宏 (2014) 『ミクロ経済学のカ』日本評論社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

尾山大輔・安田洋祐 (2013) 『経済学で出る数学』日本評論社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 目的と方法
2. 経済数学の初歩_微分
3. 経済数学の初歩_最適化
4. 消費者理論_合理的行動
5. 消費者理論_選好と無差別曲線
6. 消費者理論_最適化
7. 消費者理論_双対性
8. 企業理論_生産要素が1つのケース
9. 企業理論_生産要素が2つのケース
10. 企業理論_所得分配
11. 市場均衡_部分均衡
12. 市場均衡_一般均衡
13. 市場均衡_厚生経済学
14. 市場の失敗_外部性
15. 市場の失敗_公共財

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(10%)と試験(90%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ミクロ経済分析基礎 【昼】

キーワード /Keywords

計量経済分析基礎【昼】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 統計的推定検定を理解し、計量経済学の基礎を固め、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 統計ソフトを用いて、経済データを的確に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 統計的手法を用いて、経済の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

計量経済分析基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

表計算ソフト，およびいずれかの計量経済分析用ソフトウェアを学ぶ．
これを用いて，簡単な分析ができるようになることを目指す．

教科書 /Textbooks

適宜，実証分析の論文を指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて別途指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概要
- 2回 表計算ソフトを用いたデータ収集と整理
- 3回 表計算ソフトを用いたデータ分析と視覚化
- 4回 表計算ソフトを用いた回帰分析：実行方法と解釈方法
- 5回 表計算ソフトを用いた回帰分析：理論的な背景
- 6回 実証分析例(回帰分析)
- 7回 データベースソフトを用いたデータの整理
- 8回 実証分析例(パネルデータ)
- 9回 計量経済ソフトの使用：準備
- 10回 計量経済ソフトの使用：データファイル
- 11回 計量経済ソフトの使用：簡単なプログラム
- 12回 計量経済ソフトの使用：グラフ作成
- 13回 演習：データ収集，読み込み，プログラム
- 14回 演習：結果の視覚化と解釈
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中への参加 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

計量経済分析基礎 【昼】

キーワード /Keywords

財政学I【昼】

担当者名 藤 貴子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 財政や租税の理解に必要な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 財政や租税の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 財政や租税に関する高度な知識を生かして、経済の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

財政学 I

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

租税論を体系的に学ぶとともに、日本税制の形成過程や仕組みを理解し、現実の税制を理論的に考察する。そして日本税制の抱える課題とその解決策について検討する。

教科書 /Textbooks

森信茂樹『日本の税制-何が問題か』岩波書店 2010年 ¥3,456

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

住澤整『図説 日本の税制(平成26年度版)』財経詳報社 2014年 ¥2,268
三木義一『日本の税金 新版』岩波新書 2012年 ¥864
橋本恭之・鈴木善充『租税政策論』清文社 2012年 ¥3,672

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、税制の機能・役割
- 第2回 課税理論、税の転嫁と帰着
- 第3回 租税理論-包括的所得税、支出税、最適課税論
- 第4回 消費課税の類型
- 第5回 日本税制の歴史と税体系
- 第6回 所得税の概要と日本の所得税の課題
- 第7回 所得税をめぐる議論
- 第8回 社会保障と所得税
- 第9回 法人税の概要と課題
- 第10回 租税理論と所得課税
- 第11回 相続税の概要と課題
- 第12回 消費税の基本的仕組みと課題
- 第13回 地方分権と消費税
- 第14回 地方税の課題
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート40%、小テスト(2回)40%、日常の授業への取り組み20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業は、基本的に講義形式で行う。
なお、学部レベルの財政学を前提として講義を行う。適宜、学部レベルの財政学のテキストや参考文献等を参照して、復習すること。

財政学I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回、教科書を読んで予習をした上で受講すること。

キーワード /Keywords

財政 租税

地域経済論 【昼】

担当者名 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 地域経済に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 地域経済の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 地域経済に関する高度な専門知識を生かして、経済の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

地域経済論

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

到達目標は、経済活動と都市との複雑な関わりを理解できるようになることである。
都市の発生と発達についての歴史について概観し、今日の都市について理解を深めてもらいたい。
その際、都市に関わる種々の経済活動の立地の問題を導きの糸とする。

教科書 /Textbooks

授業の最初に指定する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 都市とは何か
2. 経済活動の場としての都市
3. 都市を支える人、物、情報のフロー
4. 交易と都市
5. 物財生産と都市
6. 都市化の進展
7. 工業都市から情報都市へ
8. 都市で行われる経済活動
9. 中心地論
10. 工業立地論
11. オフィス立地論
12. 都市システム論
13. コンピュータ・ネットワークと都市
14. 21世紀の都市像
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参画の態度 50%
期末試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

地域経済論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

受講者数が少数の場合は、演習形式で授業を行い試験は行わない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予備知識は不問となるよう努めます。
経済に対して強い関心を持っている方の参加を希望します。

キーワード /Keywords

経済史 【昼】

担当者名 /Instructor 土井 徹平 / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済史に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済史の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 経済史に関する高度な専門知識を生かして、経済の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

経済史

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

歴史学は過去に何があったのか、歴史的事実を知ることが目的とはしていません。それはあくまで手段であり、歴史学は過去の事実をもとに経済あるいは社会を分析し、これらを相対化し客観化することで現状認識に役立てることを目的とする社会科学です。

では、過去の事実から具体的に何が見えてくるのか。過去を知ること、いかなる現状認識が可能となるのか。本講義では、近代の産業革命を事例として、実際に経済・社会を歴史学的に分析することで、歴史学によって明らかになる諸事実を皆さんに提示していきたいと考えています。そして皆さんが、歴史を受動的に教わるのではなく、歴史を主体的に学び活用する姿勢を養える授業にしたいと思います。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「経済史」という方法論
- 第2回 「大いなる分岐」 - 経済成長の分岐点 -
- 第3回 「マルサスの罠」 - 1800年以前の経済生活 -
- 第4回 歴史人口学的見地から見た近世日本
- 第5回 産業革命の謎 - 産業革命を巡る諸言説 -
- 第6回 技術の進歩と社会制度
- 第7回 産業革命の社会的影響
- 第8回 「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」 - 近代的人格の形成 -
- 第9回 近代的な時間の誕生 - 「時は金なり」の時代 -
- 第10回 産業革命と家族経済 - 労働者家族の経済生活 -
- 第11回 個人・企業・社会 - 「企業社会」の誕生 -
- 第12回 「帝国」の役割 - 資本主義と国家 -
- 第13回 産業革命はアジアで起こり得たか
- 第14回 「近代」と「現代」の連続と断絶
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 80% 日常での授業への取り組み... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし。

経済史【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会科学としての歴史学で必要なのは、知識や記憶力ではなく、主体的に社会を分析しようとする姿勢と思考力=分析力です。知識や記憶力に自信がなく「歴史が苦手」と感じてきた方でも、歴史をもとに考える意思さえあれば、まったく問題ありませんので主体的にご参加ください。

キーワード /Keywords

経済史 社会経済史 産業革命 大いなる分岐 マルサスの罠

会計学Ⅰ【昼】

担当者名
/Instructor

白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科

履修年次
/Year

単位
/Credits

2単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 会計の理解に必要な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 会計の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 会計に関する高度な専門知識を生かして、会計の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

会計学Ⅰ

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

特に資産評価問題（資産会計）を中心に検討してみたい。伝統的な歴史的原価主義の体系で説明することが難しくなっている現代的・基本的課題について講義したいと思う。現代の混沌とした状況に財務会計はどう対応し、またどう対応すべきかについて、院生と活発に議論してみたい。会計学Ⅰでは財務会計の基礎に焦点を当てることにする。

教科書 /Textbooks

桜井久勝『財務会計講義（第16版）』（中央経済社）、桜井久勝・須田一幸『財務会計・入門（第9版）』（有斐閣）、伊藤邦雄『新・現代会計入門』（日本経済新聞出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

白石和孝『イギリスの暖簾と無形資産の会計』（税務経理協会）ほか。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 資産の評価問題（資産会計）を中心にテーマとして、テキストを輪読し、解説することにした。院生相互の活発な質疑応答を大いに期待する。
- 2回 同上
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・・・ 80% ディスカッションへの参加・・・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

会計学I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財務会計Ⅰ【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 財務会計の理解に必要な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 財務会計の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、企業会計の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

財務会計Ⅰ

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

今日の会計は、収益・費用アプローチから資産・負債アプローチへと大きく転換しようとしている。しかしながら、資産・負債アプローチといえども、その会計の論理はいまだ確立しているわけではない。従って、本講義では、日本の会計の変遷をたどりながら資産・負債アプローチとは何か、その考え方を吟味し、研究することがねらいとなる。

教科書 /Textbooks

斉藤静樹『討議資料、財務会計の概念フレームワーク』中央経済社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶應義塾大学出版会○
西澤健次『負債認識論』国元書房○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計入門
- 2回 収益・費用アプローチの歴史的経緯【取得原価主義会計】
- 3回 収益・費用アプローチの理論構成【貨幣性資産】【費用性資産】
- 4回 収益・費用アプローチの問題点【原価】【実現】
- 5回 資産・負債アプローチの概要【意思決定有用性アプローチ】
- 6回 資産・負債アプローチの理論構成【資産】【負債】【純資産】【資本等式】
- 7回 資産・負債アプローチの問題点【純利益】【包括利益】
- 8回 会計観の転換について【原価】【時価】【割引現在価値】
- 9回 旧態の会計の諸問題【企業会計原則】【企業会計基準】
- 10回 旧態の会計の存続可能性【内的整合性】
- 11回 現代会計の諸問題【退職給付会計】
- 12回 現代会計の諸問題【資産除去債務】
- 13回 IFRSの検討【減損会計】
- 14回 IFRSの検討【公正価値会計】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況・・・ 60% レポート・・・ 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

財務会計I【昼】

履修上の注意 /Remarks

本講義は、財務会計論の基礎的な思考をさらに深く吟味することを目的としているので、事前に収益・費用アプローチと資産・負債アプローチの考え方について、教科書や、参考論文、インターネットで学習しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営学Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 遠藤 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 企業経営の理解に必要な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 企業経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 企業経営に関する専門知識を生かして、経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

経営学Ⅰ

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

日本の企業経営と人事労務管理全般、ならびに各論について、十分な予習、報告と討論を通じて理解を深めていく。

教科書 /Textbooks

受講者の要望も取り入れて、1回目に決定する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

随時、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

初回：大学院生の勉強の仕方について講義。受講生の要望を聞いて、テキストを決定する。

- 第1部：企業経営と人事労務管理
- 第2部：採用から定年までの仕事
- 第3部：職場の男女平等とディーセント・ワーク
- 第4部：日本の人事労務管理、20世紀と21世紀

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容50%、討論内容50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マーケティング【昼】

担当者名 /Instructor 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ マーケティングの理解に必要な高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ マーケティングの専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ マーケティングに関する高度な専門知識を生かして、経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

マーケティング

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本科目は、学部でのマーケティングの内容をさらに深化させていくため、より高度で実践的なケース演習を中心に授業を行う。

教科書 /Textbooks

無

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

無

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション
第2~15回 ケース演習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業取組み度合によって評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営組織論 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	経営組織に関する高度な知識を修得し、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎	経営組織の諸問題・諸課題について、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	高度な専門知識を生かして、経営組織の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

経営組織論

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

企業にしろ、NPOにしろ、いずれの場合も、「組織を管理する」ことが経営の要となります。本講義では、経営組織の根本的な原理を理解することを目指します。

教科書 /Textbooks

初回に受講者と相談の上、決定したいと思います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岸田民樹編『組織論から組織学へ』文真堂、2009年。(○)
三井泉編『フォレット』文真堂、2012年。(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

本講義では、経営組織論に関する文献の輪読を通じて、到達目標で示した三点の理解を目指します。講義では、学生による報告、報告に基づく議論によって理解を深めていきます。

第1回 ガイダンス
第2回～14回 上記テキストの各章の輪読
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 30% 発表・報告内容 40% レポート提出等 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

学部において経営組織論の講義を履修していると理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

活発な議論を期待します。

キーワード /Keywords

情報管理基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 情報管理に関する高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 情報管理の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 情報管理に関する高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

情報管理基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義ではデータを管理、分析する手法について学ぶ。データ管理ではデータベースソフトを用いたデータの効率的な管理方法、利用手法について学ぶ。データ分析では表計算ソフト、統計ソフトを利用してデータの統計、多変量分析手法について学ぶ。講義と実習を併用し、講義で学んだ後、実習によって理解度を深めることとする。具体的テーマとしてはデータベースによるデータの管理、統計的仮説検定、回帰分析、イベントスタディ手法などを取り上げる。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：受講の注意、本講義で学ぶ内容の説明
- 第2回：表計算ソフトの利用
- 第3回：表計算ソフトを使った統計分析
- 第4回：データと度数分布確率変数と確率分布
- 第5回：ランダムサンプリング
- 第6回：検定
- 第7回：2グループの関係、比較
- 第8回：回帰分析
- 第9回：イベントスタディ
- 第10回：ロジットモデル
- 第11回：乱数とシミュレーション
- 第12回：データベースの設計方法、リレーショナルデータベース
- 第13回：データベースソフトの利用方法
- 第14回：クエリによるデータ抽出
- 第15回：まとめ

受講者の理解度、進行状況、希望等により内容、順番、進み方は変更になる場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

日ごろの取り組み...40%、期末試験...60%

詳細は第1回目に説明します。期末試験は期末レポートに変更する場合があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

情報管理基礎 【昼】

履修上の注意 /Remarks

基礎的内容も簡単に話しますが、学部レベルの統計学の知識は前提とします。

レポート・課題を多数回提出してもらいます。

USBフラッシュメモリを使いますので持っていない人は準備してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マクロ経済学 【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ マクロ経済に関するより高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ マクロ経済の専門家として、より高度なマクロ経済理論を用いた経済分析ができるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ より高度なマクロ経済の専門知識を生かして、現実経済の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

マクロ経済学

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

マクロ経済分析基礎（1学期開講）に引き続き、マクロ経済学の基礎理論を講義する。取り上げるテーマは、物価とマクロ経済の関係（AD-ASモデル）、伸縮価格モデル（価格や賃金が伸縮的に調整されるモデル）を分析の出発点に据える新古典派マクロ経済学の理論構造、経済成長のメカニズムなどである。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 IS-LMモデルの復習 【IS曲線】【LM曲線】【財政・金融政策】
- 3回 AD-ASモデル（1） 【総需要曲線】【総供給曲線】
- 4回 AD-ASモデル（2） 【デマンドプル・インフレ】【コストプッシュ・インフレ】【スタグフレーション】
- 5回 ケインズ体系と新古典派体系の比較：概観
- 6回 新古典派マクロ経済学（1） 【労働供給】【均衡賃金】
- 7回 新古典派マクロ経済学（2） 【自然失業率仮説】【財政政策】
- 8回 新古典派マクロ経済学（3） 【貨幣需要】【貨幣の中立性】【貨幣的景気循環】
- 9回 新古典派マクロ経済学（4） 【2期間モデル】【完全予見】
- 10回 新古典派マクロ経済学（5） 【実物的景気循環】【労働供給の分割不可能性】
- 11回 新古典派マクロ経済学（6） 【ニューケインジアン】【価格硬直性】
- 12回 新古典派成長理論（1） 【潜在的GDP】【マクロ生産関数】【成長会計】
- 13回 新古典派成長理論（2） 【新古典派成長理論】
- 14回 新古典派成長理論（3） 【収束】【内生的成長理論】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト（3回） 30% 期末試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

マクロ経済学 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ミクロ経済学 【昼】

担当者名 /Instructor 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ ミクロ経済に関するより高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ ミクロ経済の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ ミクロ経済分析手法を用いて、現代の諸経済問題を確認し主体的に解明できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

ミクロ経済学

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義では、具体的なミクロ経済学の展開について学習し、ミクロ経済分析の論理と方法について理解する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ミクロ経済学と数学
- 2回 不完全競争の経済分析(1)：【独占】、【価格差別】
- 3回 不完全競争の経済分析(2)：【クールノー・ナッシュ均衡】
- 4回 不完全競争の経済分析(3)：【寡占】、【独占的競争】
- 5回 不完全競争の経済分析(4)：まとめ
- 6回 不確実性と情報の経済分析など(1)：【不確実性】、【リスク】、
- 7回 不確実性と情報の経済分析など(2)：【逆選択】【道徳的危険】
- 8回 不確実性と情報の経済分析など(3)：【情報】、【シグナル】
- 9回 不確実性と情報の経済分析など(4)：まとめ
- 10回 ゲーム理論とミクロ経済分析(1)：ゲームの種類、ゲームの均衡概念
- 11回 ゲーム理論とミクロ経済分析(2)：【非協力ゲーム】【同時ゲーム】
- 12回 ゲーム理論とミクロ経済分析(3)：【逐次ゲーム】
- 13回 ゲーム理論とミクロ経済分析(4)：【協力ゲーム】
- 14回 ミクロ経済分析の応用
- 15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度 30% レポートもしくはテスト 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業内容を理解するために、ミクロ経済学の基礎知識を修得しておくこと。

ミクロ経済学 【昼】

キーワード /Keywords

不完全競争、不確実性、情報、ゲーム理論

財政学Ⅱ 【昼】

担当者名 /Instructor 藤 貴子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 財政と租税の理解に必要なより高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 財政と租税の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 財政と租税のより高度な専門知識を生かして、経済の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

財政学Ⅱ

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

日本では、2014年4月より消費税率が5%から8%引き上げられ、消費税収は所得税収を上回ると見込まれている。経済のグローバル化は、各国の租税政策に大きな影響を与えており、このような所得税の地位低下は日本に限るものではない。この授業では、重要性を増す消費課税について、その理論的論拠とされる支出税の理論と思想を検討するとともに、最適課税論に基づく税制の包括的提案書であるマーリーズ報告を概観し、現代税制の将来展望を考察する。

教科書 /Textbooks

宮本憲一・鶴田廣巳・諸富徹編著『現代租税の理論と思想』有斐閣 2014年 ¥4,536

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

宮島洋『租税論の展開と日本の税制』日本評論社 1986年 ¥3,680
 八田達夫『消費税はやはりいらない』東洋経済新報社 1994年 ¥1,836
 宮本憲一・鶴田廣巳編著『所得税の理論と思想』税務経理協会 2001年 ¥3,564

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、消費課税について
- 第2回 支出税の理論と思想について概論
- 第3回 現代支出税論の源流(ホプズ・ミル・ピグー)
- 第4回 アーヴィング・フィッシャーの『支出税』の特徴と意義
- 第5回 カルドア『総合消費税』の理論と特徴
- 第6回 ウィリアム・ヴィックリーの支出税論
- 第7回 カーター報告の現代的意義
- 第8回 アンドリュースによる『現代的支出税』構想
- 第9回 ミード報告とイギリス型支出税
- 第10回 アメリカの消費ベース課税思想
- 第11回 古典的支出税論と現代的支出税論まとめ
- 第12回 経済活動のグローバル化と法人課税(マーリーズ・レビュー)
- 第13回 現代付加価値税の論理と課題(マーリーズ・レビュー)
- 第14回 課税ベースの選択と現代租税論の課題
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート40%、小テスト(2回)40%、日常の授業への取り組み20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

財政学II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業は、基本的に講義形式で行う。

なお、学部レベルの財政学を前提として講義を行う。適宜、学部レベルの財政学のテキストや参考文献等を参照して、復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回、教科書を読んで予習をした上で受講すること。

キーワード /Keywords

財政 租税

金融論【昼】

担当者名 /Instructor 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 金融の理解に必要な高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 金融の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 金融に関する高度な専門知識を生かして、経済の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

金融論

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

バブル経済とその崩壊から平成不況、また現在まで、「金融」に関する諸事情は日本経済の大きな問題として取り扱われており、その知識への需要は高まりを見せている。金融論では、金融の知識を広く習得することを目的としている。とくに、講義の前半は、日本の金融制度を概観しながら、その特徴を把握し、わが国の金融制度の長所・短所を踏まえ、今後の金融のあり方を学習する。講義の後半では、不良債権処理問題やBIS規制導入による銀行経営の変化について、研究者による研究内容を紹介しながら、日本の金融システムの長所・短所を理解することを目的とする。また、近年問題となっている郵政民営化やサブプライムローン問題も取り上げ解説する。

教科書 /Textbooks

講義前半(1回～15回)：藤原・家森編著『金融論入門』中央経済社
後半(16回～30回)：とくに無し

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくに無し

金融論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 金融とは
- 2回 金融市場の基礎知識【短期金融市場】【長期金融市場】
- 3回 家計の金融活動【資産選択】
- 4回 家計の金融活動【負債】
- 5回 企業の金融活動【MM定理】
- 6回 企業の金融活動【株式による資金調達】【負債による資金調達】
- 7回 わが国の銀行【銀行の業務】【銀行と類似した金融機関】
- 8回 わが国の銀行【メインバンクシステム】
- 9回 金融仲介の理論【情報の非対称性】【逆選択】【モラルハザード】
- 10回 金融仲介の理論【債務超過問題】【出資契約】【債務契約】
- 11回 貨幣について【貨幣の役割】【マネーサプライ】
- 12回 中央銀行について【中央銀行の役割】【中央銀行の独立性】
- 13回 プルーデンス政策【銀行業の規制】【破綻処理】
- 14回 マクロ金融政策【金融政策の手段】
- 15回 マクロ金融政策【金融政策の波及経路】
- 16回 オーバーバンキング【日本の資金循環】
- 17回 オーバーバンキング【オーバーバンキングが経済に及ぼす影響】
- 18回 不良債権処理問題【不良債権処理方法】
- 19回 不良債権問題【不良債権処理が遅れた理由】
- 20回 BIS規制と会計操作【BIS規制と不良債権処理】
- 21回 BIS規制と会計操作【公表自己資本比率の問題点】
- 22回 BIS規制と会計操作【BIS規制と公的資金資金注入】
- 23回 オーバーバンキングとデフレ【デフレ経済の問題点】
- 24回 オーバーバンキングとデフレ【デフレ経済と不良債権】
- 25回 郵政民営化【郵政民営化がなぜ必要であったか】
- 26回 郵政民営化【郵政民営化の問題点】
- 27回 郵政民営化【郵政民営化と金融政策】
- 28回 サプライム問題【サプライム問題とは】
- 29回 サプライム問題【証券化の問題点】
- 30回 サプライム問題【証券化の今後】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

レジュメを学習支援フォルダーから入手しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際金融論 【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 国際金融システムの枠組みと運動法則に関する専門的な知識を身につけ、国際金融の諸現象を深く洞察し、それらの原因と影響を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 国際金融関係の文献資料や情報・データを収集し、内容を適切に分析・加工・利用することができるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 国際金融に関する知識を常に求め、国際金融システムが直面する諸課題に対して、分析と思索と提言を行う態度を身につけることができるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

国際金融論

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

現代の国際金融システムの基本的な枠組みと運動メカニズムを学ぶ。さらに、国際通貨・金融危機の原因とその対処など、国際金融システムが直面する諸課題について、学習する。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 円高・円安とは 【クロスレート】
- 2回 為替レートによる換算 【実質為替レート】 【実効為替レート】
- 3回 国際収支表の概要 【経常収支】
- 4回 国際収支表における複式簿記の原理 【貸借対照表】
- 5回 並為替と逆為替 【コルレス銀行】
- 6回 荷為替信用制度と決済 【信用状】
- 7回 グローバル化と直接投資 【投資収支】
- 8回 国際証券投資と外貨準備 【対外資産・負債】
- 9回 為替レートを左右するもの 【アセットアプローチ】
- 10回 為替レートの変動が与える影響 【マーシャル・ラーナー条件】
- 11回 経常収支を左右するもの 【ISバランス】
- 12回 国際資本移動を左右するもの 【キャリー取引】
- 13回 基軸通貨と国際通貨体制 【為替媒介通貨】
- 14回 国際通貨・金融危機の原因 【国際資本移動】
- 15回 危機の予防と対処 【IMFコンディショナリティー】 【プルーデンス政策】

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況で評価する(100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際金融論 【昼】

キーワード /Keywords

産業組織論 【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 実証的産業組織論で利用されるモデル、統計手法を理解、運用し、経済問題の解決に貢献できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 国際的な学術雑誌を詳細に読むことを通じて、先行研究の情報を有益に利用できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 企業行動、企業間競争、政府による規制等を経済学、ゲーム理論、統計解析を通じて、分析・理解し、改善案を提案できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

産業組織論

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

現在の産業組織論は、実証分析が中心である。実証手法として、構造推定が使用される。
この講義では、初歩的な手法を学んだ後、需要関数(差別化された財と集計されたデータ)の推定を学ぶ。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Kenneth Train. 2009. Discrete Choice with Simulation. 2nd. Cambridge University Press.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 実証分析と統計解析ソフト(Stata等)/数値解析ソフト(Matlab)について
2. 線形回帰モデル
3. 線形回帰モデル_ダミー変数
4. 線形回帰モデル_系列相関と分散不均一性
5. 線形回帰モデル_内生問題への対処
6. 学生報告
7. パネル分析
8. パネル分析
9. 学生報告
10. 離散選択モデル
11. 離散選択モデル
12. 学生報告
13. 需要関数の推定
14. 需要関数の推定_入れ子型ケース
15. 学生報告

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

統計学、計量経済学、微積分学、線形代数の知識が必要

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

産業組織論 【昼】

キーワード /Keywords

統計学 【昼】

担当者名 /Instructor 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 統計学の幅広い高度な知識を身につけ、応用できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 統計学の推定、検定を利用して、経済・経営分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 統計学を通じて、科学的な思考ができるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

統計学

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

統計的な推定、検定の数理的な基礎を学ぶ。確率と確率分布の概念を学習した後、同時分布の定義とそれにかかわる条件付分布、独立性などを学ぶ。さらに代表的な分布である、二項分布、ポアソン分布、ガンマ分布、正規分布、二変数正規分布に習熟する。また、簡単な漸近分布についても学習し、最後に、統計的な推定、検定の理論を習得する。

到達目標

- ① 統計的推定と検定を理解する。
- ② 正規分布をはじめとする密度関数の性質を理解する。
- ③ 漸近分布の概念を理解する。

教科書 /Textbooks

林田実『サイコロを振って、統計学』創成社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

R. V. Hogg and A. T. Craig, Introduction Mathematical Statistics, fifth edition, Prentice Hall, 1995.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 離散型確率変数
- 2 連続型確率変数
- 3 離散型確率変数の同時分布
- 4 連続型確率変数の同時分布
- 5 二項分布
- 6 ポアソン分布
- 7 ガンマ分布
- 8 正規分布
- 9 二変数正規分布
- 10 漸近分布
- 11 点推定
- 12 区間推定
- 13 統計的検定の初歩
- 14 一様最強力検定
- 15 尤度比検定

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の成績による (100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

統計学 【昼】

履修上の注意 /Remarks

高校数学Cの確率統計を既習していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

推定、検定、正規分布、漸近分布

計量経済学【昼】

担当者名 /Instructor 藤井 敦 / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 計量経済学の理解に必要な高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 経済の専門家として、必要な情報を収集し、計量経済学的分析を行えるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 経済の問題・現象と数量的な分析を関連付けられるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

計量経済学

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

実証分析の論文を読み、経済理論をどのようにして実際のデータで分析するのかを学ぶ。理論モデルに合わせた計量モデルの構築、データの収集とその検討、計量モデルの推定と検定、統計分析結果の報告の仕方と解釈、政策的合意の導出までの一定のプロセスを実例を用いて経験することが目的である。余裕があれば、コンピュータを用いた簡単な分析を体験する。

教科書 /Textbooks

適宜，実証分析の論文を指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて別途，指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コースアウトライン、問題の背景→統計モデルの設定→推定・検定→解釈のシンプルな例を紹介
- 2回 回帰分析による実証分析：なぜ回帰分析を用いなければならないのか
- 3回 回帰分析による実証分析：回帰分析からどのような結論を引き出せるか
- 4回 パネルデータによる実証分析：なぜ通常の回帰分析ではだめなのか
- 5回 パネルデータによる実証分析：理論的な特徴と応用事例との関係
- 6回 パネルデータによる実証分析：パネルデータ用モデル特有の統計的推測
- 7回 多項ロジットモデルによる実証分析：なぜ通常の回帰分析ではだめなのか
- 8回 多項ロジットモデルによる実証分析：理論的な特徴と応用事例との関係
- 9回 多項ロジットモデルによる実証分析：多項ロジットモデル特有の統計的推測
- 10回 カウントデータモデルによる実証分析：なぜ通常の回帰分析ではだめなのか
- 11回 カウントデータモデルによる実証分析：理論的な特徴と応用事例との関係
- 12回 カウントデータモデルによる実証分析：どのような結論を引き出せるか
- 13回 VARによる実証分析：通常の計量経済学モデルとどこが違うか
- 14回 VARによる実証分析：どのような結論を引き出せるか
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

論文を読んで発表 ... 80%， 授業中のディスカッションへの参加 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

計量経済学 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

労働経済学 【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 労働経済に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 労働経済の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、労働経済の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

労働経済学

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

近年、経済組織における人事マネジメントについて経済学的視点から分析を行う「人事の経済学(Personnel Economics)」が発展している。本講義では、1学期の労働経済学研究の延長として、特に組織制度に注目しながら、チームによる仕事や職務と権限の構造などを学ぶ。講義形態はテキストの輪読およびディスカッションといった演習形式を基本とする。人事制度や組織制度を経済合理性の観点から議論するための方法を獲得することが目標とする。

教科書 /Textbooks

『人事と組織の経済学』, エドワード P. ラジャー著 (樋口美雄・清家篤訳), 日本経済新聞社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 社内における利害行動【社内競争】
- 第2回 年功型インセンティブ制度【賃金プロファイル】
- 第3回 チーム(1)【チーム】
- 第4回 チーム(2)【チームインセンティブ】
- 第5回 特殊な雇用関係・契約【アウトソーシング】【フランチャイズ】
- 第6回 金銭的インセンティブ【ボーナス】【ペナルティ】
- 第7回 非金銭的インセンティブ【非金銭的報酬】
- 第8回 付加給付【カフェテリア方式】
- 第9回 付加給付【年金給付】
- 第10回 職務と権限【職務権限構造】
- 第11回 評価(1)【人事評価】
- 第12回 評価(2)【評価利用】
- 第13回 労働者の権限強化(1)【意思伝達】
- 第14回 労働者の権限強化(2)【権限強化】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の取り組み 70%, レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

輪読形式を基本とするため、予めテキストを読んでおくことが必要である。

労働経済学 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境経済学 【昼】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 環境問題を経済分析するのに必要な高度な専門的知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 環境経済学における経済理論モデルの理解、実証分析ができるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 現在直面する環境問題の課題の抽出、解決策の提案ができるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

環境経済学

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義では、環境経済学、エネルギー経済学に必要な経済理論の習得と関連分野における最近の研究動向の理解を目標とする。前半は、市場の失敗による環境問題の発生メカニズム、環境税、排出権取引、環境評価などの環境政策の理論や実証分析に関する解説を講義形式で行う。後半は、近年注目されている再生可能エネルギー、スマートグリッド、スマートコミュニティに焦点をあて、最新の関連論文を紹介する。

到達目標は以下のとおりです。

- ・ 経済理論を理解することで、環境問題、エネルギー問題の経済分析に関する学術論文を読む基礎学力を身につける。
- ・ 環境問題、エネルギー問題の経済分析に関する動向を把握できるようになる。

教科書 /Textbooks

受講者と相談して決める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

N. ハンレー、B. ホワイト、J. ショグレン 『環境経済学—理論と実践』 勁草書房 2005年○
岡敏弘 『環境経済学』 岩波書店 2006年○
環境経済・政策学会編 『環境経済・政策学の基礎知識』 有斐閣 2006年○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 環境経済学、エネルギー経済学の概要と講義の説明
- 2回 ミクロ経済学の復習1 【効用最大化モデル】、【利潤最大化モデル】
- 3回 ミクロ経済学の復習2 【余剰分析】、【部分均衡分析】
- 4回 ミクロ経済学の復習3 【外部性】、【公共財】
- 5回 環境政策の経済分析1 【直接規制】、【経済的手法】
- 6回 環境政策の経済分析2 【自発的なアプローチ】、【ポリシーミック】
- 7回 地球温暖化の経済分析 【排出権取引】、【環境税】
- 8回 廃棄物の経済分析 【廃棄物課税】、【デポジット制】
- 9回 環境評価 【仮想評価法】、【コンジョイント法】
- 10回 再生可能エネルギーの経済分析1 【FIT】、【RPS】
- 11回 再生可能エネルギーの経済分析2 【分散型発電】、
- 12回 スマートグリッドの経済分析1 【デマンドレスポンス】
- 13回 スマートグリッドの経済分析2 【HEMS】、【BEMS】、【CEMS】
- 14回 最近の研究動向の紹介
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の発言 (25%)、発表 (25%)、期末試験 (50%)

環境経済学 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

学部レベルのミクロ経済学、マクロ経済学、線型代数、微積分の知識を前提に講義を進めるので、事前に経済学、数学の復習をしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

応用地域科学 【昼】

担当者名 /Instructor 岡山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 地域科学に関する高度な知識を修得し、複雑化する地域経済の諸課題を分析できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 地域科学の専門家として、必要なデータ・情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、地域経済の抱える課題を深く考察し解決の方策を探ることができるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

応用地域科学

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義では、「地域科学」(Regional Science) についての理解と認識を深め、その有効範囲と限界をわきまえたうえで、施策志向に基づく有意な政策提言等が可能となるような応用能力を習得することにある。ここで「地域科学」とは、その創始者であるウォルター・アイサード教授によれば、「ある1つの学問領域としての地域科学とは、地域と空間の次元をもった社会問題について、分析的で、しかも経験的な研究の多様な結合によって、注意深く、しかも忍耐強く調査研究を試みるものである」という。

教科書 /Textbooks

Isard et al. Methods of Interregional and Regional Analysis (1998) Ashgate

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN・ガイダンス
- 2回 地域科学とは
- 3回 分析対象としての地域概念の検証
- 4回 地域経済分析の基礎 1
- 5回 地域経済分析の基礎 2
- 6回 地域経済分析の基礎 3
- 7回 産業連関分析の基礎 1
- 8回 産業連関分析の基礎 2
- 9回 産業連関分析の基礎 3
- 10回 産業連関分析—地域産業連関表
- 11回 産業連関分析—地域間産業連関表
- 12回 産業連関分析—政策分析への応用 1
- 13回 産業連関分析—政策分析への応用 2
- 14回 産業連関分析—より高度なテクニク
- 15回 期末レポート発表および討論

成績評価の方法 /Assessment Method

授業時の学習態度、20% : レポート発表、30% : レポートの内容、50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

学部レベルのミクロ経済学およびマクロ経済学、さらには微分積分や線形代数の知識を推奨する。統計的手法や計量経済学の知識は有効。

応用地域科学 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域科学は空間を扱う実践的な学問です。計量分析中心ですがその応用範囲は大変広く、将来的にも大変役立つ学問領域です。

キーワード /Keywords

会計学Ⅱ【昼】

担当者名
/Instructor

白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科

履修年次
/Year単位
/Credits

2単位

学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

演習

クラス
/Class対象入学年度
/Year of School Entrance

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
										○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 会計の理解に必要なより高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 会計の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 会計に関するより高度な専門知識を生かして、会計の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

会計学Ⅱ

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

特に資産評価問題（資産会計）を中心に検討してみたい。伝統的な歴史的原価主義の体系で説明することが難しくなっている現代的・基本的課題について講義したいと思う。現代の混沌とした状況に財務会計はどう対応し、またどう対応すべきかについて、院生と活発に議論してみたい。会計学Ⅱではより高度な会計学の専門的内容を取り扱うことになる。

教科書 /Textbooks

桜井久勝『財務会計講義（第16版）』（中央経済社）、伊藤邦雄『新・現代会計入門』（日本経済新聞出版社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

白石和孝『イギリスの暖簾と無形資産の会計』（税務経理協会）ほか。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 資産の評価問題（資産会計）を中心テーマとして、テキストを輪読し、解説することにした。院生相互の活発な質疑応答を大いに期待する。
- 2回 同上
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・・・ 80% ディスカッションへの参加・・・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

会計学II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財務会計Ⅱ【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 財務会計に関するより高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 財務会計の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 財務会計に関するより高度な専門知識を生かして、企業会計の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

財務会計Ⅱ

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

今日の会計は、収益・費用アプローチから資産・負債アプローチへと大きく転換しようとしている。しかしながら、資産・負債アプローチといえども、その会計の論理はいまだ確立しているわけではない。従って、本講義では、日本の会計の変遷をたどりながら資産・負債アプローチとは何か、その考え方を吟味し、研究することがねらいとなる。

教科書 /Textbooks

斉藤静樹『討議資料、財務会計の概念フレームワーク』中央経済社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶應義塾大学出版会○
西澤健次『負債認識論』国元書房○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務報告の目的【財務報告】
- 2回 「財務報告の目的」の検討【情報の非対称性】
- 3回 会計情報の質的特性【意思決定有用性】
- 4回 「会計情報の質的特性」の検討【関連性】【内的整合性】【信頼性】
- 5回 財務諸表の構成要素【資産】【負債】【純資産】
- 6回 「財務諸表の構成要素」の検討【資本等式】
- 7回 財務諸表における認識と測定(その1)【認識】
- 8回 財務諸表における認識と測定(その2)【測定】
- 9回 「財務諸表における認識と測定」の検討(その1)【写像】【築像】
- 10回 「財務諸表における認識と測定」の検討(その2)【定量化】【定性化】
- 11回 財務報告の問題点(その1)【財務報告】【非財務報告】
- 12回 財務報告の問題点(その2)【純利益】【包括利益】
- 13回 概念フレームワークと実証研究【実証性】
- 14回 財務報告とその他の重要な論点【会計基準】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況・・・ 60% レポート・・・ 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本講義は、財務会計論の基礎的な思考をさらに深く吟味することを目的としているので、事前に収益・費用アプローチと資産・負債アプローチの考え方について、教科書や、参考論文、インターネットで学習しておくことが望ましい。

財務会計II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

管理会計【昼】

担当者名 /Instructor 梅澤 俊浩 / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 管理会計の理解に必要な高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 管理会計の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 管理会計に関する高度な専門知識を生かして、会計や経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

管理会計

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

この授業では、企業評価や契約における会計の役割を検討する。

基本的に、指定テキストの各章を、1章につき2コマ使って、輪読(精読)する予定である。
各章の担当者には、レジユメを作成の上、パワーポイントで説明をしてもらう。

教科書 /Textbooks

Christensen, J.A. and J.S. Demski. 2003. Accounting Theory: An information content perspective. MCGRAW HILL.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の方針、内容や評価についての説明
- 2回 Chapter 1: Introduction
- 3回 Chapter 2: The reporting organization
- 4回 Chapter 2: The reporting organization
- 5回 Chapter 3: Classical foundation
- 6回 Chapter 3: Classical foundation
- 7回 Chapter 4: Accounting foundation
- 8回 Chapter 4: Accounting foundation
- 9回 Chapter 5: Modeling information
- 10回 Chapter 5: Modeling information
- 11回 Chapter 6: Information use at the individual level
- 12回 Chapter 6: Information use at the individual level
- 13回 Chapter 7: The accounting system as an information channel
- 14回 Chapter 7: The accounting system as an information channel
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(授業中の発言など) ... 50% 報告 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

管理会計【昼】

履修上の注意 /Remarks

学部レベルの会計関連科目およびミクロ経済学関連科目は履修済みであること。
ミクロ経済学ベースの会計なので、「ミクロ経済分析基礎」および「コーポレート・ファイナンス」を履修済みであること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営学Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 遠藤 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	企業経営に関するより高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○	企業経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	企業経営に関するより高度な専門知識を生かして、経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

経営学Ⅱ

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

日本の企業経営について考えていく。入念な予習に基づく受講者の報告の後、毎回のテーマについて議論し、理解を進化させていく。

教科書 /Textbooks

事例研究が中心となるため教科書は使用しない。テーマに関する資料・論文を随時、配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：オリエンテーション
第2～15回：日本企業のうち、過去20年間に成功した企業と失敗した企業を取り上げ、成功と失敗の要因を探索していく。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容50%、討論内容50%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営戦略論 【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経営戦略に関する高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 経営戦略の策定に寄与する情報の収集・分析手法、戦略計画の立案・評価の手法を身につけることができるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門的な知識にもとづいて、経営戦略に関わる課題解決に主体的に取り組むことができるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

経営戦略論

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義では、経営戦略論の基本的な考え方を理解してもらい、それに基づいて経営戦略策定・実行に関する理論を体系的に示すとともに、事例研究を行います。
本講義の受講をつうじて、さまざまな企業経営や社会に関する諸問題を解決するために必要とされる、経営戦略についての知識を身に付けることをねらいとしています

教科書 /Textbooks

講義はレジュメを中心に進めますが、事例の検討に使用するため、以下の文献をテキスト（必携本）に指定します。
東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学[新版]』有斐閣、2008年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

浅羽茂・牛島辰男『経営戦略をつかむ』有斐閣、2010年。(○)
大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智『経営戦略〈新版〉-論理性・創造性・社会性の追求-』有斐閣、1997年。(○)
井上善海・佐久間信夫編『よく分かる経営戦略論』ミネルヴァ書房、2008年。
石井淳三・奥村昭博・加護野忠男・野中郁次郎『経営戦略論(新版)』有斐閣、1996年。(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスおよび「経営戦略とは」
- 第2回 経営戦略論の議論の歴史1【成熟化とイノベーション】、【多角化の戦略】
- 第3回 経営戦略論の議論の歴史2【競争の戦略】、【プロセス戦略論】、【RBV】
- 第4回 ドメインの定義【事業構造の転換】、【ドメインギャップ】
- 第5回 事業ポートフォリオの選択【関連・非関連型】、【シナジー効果】、【コアコンピタンス】
- 第6回 新規事業分野への進出【社内ベンチャー】、【提携】、【M&A】
- 第7回 プロダクトポートフォリオマネジメント【PPM】、【PLC】、【経験曲線】、【マトリックス】
- 第8回 競争の戦略1【5フォースズ】、【基本戦略】、【バリューチェーン】。
- 第9回 競争の戦略2【市場地位】、【リーダー】、【チャレンジャー】、【ニッチャー】、【フォロアー】
- 第10回 事例研究【競争戦略】、【差別化】、【ビジネス・モデル】
- 第11回 ビジネスシステム戦略【ビジネスシステム】、【設計と情報・資源】
- 第12回 経営戦略と組織1【組織形態】、【事業部制組織】、【マトリックス組織】
- 第13回 経営戦略と組織2【組織革新】、【組織学習】、【知識創造】。
- 第14回 事例研究【組織文化】、【組織構造】、【インセンティブシステム】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験の結果（80％）と学期中の小レポートの結果（20％）によります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

経営戦略論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

「マネジメント論基礎」で受講した内容を復習しておいて下さい。
前期に「経営組織論」を履修しておくこと、より学習効果が上がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習・復習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 イノベーション 組織変革

コーポレート・ファイナンス【昼】

担当者名 /Instructor 松本 守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ コーポレート・ファイナンスに関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ コーポレート・ファイナンス理論に基づいて、企業行動を定量的に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ コーポレート・ファイナンス理論の観点から、企業経営で生起する諸問題の課題を設定し、それらの問題を分析し、解決策を考えることができるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

コーポレート・ファイナンス

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義は、欧米のビジネススクールで定評のあるテキストを輪読し、コーポレート・ファイナンスの基礎概念と主要なトピックを学習します。

教科書 /Textbooks

Richard Brealey , Stewart Myers , Franklin Allen ,Principles of Corporate Finance 10th,McGraw Hill Higher Education,2010.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Stephen A. Ross, Corporate Finance ,McGraw-Hill Higher Education.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 Goals and Governance of the Firm
- 第3回 How to Calculate Present Values
- 第4回 Valuing Bonds
- 第5回 The Value of Commons Stocks
- 第6回 Net Present Value and Other Investment Criteria
- 第7回 Making Investment Decisions with the Net Present Value Rule
- 第8回 Introduction to Risk and Return
- 第9回 Portfolio Theory and the Capital Asset Pricing Model
- 第10回 Risk and the Cost of Capital
- 第11回 Agency Problems, Compensation, and the Performance Measurement
- 第12回 Efficient Markets and Behavioral Finance
- 第13回 How Corporations Issue Securities
- 第14回 Payout Policy
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...50% 授業への貢献度など(報告・発言・レポートなど)...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

学部レベルの「ミクロ経済学」・「統計学・計量経済学」・「会計学(財務会計・管理会計)」の知識を前提とします。不安がある場合はしっかり復習しておいて下さい。
参加者は毎回報告の義務があります(毎回レポートを課します)。また、授業中に何も発言しない人(自発的に発言しない人)には単位を与えません。

コーポレート・ファイナンス【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人的資源管理 【昼】

担当者名 /Instructor 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 人的資源管理の理解に必要な高度専門的知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 人的資源管理の理論と実践に関して、必要な情報を収集し、適切に分析できる技能を形成できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門的知識を活かし、現実の企業における人的資源管理の課題に対する関心を継続的に持ち、課題を主体的に解決できるようになる。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		人的資源管理

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義では、企業におけるヒトに対するマネジメントに関する諸問題について、その諸制度および企業組織管理との関連において考察していきます。組織はいかに優秀な人材を確保し、いかに人材の能力を引き出し、どうすれば人はその能力を組織の中で発揮するのかということを様々な側面から考えています。それらの目的を達成するための仕組みが人的資源管理です。本講義ではとりわけ日本の大企業における人的資源管理について、制度的側面に焦点を当てながら論究します。

扱う領域は学部講義である「人的資源管理論」と重複しますが、大学院講義では人的資源管理に関連する研究潮流がどうなっているのかについても議論したく、学術的研究の動向にウェイトを置いた議論を展開したいと考えています。

教科書 /Textbooks

受講者の学習水準に合わせて選定したいが、現時点では、下で挙げている奥林・原田(2014)の使用を検討している。ただし、それを用いるか否かは講義の第1回の話し合いで決定するので、必ず出席してほしい。

なお、昨年度は下記参考書に掲載されている奥林他編(2009)を指定した。この教科書はやや難しいかもしれないが、それでも学部向けの内容となっている。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

奥林康司・原田順子(2014)『人的資源管理』放送大学教育振興会。

岩出 博(2013)『Lecture人事労務管理(増補版)』泉文堂。

白木三秀編(2013)『人的資源管理の基本(第3版)』文真堂。

上林憲雄・厨子直之・森田雅也(2010)『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣。

奥林康司・上林憲雄・平野光俊編(2009)『入門人的資源管理(改訂版)』中央経済社。

※奥林編(2009)は昨年度の指定教科書である。大学院レベルとしては少々易しいかもしれない。

※別途、各回において論文を配布する。

人的資源管理 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、人的資源管理研究概論
- 2回 経営学研究における人的資源管理研究の位置づけ【企業経営】【人的資源】
- 3回 組織行動論の研究【モチベーション】【リーダーシップ】
- 4回 職務設計論の研究【分業】【調整】
- 5回 人事等級制度の研究【職能資格制度】【職務等級制度】
- 6回 雇用管理の研究【終身雇用】【雇用の流動化】
- 7回 人材育成の研究【キャリア】【OJT】
- 8回 人事考課の研究【人事考課】【目標管理】
- 9回 賃金制度の研究【年功賃金】【成果主義賃金】
- 10回 労使関係論研究【企業別組合】【個別的労使関係】
- 11回 人材ポートフォリオの研究【非正社員】
- 12回 ダイバーシティ・マネジメントの研究【ダイバーシティ】【再雇用制度】
- 13回 ワーク・ライフ・バランスの研究【WLB】
- 14回 人的資源管理学説の先端研究【戦略的人的資源管理論】
- 15回 まとめ

各回のテーマは教科書的な流れで配列しているが、内容は専門的な論文を読む形で進めるため、基礎的な内容は修得しているものとして本科目を進める。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・・・25%（配布した論文についてレジュメを作成・報告してもらう。学期中における1人あたり報告回数は受講者により変動するので、報告回数が多いのほかに多くなることはあらかじめ承されたい。）

中間レポート・・・50%（4,000字程度のレポートを3回課す。1回でも提出しなかった場合は不可とする。）

最終レポート・・・25%（4,000字～6,000字を予定）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- (1) 事前に配布された論文は必ず読んでくること。
- (2) 講義は日本語で行なう。
- (3) 大学院講義であるから、経営学に関する基礎知識はあるものとして講義を進める。ただ、学部のあるときに当該科目を履修した経験がないからといって、本科目の履修を認めないわけではない。ただし、人的資源管理の初学者にはかなり難しい内容になることに留意されたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者は比較的少人数になることが予想されるので、講義内容は相談のうえ若干変更する可能性がある。
人的資源管理研究を専門としない学生でも、経営学専攻の学生であれば受講が十分に可能である。とはいえ、人的資源管理に関する最低限の基礎知識はあることを前提として講義を進めたい。

キーワード /Keywords

人的資源管理、組織行動、労使関係

企業論【昼】

担当者名 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 企業論の理解に必要な高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 企業経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 企業論に関する高度な専門知識を生かして、経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

企業論

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

近年、盛んに議論されている企業統治（コーポレートガバナンス）論について学習及び研究していく。なかでも、「純粹持株会社とコーポレートガバナンス」というテーマで研究していく。

1700年代後半、早くもアダム・スミスは、その著『国富論』において、株式会社とは無責任な会社であると警告していた。出資者たる株主および雇われ経営者も会社経営に無頓着であると。その後も、こうした警告・注意は、ある意味で途絶えることはなかった。我が国において戦後、順調にその軌跡を展開した日本企業もバブル崩壊後、大転換・再編を迫られた。同時に、この大転換の中にあつて、出資者・経営者・会社間のバランスを根源的に問題にする企業統治（コーポレートガバナンス）論が盛んとなること自体、当然のことでもあった。

なかでも、1997年に持株会社が解禁され、親会社と子会社との間に新たな関係が展開されている。いわゆる戦略本社としての親会社と経営の現場としての子会社との関係。しかし、子会社の株主は基本的に一人株主たる親会社である。では、この親会社は、子会社が発生せしめたトラブル・問題・企業不祥事等にどのように、対応するのであろうか。ここに、企業統治（コーポレートガバナンス）問題の新たな局面がある。

授業では、こうした持株会社にかかわる企業統治（コーポレートガバナンス）問題を学習・研究していく。

研究テーマに応じた参考文献を担当者が紹介・指示するとともに、受講者が参考文献一覧を作成し、その中から必要な文献を順次講読・検討していく。

教科書 /Textbooks

下谷正弘の持株会社に関する文献3冊(人数如何では、こちらから用意します)。

『持株会社解禁』中公新書、1996年

『持株会社の時代』有斐閣、2006年

『持株会社と日本経済』岩波書店、2009年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

持株会社に関する文献。

1、企業論関係～①箱田(他)編『持株会社の実務～第5版～』東洋経済新報社、2007年・②高橋宏幸『戦略的持ち株会社の経営』中央経済社、2007年。

2、法律関係～①前田重行『持株会社法の研究』商事法務、2012年・②岸田雅雄『ゼミナール会社法入門～第7版～』日本経済新聞社、2012年。

3、各社アニュアルレポート、EDINET

企業論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 過去の研究テーマの紹介・説明
- 2回 研究テーマの設定
- 3回 参考文献表の作成
- 4回 論文構成について
- 5回 英語参考文献の紹介と精読
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 第1回プレゼンテーション
- 13回 第2回プレゼンテーション
- 14回 第3回プレゼンテーション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告 ... 60% 学習態度(他者の発言に対して質問をする・予習や復習をする) ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

下谷正弘『持株会社と日本経済』岩波書店、2009年を学習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習・復習にも時間を費消しましょう。

キーワード /Keywords

企業形態・ガバナンス・持株会社・持株会社の機能

現代アメリカ文学研究 【昼】

担当者名 /Instructor スコット・ピュー / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 現代アメリカ文学研究に関する高度な知識を身につける。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 現代アメリカ文学に関する資料を分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△ 現代アメリカ文学研究に関する課題を主体的に解決できるようになる。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		現代アメリカ文学研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

Anglo-American Modernism: The course looks at emergence of 20th century Modernism beginning in late 19th century and continuing through early 20th century. Course considers early critique and rejection of 19th century Romantic celebration of self, origins of Modernist attitudes in European Aestheticism, emphasis on place of artist within a tradition (and exploration of alternative 'traditions'), arguments for "classicism," as well as first experimental writing in Modernist mode.

教科書 /Textbooks

Printed materials provided by instructor

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with the instructor

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Modernism: Contemporary Perspectives
- 2 回 A Great Tradition?
- 3 回 Contextualizing Modernism: 19th Century Aestheticism
- 4 回 Pre-Modernism--Henry James (introduction)
- 5 回 Pre-Modernism--Henry James
- 6 回 Pre-Modernism--Willa Cather
- 7 回 The New Classicism--T.E. Hulme
- 8 回 T. E. Hulme
- 9 回 Ezra Pound--Imagism and Early Poetry
- 1 0 回 Pound--Heroic Ideals?
- 1 1 回 T. S. Eliot and the Modernist Anti-hero, "The Love Song of J. Alfred Prufrock"
- 1 2 回 Eliot, "The Love Song of J. Alfred Prufrock"
- 1 3 回 Eliot, Essays (introduction)
- 1 4 回 Eliot, Essays
- 1 5 回 Review and Summation

成績評価の方法 /Assessment Method

Preparation ... 25 % Participation ... 25 % Term paper ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Admission to the Graduate Program in English and American Literature

現代アメリカ文学研究 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Modernism, Aestheticism, New Classicism, T. E. Hulme, Ezra Pound, T. S. Eliot

英語翻訳研究 【昼】

担当者名 /Instructor 野島 啓一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の諸分野に関する高度な知識を身に付け、国際社会に役立てる能力を習得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 専門的職業人として、英語力を駆使して資料の的確な分析とその発展的研究ができるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 専門的知識を活用して、グローバル社会が抱える課題を主体的に探索・解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

英語翻訳研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

The goals of this class are threefold:

1. To gain a deeper understanding of three areas in the field of practical translation: (i) English grammar; (ii) Japanese grammar; and (iii) Encyclopedic knowledge as background information.
2. To find heuristic clues in your own practical work assignment based upon each field of the three areas above.
3. To recognize the dynamic nature of the translation process and develop a personal vision in the sphere of oral translation as well as written translation.

On successful completion of the course, students will have a comprehensive understanding of:

- i) major translation theories
- ii) pragmatic translation skills adaptable to a variety of source languages
- iii) heuristic procedures in problem-solving translation drills

教科書 /Textbooks

Printed Material:

Visual Material: (News, Speech Scripts)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1	Introductory Lecture
Week 2	Issues in translation: Japanese grammar and recommended solutions
Week 3	Issues in translation: English grammar and recommended solutions
Week 4	Issues in translation: Encyclopedic knowledge and recommended solutions
Week 5	Concluding proposals based on the principle of context-driven translation
Week 6	Project Work (I): Relevance-theoretic Approach
Week 7	Project Work (II): Translation Principles
Week 8	Project Work (III): Communication Situations
Week 9	Communicative Clues
Week 10	Inter-lingual Interference
Week 11	Direct Translation and Indirect Translation
Week 12	A Unified Account of Translation
Week 13	Research Program: Planning and structuring
Week 14	Research Program: Presentation technique and criticism
Week 15	Course review

英語翻訳研究 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

in-class projects (20%) + take home quiz (20%) + exam (60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

source language, target language, context-driven principle of translation

中国民族文化研究【昼】

担当者名 金縄 初美 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 中国民族文化理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 現代中国語に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 中国民族文化に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		中国民族文化研究

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

中国は56の民族が居住する多民族国家であり、各民族の文化的特徴が異なることから多様な中国文化が形成されている。本講義では中国に居住する民族の文化について原書講読を通じて専門知識を習得し、多角的視野を養うとともに、民族研究における調査・研究方法を学ぶ。

教科書 /Textbooks

『民俗学概論』 陶立璠 著 中央民族学院出版社 1987年 プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『中国社会の人類学 親族・家族からの展望』 瀬川昌久著 世界思想社
その他授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 中国少数民族に関する概要
- 2回 中国少数民族の基本特徴と分類
- 3回 中国少数民族に関する研究の動向について
- 4回 物質文化（飲食文化）
- 5回 物質文化（服飾文化）
- 6回 物質文化（建築文化）
- 7回 人生儀礼（誕生儀礼）
- 8回 人生儀礼（成人儀礼）
- 9回 人生儀礼（婚姻儀礼）
- 10回 人生儀礼（葬儀）
- 11回 精神民俗（巫術と民俗）
- 12回 精神民俗（宗教信仰と民俗）
- 13回 口承伝承と民俗
- 14回 口承伝承と民俗
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業における発表内容・質問や発言の内容により評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前に配布する関係論文や資料を熟読し講義に備える。
授業中に与えられた課題について次回の授業までに調べてくる。

中国民族文化研究 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国民間文学研究【昼】

担当者名 /Instructor 竹村 則行 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 中国民間文学理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 現代中国語と方言に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 中国民間文学に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		中国民間文学研究

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

近現代中国における民間文学への関心と研究は、中国がアヘン戦争を経て欧米の先進文明を認識し、植民地国家でない自立した中国のあり方を模索し始めた1920年代に始まる。

この授業では、その草創期における顕著な著作である鄭振鐸の『中国俗文学史』を読み、鄭振鐸が日中戦争下において中国の民間文学をどう捉えていたか、その考えは今日中国にどう活かされているかについて考える。

教科書 /Textbooks

『中国俗文学史』（鄭振鐸、中国文聯出版社、2009年）
※どの版本を用いてもよい。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○『挿図本中国文学史』（鄭振鐸、商務印書館、1963年）
※どの版本を用いてもよい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各章を二回に分け、担当者が30分で内容紹介する。残りの時間は全員が質疑して討論する。教員は適宜コメントする。

前期の予定は次の通りである。

- 一 第七章 宋金の“雑劇”詞 前半
- 二 同後半
- 三 第八章 鼓子詞と諸宮調 前半
- 四 同後半
- 五 第九章 元代的散曲 前半
- 六 同後半
- 七 第十章 明代的民歌 前半
- 八 同後半
- 九 第十一章 宝卷 前半
- 十 同後半
- 十一 第十二章 彈詞 前半
- 十二 同後半
- 十三 第十三章 鼓詞と子弟書 前半
- 十四 同後半
- 十五 第十四章 清代的民歌 前半

成績評価の方法 /Assessment Method

担当者による発表50%、試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

中国民間文学研究 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

鄭振鐸 中国俗文学史 民間文学

中国語教育論研究【昼】

担当者名 胡 玉華 / 中国学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○	中国語教育に関する必要な専門知識を身につける。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○	中国語教育を論じるに必要な研究能力を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	グローバルな視野で中国語教育の問題を解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

中国語教育論研究

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

教授学習心理学、認知心理学、第二言語習得理論に基づいた外国語教育の研究及び実践を参考に、日本における中国語教育の問題を考え、その解決方法を提案する。

教科書 /Textbooks

プリント配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語教育とコミュニケーション能力の育成』 胡玉華 東方書店 2009
『日本語教師のための新しい言語習得概論』 小柳かおる スリーイーネットワーク 2004
『第2言語習得研究からみた効果的な英語学習法・指導法』 村野井 仁 大修館書店 2006

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 第1章 学習者を知る
1. 外国語をどう習得するかー認知的要因(1)
第2回 2. 外国語をどう習得するかー認知的要因(2)
第3回 3. 外国語をどう習得するかー情意的要因(1)
第4回 4. 外国語をどう習得するかー情意的要因(2)
第5回 5. 外国語をどう習得するかー社会文化的要因(1)
第6回 6. 外国語をどう習得するかー社会文化的要因(2)
第7回 第2章 教授活動を知る
1. 何をどう教えるかー内容
第8回 2. 何をどう教えるかー方法
第9回 3. 何をどう教えるかー目標
第10回 第3章 世界の中国語教育を知る
1. 中国における対外漢語
第11回 2. 非漢字圏における中国語教育
第12回 3. 日本における中国語教育ー(1)
第13回 4. 日本における中国語教育ー(2)
第14回 5. 日本における中国語教育ー(3)
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

中国語教育論研究【昼】

履修上の注意 /Remarks

予習およびレジュメ (PPT) の作成が必要。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東北アジア研究概論 【昼】

担当者名 /Instructor 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科, 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科, 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 日本列島および朝鮮半島を一つの地域として捉え、その文化および経済の課題を、歴史的背景を踏まえて理解することができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 国家間の問題として捉えられがちな日本および朝鮮・韓国の関係を思想・文化・地域経済といった異なった視点から分析することができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	△ 一国の利益と利害にとらわれることなく、広く国際的な地域社会における協力関係の利点と恩恵を考えることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

東北アジア研究概論

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

日本と朝鮮半島とは2千年にわたる歴史のなかで互いの文化の発展をもたらす多くの交流の一方で、国家間における戦争や対立を繰り返してきました。ここでは、日本と朝鮮半島という東北アジア地域の視点から、その歴史・文化・政治・経済の研究について、日本・韓国の二国間とそれを越えた社会の視点から基礎的な研究方法をオムニバスで紹介します。具体的には、江戸時代の国際関係と日朝関係（担当者八百3回）、東アジアの思想史における朝鮮と日本の思想文化の比較（担当者金3回）、経済発展過程における日韓両国の比較と両国間の経済関係（担当者尹3回）、日韓の政治と国際関係（担当者李3回）をリレー方式で行い、学生の皆さんにまとめてもらう予定です。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 北島万次『秀吉の朝鮮侵略と民衆』(岩波書店、2012)
- 仲尾宏『朝鮮通信使-江戸日本の誠信外交』(岩波書店、2007)
- 小倉紀蔵『朱子学化する日本近代』(藤原書店、2012)
- 小倉紀蔵『創造する東アジア』(春秋社、2011)
- 野副伸一・朴英哲『東アジア経済協力の現状と可能性』(慶應義塾大学出版会、2001)
- 野副伸一・朴英哲『東アジア経済協力の現状と可能性』(慶應義塾大学出版会、2004)
- 李鍾元・木宮正史・浅野豊美編『歴史としての日韓国交正常化II：脱植民地化編』(法政大学出版局、2011)
- 吉澤文寿『戦後日韓関係：国交正常化交渉をめぐる』(クレイン、2005)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 八百-幕藩制国家と朝鮮王朝の史料研究
- 第3回 八百-近世における通信使と漂流民の研究史
- 第4回 八百-封建制と官僚制からみた日韓社会の比較
- 第5回 金-兵学と儒学の比較研究
- 第6回 金-国学と朱子学の比較研究
- 第7回 金-思想史から見た日韓文化の比較
- 第8回 尹-経済発展での日韓比較
- 第9回 尹-日韓両国間の貿易・投資の展開
- 第10回 尹-環黄海地域をめぐる経済交流
- 第11回 李-サンフランシスコ講和条約と戦後日韓関係
- 第12回 李-日韓会談(1) 基本関係、請求権
- 第13回 李-日韓会談(2) 残された問題
- 第14回 学生の報告①
- 第15回 学生の報告②

東北アジア研究概論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での報告... 40% 期末レポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ社会概論 【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ アメリカ社会理解に必要な基礎的な知識を修得する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ アメリカ社会に関わる現実の諸課題を考察するため、資料を収集し、社会科学の立場から分析する基礎的な力を修得する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	△ アメリカ社会を分析する知識と理解をもとに、主体性をもって社会に働きかけられる基礎的な力を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

アメリカ社会概論

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

21世紀アメリカ社会の現状を概観した上で、その分析のための政治学的手法について講義する。講義の前半は、1981年のレーガン政権成立から今日のB・オバマ政権までの政治基調を見た後、そうした保守政治の社会基盤をグローバリゼーション、IT技術の発展、アメリカ社会の人種的・宗教的構成の変化に注目して分析する。それに続いてアメリカ政治の制度的特質について述べ、講義の後半では、そうした保守政治が20世紀前半の自由主義政治と異なっていたことを指摘する。その上で、その変化のダイナミズムを分析する枠組みとして1980年代に歴史的制度論として知られるようになったアメリカ政治発展論の諸議論を紹介する。歴史的な知識を身に付けるとともに、社会変化を分析する技術を取得することがこの講義の目的である。

教科書 /Textbooks

久保文明ほか著『アメリカ政治 新版』(有斐閣アルマ 2010年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

オリエンテーションで参考文献リストを配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【研究史整理】【方法論】
- 第2回 20世紀後半における保守主義政治【保守主義】
- 第3回 レーガン政権のイデオロギー【保守主義】
- 第4回 クリントン政権の歴史的位相【ニューデモクラット】
- 第5回 合衆国憲法体制の形成【合衆国憲法】
- 第6回 合衆国憲法体制の変容—市民権の発展と福祉国家【市民権】
- 第7回 アメリカ政治を動かす力【世論】【利益政治】
- 第8回 1980年代における国家論の再興【国家論】
- 第9回 歴史的制度論の発展【歴史的制度論】
- 第10回 政党再編をめぐるさまざまな議論【政党再編】
- 第11回 1970年代における政党編成のゆらぎ【政党再編】
- 第12回 アメリカ自由主義の伝統【自由主義】
- 第13回 保守主義者の自由主義政治への挑戦【保守主義】
- 第14回 1980年代における新しい社会的争点の登場【社会的争点】
- 第15回 講義の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ... 70 % レポート ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アメリカ社会概論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

この講義はアメリカ政治だけでなく歴史とあわせて履修すると効果的です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ 政治

イギリス地域概論 【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ イギリスに関する包括的な知識を修得し、それに基づいて専門的な議論を行なうことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ イギリスに関する先行研究および一次資料の収集・整理ができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	△ 修得した知識・技能を生かして、実践的な問題にも関心を持つことができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

イギリス地域概論

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

かつての覇権国家であり、現代世界においても一定の影響力を保持しているイギリスの現状に関して、社会の成り立ち、文化の多様性などを多面的に取り上げ、現代世界のありように迫る一助とする。現代イギリス文化を構成している諸要因を通時的・共時的に検討し、異文化理解の達成を図る。

教科書 /Textbooks

井野瀬久美恵(編)『イギリス文化史』昭和堂、2011年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 異文化理解の方法(歴史認識をめぐって)
- 3回 異文化理解の方法論(資料読解の方法)
- 4回 異文化理解の方法論(多文化主義の変遷)
- 5回 イギリス文化の状況(1970年代まで)
- 6回 イギリス文化の状況(1980年代以降)
- 7回 文化研究の方法論的変遷(1960年代まで)
- 8回 文化研究の方法論的変遷(1970年代)
- 9回 言語論的展開
- 10回 サッチャー主義とイギリス社会
- 11回 スコットランドの文化と現状
- 12回 ウェールズの文化と現状
- 13回 北アイルランド紛争の背景
- 14回 21世紀イギリス社会の展望
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・発言の内容... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストをきちんと読み込み、そこで述べられていることを十分に理解してから授業に臨むこと。

イギリス地域概論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国社会史研究【昼】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 中国社会の歴史について専門知識を習得し、自らの見解を表明することができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 中国社会史の専攻分野に関する研究文献と一次資料を調査収集し、研究課題を定め、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 中国社会の歴史に関する専門知識に基づいて、中国の社会問題を歴史的に理解し、問題解決の方法を模索することができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

中国社会史研究

授業の概要 /Course Description

本科目は漢族を中心とする中国人社会が如何なる人的結合を核として構成され、それがどのような歴史的変遷を経て今日に到るのかを考察する。重点的には、中華人民共和国の土地改革によって変革された旧中国社会(明清時代)と現在の社会主義体制下の中国社会とを歴史的に対照させ、また日本伝統社会と比較しながら、中国社会の構成原理と特質を講じてゆきたい。

教科書 /Textbooks

- ・ 上田信『海と帝国』（講談社、2005年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 井上徹等編『東アジア近世都市における社会的結合』（清文堂、2005年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスと文献の配布
- 第2回 中国という社会空間
- 第3回 明朝の成立
- 第4回 明朝統治の特質
- 第5回 交易の発展と社会変容
- 第6回 商人社会
- 第7回 社会秩序の変容
- 第8回 北辺貿易と清朝の成立
- 第9回 産業の発展
- 第10回 伝統中国の完成
- 第11回 伝統中国社会と環境問題
- 第12回 伝統中国社会と近世日本社会
- 第13回 土地改革と伝統中国社会の解体
- 第14回 改革開放下中国社会の構造
- 第15回 まとめ（総合的考察-伝統中国社会と現代中国社会）

成績評価の方法 /Assessment Method

報告（60%）・討論（40%）で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストを事前に熟読し発言を準備すること

中国社会史研究 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

明朝、交易、商人、北辺貿易、清朝、伝統社会、土地改革、改革開放

現代中国経済研究【昼】

担当者名 /Instructor 白石 麻保 / 中国学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 中国、及び途上国、新興国（地域）経済理解に必要な基礎的・専門的知識を習得する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 中国、及び途上国、新興国（地域）経済に対する政策提言を可能にする実証的分析・研究が行える。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 習得した知識や技能を適切かつ有意義に生かすこと、研究に対する誠実な姿勢、的確な視点を持つ。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

現代中国経済研究

授業の概要 /Course Description

中国経済や途上国、新興国経済への深い理解とそれに対する実証的な分析を可能にする視点・手法等を修得することを目的とする。中国経済研究の各種文献、Journal of comparative economicsをはじめとする英文ジャーナル、中文文献、邦文文献の輪読をおこなう。また個別に設定されたテーマについて中国経済に対する社会科学的・実証的な分析を行い、報告・ディスカッションを行う。

教科書 /Textbooks

ゼミ生と相談の上、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の際に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーリングと打ち合わせ
 - 2回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済発展の概要(1) SNA 政策
 - 3回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済発展の概要(2) 経済成長
 - 4回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済発展の概要(3) 企業
 - 5回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済発展の概要(4) 農村、農業
 - 6回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済発展の概要(5) 金融
 - 7回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済の近年の動向(1) SNA、経済発展、経済政策
 - 8回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済の近年の動向(2) 経済政策、労働、金融
 - 9回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済の近年の動向(3) 経済政策、労働、金融、内陸、沿海
 - 10回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済が直面する課題、展望(1) 経済成長
 - 11回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済が直面する課題、展望(2) 市場経済、経済成長
 - 12回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済が直面する課題、展望(3) 移行経済、市場経済
 - 13回 テキスト輪読、ディスカッション 中国の経験の一般化：論点抽出(1) 経済政策、経済成長
 - 14回 テキスト輪読、ディスカッション 中国の経験の一般化：論点抽出(2) 経済成長、北京コンセンサス、市場経済
 - 15回 まとめ
- * 内容については進捗状況に応じて変動することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度及びプレゼンテーション、ディスカッションへの参加状況やそれらの内容による。

レジュメの作成及び報告・・・60% ディスカッションへの参加状況・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

現代中国経済研究 【昼】

履修上の注意 /Remarks

(主にミクロ) 経済学及び統計学, 計量経済学等の知識を必要とするので, 学部レベルの当該科目の知識を習得しているとより理解が深まる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東アジア国際政治研究【昼】

担当者名 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 東アジアの国際政治について、専門的な知見を有している。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 東アジアの国際政治について、社会科学的な調査や分析を行うことができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 東アジアの国際政治に関して、修得した知識・技能を生かして、実践的な問題にも関心を持つことができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

東アジア国際政治研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本演習では、日韓国交正常化交渉を切り口として、脱植民地化と冷戦論理の相剋によって規定されてきた戦後東アジア地域秩序の構図を、近年公開された新資料を使い、理解するうえでいくつかの視座を提供したい。換言すれば、戦後東アジアの国際規範でもあったサンフランシスコ講和条約に示された、いわゆる分離地域に対する法理とその精神が、日韓国交正常化交渉の場ではいかに議論されたのか、また、その帰結はイタリア講和条約などの他地域の例とどう異なったのかを比較検証することで、戦後東アジアにおける脱植民地化の論理を探り出したい。新資料とは、近年公開された日韓およびアメリカ政府資料である。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。適宜、各回の演習で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

浅野豊美 編 『戦後日本の賠償問題と東アジア地域再編：請求権と歴史認識問題の起源』（東京：慈学社、2013年）
李鍾元・木宮正史・浅野豊美 編 『歴史としての日韓国交正常化I：東アジア冷戦編』（東京：法政大学出版局、2011年）
李鍾元・木宮正史・浅野豊美 編 『歴史としての日韓国交正常化II：脱植民地化編』（東京：法政大学出版局、2011年）
その他、演習の進捗度や受講生の関心に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロ（演習の趣旨および進め方、資料の紹介、報告順番の決定など）
- 第2回 帝国日本の解体と戦後日韓関係
- 第3回 サンフランシスコ講和条約の適用と日韓関係
- 第4回 2つの講和条約と日韓交渉における植民地主義
- 第5回 日韓会談における被害補償交渉の過程分析
- 第6回 日韓請求権交渉と「米国解釈」
- 第7回 日韓会談の政治決着と米国
- 第8回 韓国の対日導入資金の最大化と最適化
- 第9回 日韓国交正常化交渉における基本関係問題
- 第10回 戦後日本のポツダム宣言解釈と朝鮮の主権
- 第11回 日韓会談と文化財問題
- 第12回 日韓会談と在日朝鮮人
- 第13回 日韓会談と領土問題
- 第14回 未完の日韓会談：残された問題
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告 50%、討論への貢献度 50%

東アジア国際政治研究 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ゼミで指示する文献を熟読したうえで討論に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東アジア国際政治、脱植民地化、冷戦、解放、分離、日韓国交正常化交渉、賠償、請求権、サンフランシスコ講和条約

東アジア政治思想研究 【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 日本、中国、朝鮮・韓国の伝統と近代の政治思想史を読み直し、東アジア三国の思想や文化に関する様々な専門知識を修得する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 東アジア三国の思想や文化に関する専門知識を増やし、身につけた専門知識を土台に東アジア地域の現実を分析する力を高める。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 東アジア三国の思想や文化に関する専門知識を生かせるよう実践的な問題や課題に関心をもち、広い視野に立って適切な行動をとることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

東アジア政治思想研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

日本近代の政治思想史を「朱子学化」という視点から読み直す。それを通して、今日と将来の日本と東アジアを構想する。

教科書 /Textbooks

小倉紀蔵著『朱子学化する日本近代』（藤原書店、2012）5500円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小倉紀蔵著『創造する東アジア 文明・文化・ニヒリズム』（春秋社、2011）
○与那覇潤著『中国化する日本』（文芸春秋、2011）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概要紹介
- 2回 第1章 【朱子学】【日本近代】
- 3回 第2章 【儒教】【主体】
- 4回 第3章 【理】【論理】
- 5回 第4章 【朱子学的思惟】【階層性】
- 6回 第5章 【垂直性】【水平性】
- 7回 第6章 【こころ】【ニヒリズム】
- 8回 第8章 【国体論】【靈魂】
- 9回 第9章 【元田永孚】【教育勅語】
- 10回 第10章 【福沢諭吉】【朱子学的半身】
- 11回 第11章 【丸山真男】【朱学学的半身】
- 12回 第12章 【主体的韓国人】【朴鐘鴻】
- 13回 第13章 【司馬遼太郎】【近代観】【朝鮮観】
- 14回 第14章 【天皇】【カリスマ】【三島由紀夫】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学生の報告 30% レポート 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習と復習をすること。関連文献を多く読むこと。

東アジア政治思想研究 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

東アジアの過去、現在、未来を思想的に考えよう。

キーワード /Keywords

アメリカ社会研究 【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ アメリカ社会理解に必要な知識を修得する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ アメリカ社会に関わる現実の諸課題を考察するため、資料を収集し、社会科学の立場から分析する力を修得する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ アメリカ社会を分析する知識と理解をもとに、主体性をもって社会に働きかけられる力を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

アメリカ社会研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

アメリカの社会文化を分析した古典的名著であるL・ハーツの『アメリカ自由主義の伝統』を輪読する。19世紀前半にアメリカを旅したトクヴィルが観察したように、アメリカでは社会革命を経ずして生まれた社会に特有の精神風土が開花することになった。その風土をアメリカが世界大国になった20世紀中期の現実を踏まえて、あらためて考察しなおしたのがハーツの著作である。この演習では、21世紀アメリカの社会的現実を紹介しながら、ハーツの議論の今日的有効性とその限界を考えていく。その上で、参加者自体のアメリカ観の養成をはかる。

教科書 /Textbooks

Louis Hartz with an introduction by Tom Wicker, The Liberal Tradition in America: An Interpretation of American Political Thought since the Revolution (San Diego, CA: Harcourt Brace & Company, 1991)[有賀貞訳『アメリカ自由主義の伝統』(講談社学術文庫 1994年)]

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 【研究史整理】【方法論】
- 第2回 アメリカにおけるJ・ロック【自由主義】
- 第3回 トクヴィルとハーツ【政治参加】
- 第4回 革新主義史学への挑戦者としてのハーツ【革新主義】
- 第5回 アメリカにおける階級【社会主義】
- 第6回 アメリカ革命への視座【アメリカ革命】
- 第7回 共和主義とアメリカ【共和主義】
- 第8回 ジャクソン期の「民主主義」【ジャクソン期】
- 第9回 南部政治の特殊性【南部】【奴隷制】
- 第10回 南北戦争と南北のイデオロギー対立【南北戦争】
- 第11回 再建期の思想動向【再建期】
- 第12回 革新主義を支えたもの【社会主義】【キリスト教】
- 第13回 ニューディールの実験主義【ニューディール】
- 第14回 ハーツと1950年代の自由主義政治【冷戦】
- 第15回 『アメリカ自由主義の伝統』の今日性【21世紀】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ... 70 % レポート ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アメリカ社会研究 【昼】

履修上の注意 /Remarks

この講義はアメリカ社会研究とあわせて履修すると効果的です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス地域研究 【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ イギリスに関する専門的な知識を修得し、それに基づいて高度な議論を行なうことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ イギリスに関する先行研究を的確に整理し、一次資料に基づく議論を組み立てることができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 修得した知識・技能に基づき、広い視野に立って適切な行動をとることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

イギリス地域研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

イギリス社会と文化に関する英語文献を講読し、イギリスに関する理解を深める。最初に連合王国の周辺的な地域に関する文献を読み、続いてイギリス社会を総合的に取り扱った歴史的な著作を中心に議論を展開する。

教科書 /Textbooks

- S. Bassnett, Studying British Culture
- J. Harris, Private Lives Public Spirit
- E・H・カー『歴史とは何か』
- 成瀬治『近代市民社会の成立』
- B・アンダーソン『想像の共同体』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 地域・文化研究の方法論
- 3回 スコットランドの再定義
- 4回 カムリカウェールズか
- 5回 北アイルランド研究の現状
- 6回 1914年までのイギリス: 変化と継続性
- 7回 イギリスにおける階級とジェンダー
- 8回 イギリス人の「生と死」
- 9回 イギリスの家族構造
- 10回 イギリスにおける「プロパティ」概念
- 11回 イギリス社会における労働
- 12回 イギリス社会における宗教
- 13回 社会と国家
- 14回 社会と社会理論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・発言の内容・・・100%

イギリス地域研究 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストを正確に読んでから授業に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

北欧地域研究 【昼】

担当者名 /Instructor 五月女 律子 / 政策科学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 北欧地域の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 北欧地域の研究に必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 北欧地域について修得した知識・技能を国際社会で生かす。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

北欧地域研究

授業の概要 /Course Description

この授業では、北欧諸国の政治制度および政党政治の特徴を踏まえた上で、北欧諸国間で進められている地域協力（北欧協力）について学ぶことを目指す。講義は、受講生が政治学、国際関係論の基礎を既に学んでおり、ヨーロッパの政治制度、政党政治、国際関係（ヨーロッパ統合）についても基礎知識を持っていることを前提として進める。到達目標は、北欧諸国に関する知識を養い、北欧地域の特徴について説明できるようになることである。

教科書 /Textbooks

授業時に適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業の前半は、各国の政治制度、政党政治の特徴について学び、後半は第二次世界大戦後の北欧協力の進展をヨーロッパ統合と比較しながら考えることを目指す。

- 1回 ガイダンス、北欧諸国の基礎知識
- 2回 北欧諸国の政治制度（1）【統治体制】
- 3回 北欧諸国の政治制度（2）【議会制度】
- 4回 北欧諸国の政治制度（3）【選挙制度】
- 5回 北欧諸国の政治制度（4）【政党システム】
- 6回 北欧諸国の政党政治（1）【スウェーデン】
- 7回 北欧諸国の政党政治（2）【デンマーク】
- 8回 北欧諸国の政党政治（3）【ノルウェー】
- 9回 北欧諸国の政党政治（4）【フィンランド】
- 10回 北欧協力の進展（1）【1945年以前】
- 11回 北欧協力の進展（2）【1945～50年代】
- 12回 北欧協力の進展（3）【1960年代～70年代】
- 13回 北欧協力の進展（4）【1980年代～90年代半ば】
- 14回 北欧協力の進展（5）【1990年代半ば～現在】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

議論への参加60%、レポート40%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

北欧地域研究 【昼】

履修上の注意 /Remarks

政治学、国際関係論に関する基礎知識がない場合には、各自で授業時間外に勉強することが必要となる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際協力研究 【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 国際協力に関する包括的な知識を修得し、それに基づいて専門的な議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 国際協力に関する資料の収集と分析ができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 国際協力に関して修得した知識と技能を生かして、広い視野に立って適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

国際協力研究

授業の概要 /Course Description

この授業では70年にも及ぼうとする国際開発援助の歴史を振り返り、国際社会が途上国の抱える課題にどのように取り組んできたのかを学ぶとともに、なぜそれが功を奏してこなかったのかを国際政治の文脈から考察します。その上で、今後の開発のあり方について議論を行います。受講生は国際開発援助に関する知識を深め、過去の失敗とそこから得られた教訓をもとに、今後の開発援助がどうあるべきかについて、自分なりの意見を持つことが出来るようになります。

教科書 /Textbooks

- 西川潤他『開発を問い直す』日本評論社、2011年。
- 下村恭民『開発援助政策』日本経済評論社、2011年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 城山英明『国際援助行政』東京大学出版会、2007年。
- 下村恭民他『開発援助の経済学』（第4版）有斐閣、2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講者とテキストを輪読し、ディスカッションを交えて内容の理解に努めます。前半は下村の文献、後半は西川の文献を用います。

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 開発援助の目的
- 第3回 ドナー・コミュニティ
- 第4回 国際援助コミュニティ
- 第5回 国際関係の中の開発援助政策
- 第6回 開発援助政策に対する途上国の影響
- 第7回 援助国内のステイクホルダーと開発援助政策
- 第8回 開発を問い直す(1) 開発と倫理
- 第9回 開発を問い直す(2) アフリカとアジアの視点
- 第10回 援助潮流の見直し(1) ワシントンコンセンサスの限界
- 第11回 援助潮流の見直し(2) 貧困削減戦略の見直し
- 第12回 開発における「知」
- 第13回 日本の開発経験(1) 内発的発展論
- 第14回 日本の開発経験(2) 災害と援助
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・・・20% 授業への貢献度(議論への参加)・・・40% レポート・・・40%

国際協力研究 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

この分野をはじめて学ぶ受講生は、あらかじめ上記参考書を購入して読むようにしてください。また、学部開講科目の「国際協力論I」を聴講することも勧めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

安全保障研究 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 国際関係における安全保障上の問題について知識を習得し、それに基づいて、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 安全保障に関する先行研究を収集し的確に整理することができる。一次資料を用いて議論を組み立てることができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 安全保障に関する具体的、実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として広い視野に立って適切な行動をとることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

安全保障研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

下記①、②のいずれか。

①戦争倫理学関連の英語の研究書を輪読する。当面、正戦理論のうち、noncombatant immunityの問題、及び、double effectの問題を扱うこととする。

②防衛関連の書籍、論文についての口頭発表と分析を行ってもらう。

教科書 /Textbooks

未定だが、メインとなる書籍は購入すること（例えば、下記のスケジュール例であれば、Just and Unjust Warがメインとなる。13回、14回、15回に用いる論文は事前にコピーを配布する）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

正戦理論については、基本的に、日本語の文献はあまりなく、英語の文献が主となる。その際、単に政治学、国際関係論関係の業績だけではなく、神学、哲学、倫理学など、隣接分野の理解が不可欠になるかもしれない。

安全保障研究 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

輪読形式をとり、履修者の主旨報告と担当者との討議が中心となる。履修者は、指定範囲を読み、主旨をまとめたレジюмеを作成し、それを報告し、さらに、問題点を指摘することまで要求される。

※履修希望者は、履修登録前に必ず担当者にメールで相談してください。tomahito@kitakyu-u.ac.jp

第1回 ガイダンス

戦争倫理（正戦理論）関係の場合、以下のようなスケジュールを予定している。概ね、各回につき、20～30ページ程度の英語論文を2本読み、受講者には15～20分間の要旨報告×2本分、質疑応答をしてもらう。

例えば、以下、11回までは、Michael Walzer, *Just and Unjust Wars: A Moral Argument with Historical Illustrations* 4th Edn., Basic Books, 2008, を2章ずつ講読してゆく。（各回ともに、15～20分×2章＝30～40分の要旨報告と質疑応答をしてもらう）

第2回 ch.1 Against Realism, ch.2 The Crime of War

第3回 ch.3 The Rules of War, ch.4 Law and Order in the International Society

第4回 ch.5 Anticipations, ch.6. Interventions

第5回 ch.7 War's Ends and the Importance of Winning, ch.8 War's Means and the Importance of Fighting Well

第6回 ch.9 Noncombatant Immunity and Military Necessity, ch.10 War against Civilians

第7回 ch.11 Guerrilla War, ch.12 Terrorism

第8回 ch.13 Reprisals, ch.14 Winning and Fighting Well

第9回 ch.15. Aggression and Neutrality, ch.16 Supreme Emergency

第10回 ch.17 Nuclear Deterrence, ch.18 The Crime of Aggression

第11回 ch.19 War Crimes, Soldiers and their Officers

第12回 Just and Unjust Warの総括、および、小レポートの要旨報告

第13回 Thomas Nagel, "War and Massacre," in T.Nagel et.al., eds., *War and Moral Responsibility*, Princeton UP, 1974.

第14回 Richard Norman, *Killing in Self-defence*, in Richard Norman, *Ethics, Killing and War*, Cambridge UP, 1995, pp.117-157.

第15回 Richard Norman, *Killing the Innocent*, in *ibid.*, pp.159-206. + 期末レポート要旨報告

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度（30%）、予習状況（30%）、レポート（40%）から評価したい。レポートは小レポートと期末レポートの2回出題する場合もある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

軍事的安全保障、とりわけ防衛問題に関する学部レベルの基礎知識を要求します。

履修前に、問題関心の確認、授業内容についての意見を聴くため、上記メールに連絡をください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際政治経済研究 【昼】

担当者名 /Instructor 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 国際政治経済の様々な理論を理解し、複雑化する国際政治経済の諸問題を専門的に論じることができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 国際政治経済に関する資料の収集と高度な分析ができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 国際政治経済に関する事項について、修得した知識と技能を生かして、実践的な問題にも関心を持つことができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

国際政治経済研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

この授業では、グローバル化下における国際政治経済秩序の変容に対し、国際関係論の理論分析と国際経済論の実証分析とを関連付けながら検討することを目的とする。国際政治経済学の先行研究を分析するとともに、リサーチの準備となる基礎力を養う。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で決定するが、さしあたって以下の文献を候補として挙げておく。
 関下稔『国際政治経済学要論』晃洋書房、2010年
 ○坂井昭夫『国際政治経済学とは何か』青木書店、1998年
 - Joseph M. Grieco & G. John Ikenberry, State Power and World Markets: The International Political Economy, W W Norton & Co Inc, 2002.
 - Benjamin J. Cohen, International Political Economy: An Intellectual History, Princeton University Press, 2008.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○山本吉宣『国際レジームとガバナンス』有斐閣、2008年。
 野林健・長尾悟『国際政治経済を学ぶ - 多極化と新しい国際秩序』ミネルヴァ書房、2011年。
 ○スーザン ストレンジ『国際政治経済学入門』東洋経済新報社、1994年。
 ○Robert Gilpin, Global Political Economy: Understanding the International Economic Order, Princeton University Press, 2001.

国際政治経済研究 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 国際秩序をめぐる政治と経済
- 第3回 グローバリゼーションと国際関係
- 第4回 国際政治経済の見方(1) 重商主義
- 第5回 国際政治経済の見方(2) 自由主義
- 第6回 国際政治経済の見方(3) 批判理論
- 第7回 戦後の国際経済秩序の枠組み(1) ブレトン・ウッズ、GATT体制
- 第8回 戦後の国際経済秩序の枠組み(2) レジームの変容と課題
- 第9回 金融のグローバル化と通貨危機
- 第10回 国際金融秩序の構築
- 第11回 地域主義の展開(1) 北米の経済協定
- 第12回 地域主義の展開(2) ヨーロッパの統合
- 第13回 地域主義の展開(3) アジアの多様性
- 第14回 科学技術と国際政治経済
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容...30%、授業参加(議論への貢献度など)...20%、期末レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

この分野について学習したことがない受講生はあらかじめ国際政治経済学についての基礎的な知識を習得しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代アメリカ文学研究 【昼】

担当者名 /Instructor スコット・ピュー / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 現代アメリカ文学研究に関する高度な知識を身につける。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 現代アメリカ文学に関する資料を分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△ 現代アメリカ文学研究に関する課題を主体的に解決できるようになる。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		現代アメリカ文学研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

Anglo-American Modernism: The course looks at emergence of 20th century Modernism beginning in late 19th century and continuing through early 20th century. Course considers early critique and rejection of 19th century Romantic celebration of self, origins of Modernist attitudes in European Aestheticism, emphasis on place of artist within a tradition (and exploration of alternative 'traditions'), arguments for "classicism," as well as first experimental writing in Modernist mode.

教科書 /Textbooks

Printed materials provided by instructor

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with the instructor

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Modernism: Contemporary Perspectives
- 2 回 A Great Tradition?
- 3 回 Contextualizing Modernism: 19th Century Aestheticism
- 4 回 Pre-Modernism--Henry James (introduction)
- 5 回 Pre-Modernism--Henry James
- 6 回 Pre-Modernism--Willa Cather
- 7 回 The New Classicism--T.E. Hulme
- 8 回 T. E. Hulme
- 9 回 Ezra Pound--Imagism and Early Poetry
- 1 0 回 Pound--Heroic Ideals?
- 1 1 回 T. S. Eliot and the Modernist Anti-hero, "The Love Song of J. Alfred Prufrock"
- 1 2 回 Eliot, "The Love Song of J. Alfred Prufrock"
- 1 3 回 Eliot, Essays (introduction)
- 1 4 回 Eliot, Essays
- 1 5 回 Review and Summation

成績評価の方法 /Assessment Method

Preparation ... 25 % Participation ... 25 % Term paper ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Admission to the Graduate Program in English and American Literature

現代アメリカ文学研究 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Modernism, Aestheticism, New Classicism, T. E. Hulme, Ezra Pound, T. S. Eliot

特別研究基礎 【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

海外・国内ジャーナルに掲載された経済政策に関する論文を熟読する。

この授業の到達目標は、以下のとおりである。

- ① 経済政策に関する高度な専門知識を修得する。
- ② 現在の経済問題を理解し、その解決策を明瞭な文章と口頭で説明できる。

教科書 /Textbooks

適時、論文を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 ガイダンス
2回～15回
毎回、配布した論文の内容について報告してもらう。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 50% 発表内容 ... 30 % ディスカッションへの貢献 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

興味のある経済政策分野についてある程度の知識と英語文献を読む能力が必要。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文の完成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Journal of Industrial Economics, Rand Journal of Economics, Review of Economic and Statisticsなどの海外雑誌

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回から15回：
論文の題材に関する調査、先行研究の精読、実証結果の検討を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

発表 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学・産業組織論・計量経済学の知識が必要

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【昼】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

学生が自身の研究テーマのために必要とする計量経済モデルについて、各自学習し、発表を行う。これを通じて、計量経済分析のイメージを自身のテーマと関連して持つことができるようにする。

教科書 /Textbooks

適宜、資料および実証分析の論文を指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

GeNii(<http://ge.nii.ac.jp/genii/jsp/index.jsp>、学術研究検索サイト)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 基本となる統計学・計量経済学についてやや詳しく扱う資料を輪読する。
- 2回 同上
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 資料の中から各自ひとつずつ話題を選んで発表。
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 関心のある先行研究論文を1本ずつ選び、内容の報告。前回までで学んだモデルがどのように用いられているかを中心に報告する。
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 同上

成績評価の方法 /Assessment Method

論文を読んで発表 ... 80% , 授業中のディスカッションへの参加 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

上記のGeNiiを用いて、各自の関心のある研究分野について先行研究を検索しておく。

特別研究基礎 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

受講者の関心・能力に指導者の関心・能力を加味し、修士論文につながる研究テーマを見つける。

教科書 /Textbooks

受講者と協議しつつ決めていく。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回
いくつかの文献を報告してもらい、それを手がかりに研究テーマを絞り込んでいく。
毎回の文献輪読を基本とする。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必ず予習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【昼】

担当者名 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

受講生各自が、興味を持っているマクロ経済学関連の文献（本や論文など）を選択し、それを報告してもらう。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献報告
- 3回 文献報告
- 4回 文献報告
- 5回 文献報告
- 6回 文献報告
- 7回 文献報告
- 8回 文献報告
- 9回 文献報告
- 10回 文献報告
- 11回 文献報告
- 12回 文献報告
- 13回 文献報告
- 14回 文献報告
- 15回 文献報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の出来 70% 日常の授業への取り組み 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

報告に関しては、徹底した準備を要求する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特別研究基礎 【昼】

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

ミクロ経済分析について論究し、特別研究論文の作成のために、ミクロ経済分析の論理と方法について必要な基礎知識を習得する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時間中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ミクロ経済学と数学
- 2～4回 興味・関心のあるミクロ経済問題について調査報告
- 5～6回 ミクロ経済分析的アプローチ論究
- 7～13回 関連ミクロ経済理論の調査・研究・報告
- 14回 現代ミクロ経済学の展開
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度 30 % レポート 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業内容の理解のために、ミクロ経済学についての基礎知識を十分に修得しておくこと。

キーワード /Keywords

ミクロ経済分析、特殊ミクロ経済行動・状況

特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文のテーマ確定に向けて、先行研究の内容報告、参考文献一覧の作成、修士論文の目次作成などを行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～10回 先行研究・参考文献の講読。レジユメによる学生の発表形式で行う。
- 11回 正しい引用の仕方・参考文献表の作り方を説明する。
- 12回～15回 修士論文のテーマ、目次、参考文献一覧を作成する。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況による。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文作成のための基本事項の学習を目指す。前期の本科目では統計学の基礎を中心に演習を行う。また、課題発見のための論文収集、その読み込み、整理等についても指導を行う。

教科書 /Textbooks

E. R. Berndt, The Practice of Econometrics, Addison Wesley.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～第15回：教科書は経済分析のテーマごとに1章を割り当てている。そこで、章ごとに担当を決めて、レジュメ作成を行う。その後、章末の問題を実際に解くことを試みる。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の成績による。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前に教科書を読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義では、環境経済学、エネルギー経済学に必要な経済理論の習得と関連分野における最近の研究動向の理解を目標とする。前半は、市場の失敗による環境問題の発生メカニズム、環境税、排出権取引、環境評価などの環境政策の理論や実証分析に関する解説を講義形式で行う。後半は、近年注目されている再生可能エネルギー、スマートグリッド、スマートコミュニティに焦点をあて、最新の関連論文を紹介する。

到達目標は以下のとおりです。

- ・ 経済理論を理解することで、環境問題、エネルギー問題の経済分析に関する学術論文を読む基礎学力を身につける。
- ・ 環境問題、エネルギー問題の経済分析に関する動向を把握できるようになる。

教科書 /Textbooks

受講者と相談して決める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

N. ハンレー、B. ホワイト、J. ショグレン 『環境経済学—理論と実践』 勁草書房 2005年○
 岡敏弘 『環境経済学』 岩波書店 2006年○
 環境経済・政策学会編 『環境経済・政策学の基礎知識』 有斐閣 2006年○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 環境経済学、エネルギー経済学の概要と講義の説明
- 2回 ミクロ経済学の復習1 【効用最大化モデル】、【利潤最大化モデル】
- 3回 ミクロ経済学の復習2 【余剰分析】、【部分均衡分析】
- 4回 ミクロ経済学の復習3 【外部性】、【公共財】
- 5回 環境政策の経済分析1 【直接規制】、【経済的手法】
- 6回 環境政策の経済分析2 【自発的なアプローチ】、【ポリシーミック】
- 7回 地球温暖化の経済分析 【排出権取引】、【環境税】
- 8回 廃棄物の経済分析 【廃棄物課税】、【デポジット制】
- 9回 環境評価 【仮想評価法】、【コンジョイント法】
- 10回 再生可能エネルギーの経済分析1 【FIT】、【RPS】
- 11回 再生可能エネルギーの経済分析2 【分散型発電】、
- 12回 スマートグリッドの経済分析1 【デマンドレスポンス】
- 13回 スマートグリッドの経済分析2 【HEMS】、【BEMS】、【CEMS】
- 14回 最近の研究動向の紹介
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の発言 (25%)、発表 (25%)、期末試験 (50%)

特別研究基礎 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

学部レベルのミクロ経済学、マクロ経済学、線型代数、微積分の知識を前提に講義を進めるので、事前に経済学、数学の復習をしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 岡山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義では修士論文の作成に資する基礎的な知識を得るとともに、受講生による更なる問題意識の顕在化に努め、その個別具体の対応（「処方」と「診断」を含む）等を、当該受講生と相談して決め、きめ細かな論文指導を行う。

教科書 /Textbooks

適宜指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、その都度紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

週1回の頻度で、論文に係わる進捗状況の発表・議論、論文テーマに関連する課題の報告および議論をとおして履修生の論文作成の進捗を図る。

- 1回 インTRODクシヨン・ガイダンス
- 2回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 3回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 4回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 5回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 6回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 7回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 8回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 9回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 10回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 11回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 12回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 13回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 14回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 15回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の学習深度、20%：期末のレポート、80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし。

特別研究基礎 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

概して、現代の財務会計上の重要な課題というのは、個々の資産の特性の相違や経済的環境の著しい変化も顧みず、「価値」と「コスト」に大幅な乖離がみられる資産に対しても、伝統的なコスト・アプローチ（収益・費用観）を一律に適用しようとしているところから生じているように思われる。そのことが、企業の経済的実態（経済的現実）の忠実な表現（描写）を阻害する極めて大きな要因になっているのである。現代の財務会計の主要な論点のひとつは、こうした伝統的なコスト・アプローチ（収益・費用観）による歪んだ像を、より現実的な写像を提供できるように、可能な限り修復しようとする一連の試みであるといえるのかもしれない。常にこうした問題意識を持ちながら、特に資産評価問題（資産会計）を中心に検討してみたい。伝統的な歴史的な原価主義の体系で説明することが難しくなっている現代的・基本的課題について講義したいと思う。現代の混沌とした状況に財務会計はどう対応し、またどう対応すべきかについて、院生と活発に議論してみたい。

教科書 /Textbooks

桜井久勝『財務会計講義（第16版）』（中央経済社）、醍醐聡『会計学講義【第4版】』（東京大学出版会）、白石和孝『イギリスの暖簾と無形資産の会計』（税務経理協会）ほか。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小松章編『現代の財務経営（6）経営分析・企業評価』（中央経済社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 資産の評価問題（資産会計）を主要テーマとして、テキストを輪読し、解説することにした。院生相互の活発な質疑応答を大いに期待したい。
- 2回 同上
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・・・ 80% ディスカッションへの参加・・・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

特別研究基礎 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【昼】

担当者名 西澤 健次 / Kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

大学院における会計学の基礎を勉強するために、財務会計論ないし会計学原理のテキストの個別のテーマを取り上げて、会計について深く考えたいと思う。

教科書 /Textbooks

友岡賛『会計学原理』税務経理協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶應義塾大学出版会○
西澤健次『負債認識論』国元書房○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回
テキストを精読しながら、会計の基本的な問題を考える。各担当者がレジюмеを準備し、報告をする。適宜、会計学の紹介を交えながら、各自の研究テーマについて談義する。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況・・・ 60% レポート・・・ 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本演習は、財務会計論の基礎的な思考をさらに深く吟味することを目的としているので、事前に著名な会計学者を調べ、その思想などについて、教科書、参考図書、参考論文、インターネットなどで学習しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文の指導を行う。

教科書 /Textbooks

無

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

無

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション
第2~15回 修論指導

成績評価の方法 /Assessment Method

授業取り組み度合を総合的に評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文作成のために必要な能力の習得を目標とする。本科目では、各受講生が興味を持つ、カオス、フラクタル、エージェントモデルなど複雑系手法、機械学習などを経済に応用した複雑系経済学に関する主題についての関連文献を選択し、読み、報告をしてもらう。

教科書 /Textbooks

テーマに応じて講義の中で指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：ガイダンス
 第2回～第15回：文献報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の出来 50% 日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

各自、経営戦略論の領域で研究テーマを設定し、論文を作成すること、そして、これをつうじて経営戦略論の知識の応用力を高めることを目的とします。

到達目標は以下のとおりです。

- ・ 経営戦略論の諸学派のアプローチを理解できる。
- ・ その諸理論により現実の経営問題の説明ができる。
- ・ さらに、経営問題の解決に応用できる。

教科書 /Textbooks

受講者の研究テーマを考慮に入れて、複数の候補の中からオリエンテーションにて決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各自、教科書を中心に論文執筆に必要な文献の内容について発表します。

学期末に中間報告を行ないます。

第1回 ガイダンス

第2回～第14回 学生による報告・討議

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常における授業への参加度20% 発表・報告内容80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

学部において経営戦略論、経営組織論の講義を履修している方が望ましい。

論文執筆に必要と考えられる文献・論文の収集をしておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 イノベーション 組織変革

特別研究基礎 【昼】

担当者名 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

持株会社についての研究。
下谷正弘の持株会社に関する研究を題材にして、今やブームになっている持株会社の機能について検討していく。

教科書 /Textbooks

下谷正弘『持株会社と日本経済』岩波書店、2009年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 1、下谷正弘の持株会社に関する文献。
 - ①『持株会社解禁』中公新書、1996年
 - ②『持株会社の時代』有斐閣、2006年
 - ③『持株会社と日本経済』岩波書店、2009年
- 2、法律関係の文献
 - ①前田重行『持株会社法の研究』商事法務、2012年
 - ②岸田雅雄『ゼミナール会社法入門～第7版～』日本経済新聞社、2012年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持株会社の設立1
- 2回 持株会社の設立2
- 3回 持株会社の設立3
- 4回 持株会社と機関1
- 5回 持株会社と機関2
- 6回 持株会社と機関3
- 7回 持株会社と機関4
- 8回 株主権の縮減1
- 9回 株主権の縮減2
- 10回 株主権の縮減3
- 11回 持株会社の株主の保護1
- 12回 持株会社の株主の保護2
- 13回 持株会社の株主の保護3
- 14回 持株会社とガバナンス1
- 15回 持株会社とガバナンス2とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告 ... 60%、 学習態度(授業参加態度) ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

特別研究基礎 【昼】

履修上の注意 /Remarks

下谷の持株会社に関する文献(『持株会社解禁』中公新書・『持株会社の時代』有斐閣、2006年・『持株会社と日本経済』岩波書店、2009年)を、少なくとも一冊は読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

持株会社の機能・持株会社とガバナンス

特別研究 1 【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文作成のための準備をする。

教科書 /Textbooks

とくになし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～14回 各自の研究テーマに沿った論文を読み報告する。
- 15回 まとめとしてレポートを作成する。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の講義への取り組み・・・50%、報告内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【昼】

担当者名 /Instructor 後藤 宇生 / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文の完成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Journal of Industrial Economics, Rand Journal of Economics, Review of Economic and Statisticsなどの海外雑誌

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回から15回：
論文の題材に関する調査、先行研究の精読、実証結果の検討を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

発表 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学・産業組織論・計量経済学の知識が必要

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【昼】

担当者名 /Instructor 藤井 敦 / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

計量経済モデルを現実のデータにあてはめてひとつの統計分析結果を得るには、考慮すべき様々な問題が存在する。これらについて、参加者同士の議論を通じて経験していく。修士論文相当のイントロダクションの青写真を作ることが目的である。

教科書 /Textbooks

用いない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて別途指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教員による研究論文をサンプルとして提示：「なぜ、何を、どのように分析するか」を考えながら作業することを学ぶ。併せて、研究遂行上の困難とその解決方法の事例を学ぶ。
- 2回 どんな問題に興味があるか、先行研究論文数本を選び、自身の興味の背景とともに内容を報告。
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 先行研究で用いられている計量経済学的な分析手法を報告。それを自分の興味対象に応用するにはどのようなデータが必要で、どのようなデータが利用可能かを報告。
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 データの利用可能性を前提にして、計量経済モデルの組み合わせ・修正を検討する。
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 同上

成績評価の方法 /Assessment Method

発表 ... 80%, 授業中のディスカッションへの参加 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

興味のある先行研究を探しておくこと。

特別研究 1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【昼】

担当者名 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

受講生各自が興味を持っているマクロ経済学関連の文献（本や論文など）を選択し、それを報告してもらう。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献報告
- 3回 文献報告
- 4回 文献報告
- 5回 文献報告
- 6回 文献報告
- 7回 文献報告
- 8回 文献報告
- 9回 文献報告
- 10回 文献報告
- 11回 文献報告
- 12回 文献報告
- 13回 文献報告
- 14回 文献報告
- 15回 文献報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の出来 70% 日常の授業への取り組み 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

報告に関しては、徹底した準備を要求する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特別研究 1 【昼】

キーワード /Keywords

特別研究 1 【昼】

担当者名 /Instructor 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

ミクロ経済分析の論理と方法を習得しつつ、関心のある特別研究テーマについて論文を作成し報告する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1～2回 ミクロ経済分析の論理と方法：現代ミクロ経済学の展開
- 3～8回 特別研究テーマの調査・研究報告
- 9～14回 特別研究論文の作成および報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度 50% レポートもしくは論文 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業内容の理解のために、ミクロ経済学の基礎知識を修得しておくこと。

キーワード /Keywords

ミクロ経済分析、特殊ミクロ経済行動・状況

特別研究 1 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文の内容の発表、先行研究の報告、修士論文に盛り込むデータと図表の作成を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～10回 修士論文の内容、とりわけ、本文に相当する部分を学生が執筆・発表し、指導する。
- 11回～13回 修士論文に盛り込むデータ・図表を学生が作成・発表し、指導する。
- 14回～15回 修士論文の問題の設定と予想される結論について、学生が発表し、指導する。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【昼】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文作成のための基本事項の学習を目指す。本科目では経済学と統計学の基礎を中心に演習を行う。また、課題発見のための論文収集、その読み込み、整理等についても指導を行う。

教科書 /Textbooks

E. R. Berndt, The Practice of Econometrics, Addison Wesley.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～第15回：教科書は経済分析のテーマごとに1章を割り当てている。そこで、章ごとに担当を決めて、レジュメ作成を行う。その後、章末の問題を実際に解くことを試みる。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の成績による。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前に教科書を読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【昼】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義では、環境経済学、エネルギー経済学の分野に関する実証分析の論文を理解するために必要な計量経済学の分析手法について学習し、講義の後半では論文を読む。

到達目標は以下のとおりです。

- ・ 計量モデルの推定と検定、統計分析結果を理解できるようになる。
- ・ 環境問題、エネルギー問題の経済分析に関する学術論文を読む基礎学力を身につける。

教科書 /Textbooks

受講者と相談して決めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

浅野・中村 『計量経済学』第2版 有斐閣 2009年 ○
Greene (2008), Econometric Analysis, Pearson Education ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要の説明と計量経済学について
- 2回 回帰分析1 【単回帰】、【推定】、【検定】
- 3回 回帰分析2 【系列相関】、【不均一分散】
- 4回 回帰分析3 【重回帰】、【多重共線性】
- 5回 操作変数法1 【同時方程式】、【識別問題】
- 6回 操作変数法2 【2段階最小二乗法】
- 7回 時系列分析1 【VAR】、【因果性検定】
- 8回 時系列分析2 【単位根】、【共積分】
- 9回 パネルデータ分析 【固定効果】、【変量効果】
- 10回 離散選択モデル 【プロビットモデル】、【ロジットモデル】、【トービットモデル】
- 11回 環境経済学関連の論文の紹介
- 12回 スマートグリッドの経済分析の論文の紹介
- 13回 デマンドレスポンスの経済分析の論文の紹介
- 14回 最近の研究動向の紹介
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の発言 (25%)、発表 (25%)、期末試験 (50%)

特別研究 1 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

学部レベルのミクロ経済学、マクロ経済学、線型代数、微積分、統計学の知識を前提に講義を進めるので、事前に経済学、数学、統計学の復習をしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【昼】

担当者名 岡山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義では修士論文の作成に寄与するべく、受講生による更なる問題意識の顕在化に努めるとともに、その個別具体の対応（「処方」と「診断」を含む）等を、当該受講生と相談して決め、きめ細かな論文指導を行う。

教科書 /Textbooks

適宜指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、その都度紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

週1回の頻度で、論文に係わる進捗状況の発表・議論、論文テーマに関連する課題の報告および議論をととして履修生の論文作成の進捗を図る。

- 1回 インTRODクシヨン・ガイダンス
- 2回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 3回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 4回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 5回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 6回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 7回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 8回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 9回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 10回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 11回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 12回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 13回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 14回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）
- 15回 学生による報告（事前に与えられた課題についての発表および議論）

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の学習深度と進捗、20%：期末のレポート、80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし。

特別研究 1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【昼】

担当者名 /Instructor 白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

概して、現代の財務会計上の重要な課題というのは、個々の資産の特性の相違や経済的環境の著しい変化も顧みず、「価値」と「コスト」に大幅な乖離がみられる資産に対しても、伝統的なコスト・アプローチ（収益・費用観）を一律に適用しようとしているところから生じているように思われる。そのことが、企業の経済的実態（経済的現実）の忠実な表現（描写）を阻害する極めて大きな要因になっているのである。現代の財務会計の主要な論点のひとつは、こうした伝統的なコスト・アプローチ（収益・費用観）による歪んだ像を、より現実的な写像を提供できるように、可能な限り修復しようとする一連の試みであるといえるのかもしれない。常にこうした問題意識を持ちながら、特に資産評価問題（資産会計）を中心に検討してみたい。伝統的な歴史的な原価主義の体系で説明することが難しくなっている現代的・基本的課題について講義したいと思う。現代の混沌とした状況に財務会計はどう対応し、またどう対応すべきかについて、院生と活発に議論してみたい。

教科書 /Textbooks

桜井久勝『財務会計講義（第16版）』（中央経済社）、醍醐聡『会計学講義【第4版】』（東京大学出版会）、白石和孝『イギリスの暖簾と無形資産の会計』（税務経理協会）ほか。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小松章『現代の財務経営（6）経営分析・企業評価』（中央経済社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 資産の評価問題（資産会計）を主要テーマとして、テキストを輪読し、解説することにしたい。院生相互の活発な質疑応答を大いに期待したい。
- 2回 同上
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・・・ 80% ディスカッションへの参加・・・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

特別研究 1 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【昼】

担当者名 西澤 健次 / Kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

現代会計の変化が早く、それに追従するあまり、会計学の古典を読む機会が少ないので、本研究ではあえて名著と言われる会計の書籍を取り上げて検討したいと思う。

教科書 /Textbooks

ペイトン・リトルトン『会社会計基準序説』森山書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶應義塾大学出版会○
西澤健次『負債認識論』国元書房○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回
テキストを精読しながら、会計の基本的な問題を考える。各担当者がレジюмеを準備し、報告をする。適宜、会計学の紹介を交えながら、各自の研究テーマについて談義する。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況・・・ 60% レポート・・・ 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本演習は、財務会計論の基礎的な思考をさらに深く吟味することを目的としているので、事前に著名な会計学者を調べ、その思想などについて、教科書、参考図書、参考論文、インターネットなどで学習しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【昼】

担当者名 /Instructor 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文の指導を行う。

教科書 /Textbooks

無

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

無

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション
第2~15回 修論指導

成績評価の方法 /Assessment Method

授業取組み度合によって評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【昼】

担当者名 /Instructor 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文作成のために必要な能力の習得を目標とする。本科目では、各受講生が興味を持つ、カオス、フラクタル、エージェントモデルなど複雑系手法、機械学習の手法を経済に応用した複雑系経済学に関する主題についての関連文献を選択し、読み、報告をしてもらう。

教科書 /Textbooks

テーマに応じて講義の中で指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：ガイダンス
第2回～第15回：文献報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の出来 70% 日常の授業への取り組み 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

各自、経営戦略論の領域で研究テーマを設定し、論文を作成すること、そして、これをつうじて経営戦略論の知識の応用力を高めることを目的とします。

到達目標は以下のとおりです。

- ・ 経営戦略論の諸学派アプローチを理解できる。
- ・ その諸理論により現実の経営問題の説明ができる。
- ・ さらに、経営問題の解決に応用できる。

教科書 /Textbooks

受講者の研究テーマを考慮に入れて、複数の候補の中からオリエンテーションにて決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各自、教科書を中心に論文執筆に必要な文献の内容について発表します。

学期末に中間報告を行ないます。

第1回 ガイダンス

第2回～第14回 学生による報告・討議

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常における授業への参加度20% 発表・報告内容80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

学部において経営戦略論、経営組織論の講義を履修している方が望ましい。

論文執筆に必要なと考えられる文献・論文の収集をしておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習・復習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 イノベーション 組織変革

特別研究 1 【昼】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

持株会社についての研究。

教科書 /Textbooks

下谷正弘『持株会社と日本経済』岩波書店、2009年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

下谷正弘の持株会社に関する文献。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持株会社の設立1
- 2回 持株会社の設立2 (具体例1)
- 3回 持株会社の設立3 (具体例2)
- 4回 持株会社と機関1
- 5回 持株会社と機関2
- 6回 持株会社と機関3
- 7回 持株会社と機関4
- 8回 株主権の縮減1
- 9回 株主権の縮減2
- 10回 株主権の縮減3
- 11回 持株会社の株主の保護1 (株主代表訴訟)
- 12回 持株会社の株主の保護2 (株主代表訴訟)
- 13回 持株会社の株主の保護3 (株主代表訴訟)
- 14回 持株会社とガバナンス1
- 15回 持株会社とガバナンス2とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告 ... 60%、 学習態度 (授業参加態度) ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

下谷の持株会社に関する文献を、少なくとも一冊は読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特別研究 1 【昼】

キーワード /Keywords

企業形態・ガバナンス・持株会社の解禁

特別研究 2 【昼】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 2

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

ミクロ経済分析の論理と方法を習得しつつ、関心のある特別研究テーマについて論文を作成・報告し、修士論文提出に向けての準備を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1～2回 ミクロ経済分析の論理と方法：現代ミクロ経済学の展開
- 3～8回 特別研究テーマの調査・研究報告
- 9～14回 特別研究論文の作成および報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度 50% レポートもしくは論文 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業内容の理解のために、ミクロ経済学の基礎知識を修得しておくこと。

キーワード /Keywords

ミクロ経済分析、特殊ミクロ経済行動・状況

特別研究 2 【昼】

担当者名 /Instructor 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 2

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文の指導を行う。

教科書 /Textbooks

無

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

無

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション
 第2～15回 修論中間発表

成績評価の方法 /Assessment Method

授業取組み度合と修論の内容・発表によって評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 2 【昼】

担当者名 /Instructor 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 2

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

各自、経営戦略論の領域で研究テーマを設定し、論文を作成することを目的とする。
 これをつうじて経営戦略論の知識の応用力を高めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指定。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各自、論文の途中経過の報告を行なう。
 学期末に中間報告を行なう。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第14回 学生による報告・討議
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度20% 発表・報告内容80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

論文執筆に必要と考えられる文献・論文の収集をしておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 イノベーション 組織変革

特別研究 3 【昼】

担当者名 /Instructor 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関するより高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 3

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

ミクロ経済分析の論理と方法を習得しつつ、関心のある特別研究テーマについて論文を作成・報告し、修士論文をまとめる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1～2回 ミクロ経済分析の論理と方法：現代ミクロ経済学の展開
- 3～8回 特別研究テーマの調査・研究報告
- 9～14回 特別研究論文の作成および報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度 50% レポートもしくは論文 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業内容の理解のために、ミクロ経済学の基礎知識を修得しておくこと。

キーワード /Keywords

ミクロ経済分析、特殊ミクロ経済行動・状況

特別研究 3 【昼】

担当者名 /Instructor 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Class 2年 /2 Year クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関するより高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 3

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文の指導を行う。

教科書 /Textbooks

無

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

無

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション
第2～15回 修論最終発表

成績評価の方法 /Assessment Method

授業取組み度合と修論の内容・発表によって評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 3 【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関するより高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 3

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

各自、経営戦略論の領域で研究テーマを設定し、論文を作成することを目的とする。
これをつうじて経営戦略論の知識の応用力を高めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指定。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各自、論文の途中経過の報告を行なう。
学期末に最終報告を行なう。
第1回 ガイダンス
第2回～第14回 学生による報告・討議
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度20% 発表・報告内容80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

論文執筆に必要と考えられる文献・論文の収集をしておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 イノベーション 組織変革

社会心理学【夜】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	◎ 社会の諸問題にかかわる社会心理学の専門知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	△ 人間関係に係わる諸課題を社会心理学的に調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	△ 人間関係に係わる諸課題に対して社会心理学の観点から対応策を提示できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

社会心理学

授業の概要 /Course Description

基本的には講義形式の形態をとりつつも、それほど受講者数が多くない場合には参加型の形態を織り交ぜて進めていく予定である。社会心理学の基礎的な理論、考え方、研究方法などを理解し、受講者が各自の研究テーマとの関連に気づくことが目的である。受講者の発表を交えながら様々な研究テーマについて社会心理学的視点から議論する。

社会心理学の研究法の主な特徴を理解した上で、社会心理学の理論が他の複数の学問分野にどのように関連するかを理解し、説明できるようになることが到達目標である。

教科書 /Textbooks

授業中に紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

社会心理学 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

前半（7, 8回程度）の講義では社会心理学の概論的なテキストを用いて進める。社会心理学の概論的な授業をする場合には、受講者からテキストの各節（参加人数によって、各自の担当ページ数や進度は異なる）の内容を報告してもらい、その内容について補足の講義を行う。その後、皆で議論する。

後半（7, 8回程度）は受講者各自の研究テーマの発表を交えながら様々な研究テーマについて社会心理学的視点から講義，及び議論をする。受講者が8名以下であれば，1回の授業に1名の発表となる。4名以下であれば発表回数は2回になる。

また，受講者各自の研究テーマの発表を交えながら，様々な研究テーマについて社会心理学的視点から講義，及び議論をする場合もある。

- 1回 オリエンテーション他
- 2回 社会心理学の特徴1【実験】
- 3回 社会心理学の特徴2【統計】
- 4回 動機づけと感情1【外発的動機づけ】
- 5回 動機づけと感情2【内発的動機づけ】
- 6回 人格と個性
- 7回 人格と文化
- 8回 社会的行動1【役割】
- 9回 社会的行動2【集団間関係】
- 10回 社会心理学と認知心理学との関連
- 11回 社会心理学と教育心理学との関連
- 12回 社会心理学と臨床心理学との関連
- 13回 社会心理学と福祉心理学との関連
- 14回 社会心理学と福祉学，教育学，社会学，人類学等との関連
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容 ... 50 % 議論への参加等 ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生涯学習論【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 生涯にわたる学習の特性や理論について専門的知識を修得する。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	△ 学習者の課題発見・解決プロセスを理解・分析する。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 学習者の課題発見・解決プロセスを支援・促進する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

生涯学習論

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

文献や各種調査結果や事例を手がかりにして、生涯学習についての理論的な理解を深める。
生涯学習や成人教育学の様々な理論について検討することを通して、自己決定型学習や意識変容の学習、またそれへの援助について理解を深める。

教科書 /Textbooks

必要に応じて、適宜、紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- パトリシア・クラプトン『おとなの学びを拓く』鳳書房
- 社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所
- その他、学会年報や紀要など

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 生涯学習とは何か
- 3 政策動向と論点
- 4 社会教育学としての研究動向
- 5 生涯学習としての研究動向
- 6 国際的な政策・研究動向と論点
- 7 成人教育論の理論展開
- 8 成人教育論の論点
- 9 子どもの教育学と成人教育学
- 10 意識変容の学習とは
- 11 自己決定型学習とは
- 12 学習と学習支援
- 13 学習支援者の専門性と役割
- 14 学習成果の還元、学習社会とは
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度と質疑応答・・・70%、レポート・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

生涯学習論 【夜】

履修上の注意 /Remarks

資料や関連文献の整理、課題への対応、自分なりの意見のまとめ

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

臨床心理学【夜】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	◎ 臨床心理学に関する専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 人間関係に係わる諸問題を臨床心理学の観点から調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題に臨床心理学の観点から解決策を提案できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

臨床心理学

授業の概要 /Course Description

E.Eriksonの漸成理論を拠り所にして、乳児期から老年期までの生涯発達を通じて、各発達段階における不適応の諸特徴、ならびに発達課題と不適応との関連を理解すると同時に、各発達段階に応じた臨床心理学的援助のあり方について考究する。その際、治療現場での臨床事例を取りあげ、その治療プロセスを詳細に検討することで、理論的・実践的な理解を深めていくこととする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。プリントを配布する予定である。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 松島恭子(編)『ライフサイクルの心理療法』創元社
- 『臨床心理学体系3 ライフサイクル』金子書房
- 下山晴彦・丹野義彦(編)『講座 臨床心理学5 発達臨床心理学』東京大学出版会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：本科目の概要と進め方
- 第2回～第4回 乳幼児期の不適応と臨床心理学的援助
- 第5回～第7回 児童期の不適応と臨床心理学的援助
- 第8回～第10回 青年期の不適応と臨床心理学的援助
- 第11回～第13回 中年期・老年期の不適応と臨床心理学的援助
- 第14回～第15回 ライフサイクルと不適応(これまでの内容をもとに全体討論を実施)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加度 ... 10% 発表 ... 60% 討論への参加度 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

発表者はレジュメを作成すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会福祉援助論【夜】

担当者名 /Instructor 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	△ 社会福祉援助の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	△ 人間の生活困難に関して調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 生活困難な状態にある人の人間関係に係わる諸課題について実践的な対応策を提示できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

社会福祉援助論

授業の概要 /Course Description

現代における社会福祉研究の動向を踏まえ、社会福祉援助の枠組みの制度的変化や意味について吟味し、社会福祉援助に関する方法論的検討を中心とした理論的検討を行う。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1～3回 社会福祉とは何かに関する文献購読と討論
- 4～8回 社会福祉の援助論、特に1960～70年代の文献購読
- 9～13回 社会福祉の援助論、特に1980年代以降の文献購読
- 12～15回 まとめの討論

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

文献購読が一定量必要となるので覚悟のこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

児童福祉論【夜】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	△ 児童家庭福祉の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	△ 児童家庭福祉に関する諸課題を調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 児童家庭福祉に関する諸課題について実践的な対応策を提示できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

児童福祉論

授業の概要 /Course Description

今日の児童福祉問題と子どもを取り巻く社会環境について理解する。子どもとは何か、子どもの特性や子どもを理解する視点を踏まえ、子どものニーズに対応する社会システムについて考察する。
児童福祉の理念としての子どもの権利条約について学ぶ。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「子どもたちは今」北九州版・子どもの人権レポート編集委員会
○社会福祉士養成講座「児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度」ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 子どものニーズと社会システム 【ヒューマンニーズの階層】
- 3回 子どもの成長・発達 【発達課題】 【発達観】 【ソーシャルスキル】
- 4回 子どもを理解する視点 【児童観の変遷】 【近代家族と子育て】 【母性神話】
- 5回 関係性に生きる存在、主体的存在としての子どもの事例
- 6回 歴史的な存在としての子どもの事例
- 7回 児童福祉の理念と子どもの権利 【能動的権利】 【受動的権利】 【子どもの意見表明権】
- 8回 児童虐待 【児童虐待防止法】 【マルトリートメント】 【親権】 【バタナリズム】
- 9回 子どもの権利条約と課題 【子どもオンブズパーソン】 【子どもの権利条約】 【国連子どもの権利委員会最終所見】
- 10回 子どもの権利をめぐる状況 【子どもの貧困】
- 11回 子どもの権利をめぐる状況 【所在不明の子どもたち】
- 12回 子どもの権利をめぐる状況 【被虐待児】
- 13回 子どもの権利をめぐる状況 【不登校・ひきこもり】
- 14回 子どもの権利をめぐる状況 【生きづらさを抱えた子どもたち】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加状況50%、提出課題50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

児童福祉論 【夜】

履修上の注意 /Remarks

授業で配布するレジユメを閉じる専用ファイルを準備すること。
单元ごとに配布する復習のプリントで自己学習をしておくこと。

社会福祉士関連科目「児童や家庭に対する支援と児童家庭福祉制度」と合わせて学習すると総合的理解が得られる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間環境学【夜】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	◎ 人間と文化の環境との関わりに関する専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間と文化の環境との関わりに関する諸課題を調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	△ 人間と文化の環境との関わりに関する諸課題について実践的な対応策を提示できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

人間環境学

授業の概要 /Course Description

環境は地質時代、先史時代、歴史時代を通して変化しており、文明は環境の変遷に深く関わりをもって生まれ、あるいは消滅してきたと考えられています。環境変遷と文明の関連を考えることは、現代の環境問題、ひいては現代文明の行く末を見きわめる手がかりともなります。本演習では、環境変遷と文明の関連について、特に日本人の日本列島への渡来と環境の関係について考えます。

この科目の主な到達目標は以下のとおりです。
人間と文化の環境との関わりに関する専門的知識を備える。
人間と文化の環境との関わりに関する諸問題を調査・分析できる。

教科書 /Textbooks

「日本人はるかな旅 1～5」(NHKスペシャル「日本人」プロジェクト編 NHK出版)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○「環境と倫理 自然と人間の共生を求めて」(加藤尚武編 有斐閣 1890円)
「人類史のなかの定住革命」(西田正規著 講談社 950円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回
最初の授業で、分担箇所と発表日を決め、そのスケジュールを進めることになります。
テキストを読んで発表・討論し、併せて同一タイトルで出版されているDVDも視聴します。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加の積極性 ... 30% 発表の内容 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

発表の担当でない回でもテキストを読んでおいてください。また、新聞など目を通し、関連する記事があれば読んでおくにより理解が深まります。受講生の興味や専攻分野によって、授業計画・内容等を変更することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人間環境学 【夜】

キーワード /Keywords

文化社会学【夜】

担当者名 /Instructor 濱野 健 / Takeshi Hamano / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	◎	文化と人間関係の関連について理解するための専門的知識を習得する。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎	文化と人間関係の関わりを見定め調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	△	文化と人間関係の関わりに関する現代的課題を整理し実践的な対応策を提示する態度を身につける。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

文化社会学

授業の概要 /Course Description

社会学領域において必須とされる社会理論・文化理論・批判理論の基礎理論を中心として、現代社会の様々な事象を批判的に分析する方法について能動的に学び、学位論文にむけた理論的・方法論的な能力を養う。
毎回、履修者は指定されたテキストの要旨と論点をまとめたディスカッションペーパーを持参してもらった上で、講義および全体討論を実施する。

教科書 /Textbooks

最初の数回は講義資料を担当教員が事前に配布する。その後は履修者の個別の研究計画などを鑑みて妥当なものを決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：社会理論の基礎①
- 2回：社会理論の基礎②
- 3回：社会理論①
- 4回：社会理論②
- 5回：社会理論③
- 6回：文化理論の基礎①
- 7回：文化理論の基礎②
- 8回：文化理論①
- 9回：文化理論②
- 10回：文化理論③
- 11回：批判理論の基礎①
- 12回：批判理論の基礎②
- 13回：批判理論①
- 14回：批判理論②
- 15回：批判理論③

成績評価の方法 /Assessment Method

授業内評価50%。ディスカッションペーパーによる全体議論への参加50%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

文化社会学 【夜】

履修上の注意 /Remarks

指定する講読資料は英文の場合もあるのでその旨を理解しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市社会学【夜】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	◎ 都市社会と人間との関わりについて理解するための理論的な枠組みを学習し、都市の社会的分析に関する専門的知識を習得する。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	△ 都市社会と人間との関わりについて調査・分析する基礎的技能を習得する。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○ 都市社会と人間との関わりに関する現代的課題を整理し実践的な対応策を提示する態度を身につける。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

都市社会学

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義では、都市社会学の基本的な見方・考え方・分析技法を学ぶことを目的とする。
 具体的には、以下の事柄について理解する。
 (1) 産業化と都市化の関係
 (2) 都市社会学の2大潮流としてのシカゴ学派都市社会学と新都市社会学の基本的な考え方
 (3) さまざまな社会現象における「都市的なもの」の意味
 (4) 都市計画の課題と可能性
 (5) 都市における社会現象を把握する技法
 なお、授業は演習形式も交えて行う。

教科書 /Textbooks

『都市の社会学 - 社会がかたちをあらわすとき』, 町村敬志・西澤晃彦著, 2000, 有斐閣

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『よくわかる都市社会学』, 中筋直哉・五十嵐泰正編著, 2013, ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の概要
- 第2回 近代都市の誕生
- 第3回 都市へのまなざし
- 第4回 都市的世界の構造
- 第5回 個性化のメカニズム
- 第6回 階級・階層生成のダイナミクス
- 第7回 都市生活の基盤
- 第8回 居住点から広がる社会
- 第9回 郊外という迷宮
- 第10回 政治権力と都市
- 第11回 見える都市、見えない都市
- 第12回 都市の計画と再生
- 第13回 ユートピアとしての都市
- 第14回 都市研究の方法
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題(レポート)... 70% 参加・貢献度... 30%

都市社会学 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキスト、配付資料等をよく読んでおくこと。
文献について報告してもらうので、(1) 概要、(2) 内容要約、(3) 論点整理、(4) 議論を記したレジユメの用意が必要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニティ、都市問題、シカゴ学派、人間生態学、アーバニズム、ネットワーク分析、新都市社会学、構造分析、集会的消費、社会階層、社会移動、社会的資源、エスノグラフィー、社会地図、参与観察、NPO、町内会、都市レジーム、地域開発、都市計画、再開発、反都市主義

コミュニケーション論【夜】

担当者名 /Instructor 松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	◎ コミュニケーションにおける心理学の諸分野の理論的な知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	△ コミュニケーションに係わる諸問題を調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○ コミュニケーションに係わる諸問題を心理学的観点から検討できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

コミュニケーション論

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

コミュニケーションに関する実験や調査の技法について学習する。また、受講者自身が計画している実験や調査の方法について発表してもらい、その方法について議論検討したり、既発表の論文で実施されている実験や調査について受講者にレビューしてもらい、そこで問題となっている論点や理論的捉え方について学習し、その方法について検討する。コミュニケーションに関する実験や調査の方法論について理解すること、分析手法として多変量解析の各特徴について理解することが到達目標である。

教科書 /Textbooks

使わない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 大野木裕明・中沢潤(編著)(2002). 心理学マニュアル研究法レッスン 北大路書房
- 山田剛史・村井潤一郎(2004). よくわかる心理統計 ミネルヴァ書房
- 海保博之ほか(1999). 認知研究の技法 福村出版
- 鎌原雅彦ほか(編)(1998). 心理学マニュアル 質問紙法 北大路書房
- 浦上昌則・脳田貴文(2008). 心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方 東京図書
- APA(アメリカ心理学会)(2004). APA論文作成マニュアル 医学書院
- 小塩 真司(2004). SPSSとAmosによる心理・調査データ解析—因子分析・共分散構造分析まで 東京図書
- 松尾太加志・中村知靖(2002). 誰も教えてくれなかった因子分析 - 数式が絶対に出てこない因子分析入門 - 北大路書房

コミュニケーション論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 コミュニケーションをテーマとした実験論文の講読(1) 【序・方法】
- 第3回 コミュニケーションをテーマとした実験論文の講読(2) 【結果】
- 第4回 コミュニケーションをテーマとした実験論文の講読(3) 【考察】
- 第5回 質問紙調査(重回帰分析と因子分析を利用)論文の講読(1) 【序・方法】
- 第6回 質問紙調査(重回帰分析と因子分析を利用)論文の講読(2) 【結果】
- 第7回 質問紙調査(重回帰分析と因子分析を利用)論文の講読(3) 【考察】
- 第8回 質問紙調査(因子分析とSEMを利用)論文の講読(1) 【序・方法】
- 第9回 質問紙調査(因子分析とSEMを利用)論文の講読(2) 【結果】
- 第10回 質問紙調査(因子分析とSEMを利用)論文の講読(3) 【考察】
- 第11回 探索的因子分析の演習
- 第12回 検証的因子分析の演習
- 第13回 共分散構造分析の演習
- 第14回 受講者による発表および討論(前半)
- 第15回 受講者による発表および討論(後半)

成績評価の方法 /Assessment Method

平素 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各自の修士論文のテーマを具体化しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者の数によっては、一部内容を変更することがあります。

キーワード /Keywords

教育制度論 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	△ 教育の制度に関する理論的な枠組みを学習、専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	△ 教育の制度に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 教育の制度に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

教育制度論

授業の概要 /Course Description

概要

教育の制度についての文献の検討や討論を通して、専門的知識を習得し、研究の進め方を学ぶ。
 授業前半は教育の制度に関わる共通の文献資料（研究論文）を提示し、参加者による報告発表を起点に討論する。
 後半は教育の制度に関連する文献・資料の収集を実習、収集した中から講読文献を決め、参加者による報告発表を起点に討論する。

目標

- ①教育の制度を研究する上で必要な専門的知識を習得する。
- ②教育の制度に係わる諸課題について、調査・分析できる。

教科書 /Textbooks

なし。
 資料は初回に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 教育の制度（日本）に関する研究論文の検討
- 3回 学校教育の制度（日本）に関する研究論文の検討
- 4回 教育の制度（英語圏）に関する研究論文の検討
- 5回 学校教育の制度（英語圏）に関する研究論文の検討
- 6回 学校教育の制度（英語圏以外の欧州）に関する研究論文の検討
- 7回 学校教育の制度（東・東南アジア）に関する研究論文の検討
- 8回 中間まとめ
- 9回 収集した文献・資料の検討1【日本の学校教育】
- 10回 収集した文献・資料の検討2【日本の社会教育】
- 11回 収集した文献・資料の検討3【英語圏の教育制度】
- 12回 収集した文献・資料の検討4【東・東南アジアの教育制度】
- 13回 収集した文献・資料の検討5【学校とコミュニティ】
- 14回 収集した文献・資料の検討6【教育と福祉】
- 15回 まとめ

教育制度論 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度...50% 発表報告...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

資料は事前によく読んでおくこと。発表者は事前の準備を行い、発表当日はレジユメ等、プレゼン資料を準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

臨床教育学【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	△	子ども・青年の中に生じてくる様々な臨床的な問題の発生機序とその克服に向けての指導の課題について、基本的な理解を持っている。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎	様々な課題を抱える子ども・青年の抱える課題を分析しつつ、その援助を行っていくための基本的な技能を修得している。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎	子ども・青年に対して人権尊重の理念に根ざした尊敬の態度で関わっていく意欲と態度を持っている。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

臨床教育学

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

授業の目的は以下のとおりである。

1. 学校での教育相談の意義と課題、教育相談の領域(予防的・開発的教育相談、問題解決的教育相談)、教育相談の学校体制、他の専門職や関係諸機関との連携のあり方等についての基本的な理解を持つこと。
2. 教育相談の基本的な理念と技法(傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など)を修得すること。
3. 不登校やいじめなど、様々な問題を出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて、検討していくこと。

教科書 /Textbooks

春日井敏之・伊藤美奈子編 「よくわかる教育相談」 ミネルヴァ書房
文科省編 「生徒指導提要」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 広木克行 「教育相談」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
- 吉田圭吾 教師のための教育相談の技術 金子書房
- 日本学校教育相談学会 学校教育相談学ハンドブック ほんの森出版
- 一丸藤太郎・菅野信夫編著 学校教育相談 ミネルヴァ書房
- 楠 凡之 「いじめと児童虐待の臨床教育学」 ミネルヴァ書房
- 楠 凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 高文研

臨床教育学【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 教育相談の意義
- 2回 教育相談の担い手としての教師(テキスト 第1章 生徒指導提要第4章)
- 3回 子どもの発達課題と教育相談(テキスト 第II章)
- 4回 教育相談の基本的な理念について - 人間に内在する力への信頼、受容、共感的理解
- 5回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれた質問と直面化
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ体験
- 7回 子どもの「問題行動」と教育相談 その1 不登校問題など(テキスト 第III章)
- 8回 子どもの「問題行動」と教育相談 その2 摂食障害、性的問題行動など(テキスト 第III章)
- 9回 子どもの「問題行動」と教育相談 その3 薬物問題(外部講師)
- 10回 特別支援教育と教育相談(テキスト 第IV章)
- 11回 予防・開発的取り組みと教育相談(テキスト 第V章)
- 12回 保護者への支援と教育相談(テキスト 第VII章)
- 13回 教育相談の学校体制とスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどとの連携(テキスト第IX章)
- 14回 今日のいじめ問題への理解と指導 - 文科省の通知(H25.10.15)内容と学生の体験報告を踏まえて
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%

なお、授業の出席が2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。

授業を欠席した場合には、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストはできるだけ授業の前に読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談の理念と技法、予防・開発的教育相談、問題解決的教育相談

高齢社会論【夜】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	△ 高齢社会の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 高齢社会における人間関係に係わる諸課題を調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 高齢社会における人間関係に係わる諸課題について実践的な対応策を提示できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

高齢社会論

授業の概要 /Course Description

人口構成の高齢化が進展し、2050年頃には40%近い高齢化率に達すると推計されている。この間に、75歳以上人口や85歳以上人口の増加が見込まれている。このような高度高齢社会への人口転換がもたらす社会的影響について、心理・社会的な視点から講義を進める予定。これにより高度高齢社会への移行期に生起する心理・社会的課題について理解することができる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない(資料配布等による)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義の進め方
- 第2回 人口構造の高齢化の推移と要因
- 第3回 人口ボーナスと人口オーナス
- 第4回 高齢者の社会的適応と社会理論 (心理学的視点から)
- 第5回 高齢者の社会的適応と社会理論 (社会学的視点から)
- 第6回 高齢者の心理・社会的課題 (認知機能の変化)
- 第7回 高齢者の心理・社会的課題 (文化的位置づけとアイデンティティ)
- 第8回 高齢者のQOLの課題
- 第9回 高齢者の家族関係 (介護、認知症、虐待等)
- 第10回 近隣の社会関係の課題
- 第11回 高齢者の介護・福祉・医療の制度的側面 (介護保険制度、後期高齢者医療制度)
- 第12回 高齢化に伴う労働力の課題
- 第13回 人口減少と女性の就業の課題
- 第14回 人口高齢化に伴う地域的政策課題 (社会参加、社会的支援等)
- 第15回 まとめ (高齢化の長所、短所など)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートの提出40%、講義への参加 (報告等) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし

高齢社会論 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

司法福祉論【夜】

担当者名 深谷 裕 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 非行や犯罪と社会および福祉の関係性に関する専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 司法福祉に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 司法福祉と福祉制度・実務に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

司法福祉論

授業の概要 /Course Description

非行や犯罪にかかわるあらゆる現象について、司法福祉をキーワードに、主に心理社会的及び福祉的視点から検討していく。地域性、文化、価値観はもちろんのこと、司法制度、教育制度、医療制度、雇用制度、福祉制度等さまざまな社会制度のあり方が、非行や犯罪にどのように関わっているのかを理解する。

教科書 /Textbooks

授業中に紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

加藤博史/水藤昌彦編「司法福祉を学ぶー総合的支援による人間回復への途」(ミネルヴァ書房 2013年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の概要
- 第2回 犯罪や非行に対するとらえ方
- 第3回 歴史の中の司法福祉
- 第4回～7回 司法福祉の理論と実践
- 第8回～12回 司法福祉に関わる制度と組織
- 第13回～14回 司法福祉の国際比較
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点70% 期末レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習内容を指定するので、必ず目を通して授業にのぞむこと。
基本的には講義形式の形態をとるが、受講数が少ない場合は、参加型の形態をとりつつ進めて行く。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィールドワーク論 【夜】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 諸文化の相対性と、人類の生物学的普遍性に関する最新の研究をリファアーする。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 参与観察とインタビューを通してフィールドワークに基づく長期の質的調査を遂行できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ フィールドワークでえられた知見を分析し、個別具体的な事例から人間性の諸問題に関する普遍的な議論へと展開する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

フィールドワーク論

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

人類学や社会学など社会科学の分野で広くおこなわれている質的調査の方法論のひとつであるフィールドワークについて実地のデータを用いながら学習する。各自の研究テーマを題材にして、フィールドでのデータの収集・考察の手法を学ぶ

教科書 /Textbooks

各自の研究テーマを考慮し文献を選択する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の研究テーマを考慮し文献を選択する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1講 研究テーマの確認とオリエンテーション
- 第1講 フィールドワークに関する基本的文献
- 第2講 実際のデータの活用と分析手法
- 第3講 文献のプレゼンとそれに基づくディスカッション【基礎】
- 第4講 文献のプレゼンとそれに基づくディスカッション【実践】
- 第5講 文献のプレゼンとそれに基づくディスカッション【応用】
- 第6講 調査課題の提出
- 第7講 調査計画の検討
- 第8講 データの収集と類型化
- 第9講 データの分析と考察
- 第10講 先行研究とのすりあわせ
- 第11講 他の調査方法との組み合わせ
- 第12講 研究成果に関するディスカッション
- 第13講 研究成果に関するプレゼンテーション
- 第14講 問題点の抽出
- 第15講 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ディスカッション 70%
レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

フィールドワーク論 【夜】

履修上の注意 /Remarks

毎回、事前に必要な文献を読んでおくこと。
実際の調査データを収集する

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィールドワーク
社会調査

臨床社会学【夜】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	△	臨床現場の諸課題や実践にかかわる専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○	臨床現場の諸課題や実践について社会的に調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎	臨床現場の社会的な考察を踏まえ、実践的な対応策を提示できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

臨床社会学

授業の概要 /Course Description

社会学の一つのアプローチをなす「臨床社会学」の考え方について学ぶ。「逸脱の社会学」や「社会問題の社会学」では、何がどう議論されてきたのか。こうした論点を整理しながら、社会問題研究の先端に位置づく臨床社会学の可能性について議論する。

教科書 /Textbooks

受講者の研究テーマに応じて適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講者の研究テーマに応じて適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 テーマの設定
- 2回 臨床社会学の議論の概要
- 3回 研究文献の選定①
- 4回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 5回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 6回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 7回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 8回 中間まとめ
- 9回 研究文献の選定②
- 10回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 11回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 12回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 13回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 14回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ディスカッション…100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

発表者はプレゼンテーションの準備を入念に取り組んでください
参加者は事前にディスカッションに必要な資料を各自で集めて準備してください

臨床社会学 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境社会学【夜】

担当者名 /Instructor 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間社会と自然環境・文化的環境に関する専門知識を習得する。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析ができる。	○ 人間社会と自然環境・文化的環境に関する調査・分析ができる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間社会と自然環境・文化的環境に関する問題や対策を提示できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

環境社会学

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

自然環境のなかでも、とくに日本の風土を特徴づける森林環境を主な対象とする。「森林」環境の関係領域は広く、広義の概念である「やま（山）」、さらに森や社、林業・林産業、竹林、原野、山村などの要素も含まれている。この演習では、文献講読によって、森林に関わる生活様式や民俗慣習、農山村の集落社会、農林業経済や政策などの実態把握を行い、森林に関する様々な人間社会の営みから文化を読み取れるようになることが目標である。

教科書 /Textbooks

- 筒井迪夫「森林文化への道」
 - 北村昌美「森林と日本人」
- その他、各自の関心テーマにあわせて選択する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 研究分野のガイダンス、文献の選択と進め方の決定
- 2回 森林文化に関わる研究史について
- 3回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 4回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 5回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 6回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 7回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 8回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 9回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 10回 新しい森林文化の研究について
- 11回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 12回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 13回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 14回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(討論への参加含む)...50% 事前調査と発表内容...50%

環境社会学 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

森林（山林）、林業、山村（農村、村）等をキーワードに、関心のある分野の文献を各自で読み進めていくことが期待される。

キーワード /Keywords

イギリス文学研究概論 【夜】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科, アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科
田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ イギリス文学研究に必要な高度な知識を身につける。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ イギリス文学研究に関する資料を適切に分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ イギリス文学研究に関する課題を主体的に解決できるようになる。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		イギリス文学研究概論

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

歴史的な視点、現代的な視点の両方からイギリス文学を研究、分析していくための基礎的な素養を獲得することを主目的とする。文学は大きく、詩、劇、小説に分けられるが、Hailesが劇を、木原が詩を、田部井が小説を担当する。

教科書 /Textbooks

特に中心に置くテキストはないが、毎回ハンドアウトを用意する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜指摘する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 (Hailes) Introduction to Shakespeare: Theatre and the Renaissance Imagination
- 2回目 (Hailes) Shakespeare and Gender: Twelfth Night
- 3回目 (Hailes) Shakespeare and Sexuality: A Midsummer Night's Dream
- 4回目 (Hailes) Shakespeare and Sovereignty: Richard III
- 5回目 (Hailes) Shakespeare and Pleasure: Macbeth
- 6回目 (木原) W. B. Yeats: Introduction
- 7回目 (木原) W. B. Yeats、前期ケルトの薄明の詩
- 8回目 (木原) W. B. Yeats、後期象徴主義詩
- 9回目 (木原) W. B. Yeatsとアイルランド、ナショナルアイデンティティー
- 10回目 (木原) W. B. Yeatsと能
- 11回目 (田部井) 導入： D.H.Lawrence 全般について
(イギリス小説全般の中の異端児として：階級、性、ジェンダー、エコロジー)
- 12回目 (田部井) "The Man Who Loved Islands" を読む (第一の島)
- 13回目 (田部井) "The Man Who Loved Islands" を読む (第二の島)
- 14回目 (田部井) "The Man Who Loved Islands" を読む (第三の島)
- 15回目 (田部井) "The Man Who Loved Islands" を読む (まとめ)

成績評価の方法 /Assessment Method

各教員が3分の1ずつ評価し、最終的にそれを合計する。各教員により課題や小テストなどの方法は異なる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

イギリス文学研究概論【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ文学研究概論 【夜】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科, 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科
スコット・ピュー / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ アメリカ文学に関する専門的知識を広範に修得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ アメリカ文学に関する専門的な研究方法と分析手法を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ アメリカ文学が有する先見性に対する理解を深める。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

アメリカ文学研究概論

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

アメリカ文学の全体像を理解してもらい、アメリカ文学に関する研究方法と専門的知識を身に付ける。

教科書 /Textbooks

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『アメリカ文学思潮史』 福田陸太郎 中教出版
 - 『アメリカ文学史 1、2、3』 亀井俊介 南雲堂
 - 『アメリカ文学必須用語辞典』 スティーブン・マタソン 松柏社
 - 『アメリカ文学案内』 寺門泰彦/渡辺信二 朝日出版社
- 必要に応じて、各担当教員からも別途、参考書リストが配布される場合がある。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 アメリカ小説研究 1
- 3回 アメリカ小説研究 2
- 4回 アメリカ小説研究 3
- 5回 アメリカ小説研究 4
- 6回 アメリカ演劇研究 1
- 7回 アメリカ演劇研究 2
- 8回 アメリカ演劇研究 3
- 9回 アメリカ演劇研究 4
- 10回 アメリカ演劇研究 5
- 11回 アメリカ詩研究 1
- 12回 アメリカ詩研究 2
- 13回 アメリカ詩研究 3
- 14回 アメリカ批評研究 1
- 15回 アメリカ批評研究 2

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

三人の教員のリレー講義の形を取るため、授業計画に多少の変更が生じる可能性があります。

アメリカ文学研究概論 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語学研究概論 【夜】

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 英語学に関する知識を持ち、研究者として社会に役立てる能力を修得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 高度な英語力を持つ専門的職業人として、資料を適切に分析し研究できる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 英語学の知識を生かし、社会が抱える課題を主体的に解決できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

英語学研究概論

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義は英語という言語を様々な視点から観察し、英語学研究に必要な基本的知識と理論を受講生が習得することを目的とする。英語史（英語の歴史）、英語音声学（英語の発音・強勢・リズム・イントネーション）、音韻論（英語発音の規則）、社会言語学（英語の地域変種・社会変種、英語の変化）等の分野に焦点を当てる。各研究分野の具体例を紹介しながら基本的理論を解説し、受講生の英語学研究分野に関する理解を深めることを目指す。

教科書 /Textbooks

（予定）山内信幸・北林利治 共編著（2014）『現代英語学へのアプローチ』。英宝社。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 地球語としての英語
- 3回 英語の誕生
- 4回 近代英語の誕生
- 5回 英語の新大陸への進出
- 6回 英語の地域的変種
- 7回 英語の地球的拡散
- 8回 英語の社会的変種
- 9回 英語の音声と音韻の仕組み
- 10回 英語の語彙と意味
- 11回 英語の文構造-生成文法の観点から-
- 12回 英語の文構造-認知言語学の観点から-
- 13回 英語の運用と表現の諸相
- 14回 英語の習得
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表・平常の学習状況...50%、レポート...50%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

英語学研究概論 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語教育法研究概論 【夜】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科, クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 英語教育学に関する高度な知識を身に付け、通訳教育についても考察し、現代を生きる日本人に最も適した英語教育学のあり方を考えることができる。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 理解力、分析力に裏打ちされた研究を遂行するとともに、自らがその手本として高度な英語力を身に付けている。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 理論や技能にとどまらず、グローバル人材として活躍できる人材を育成するとの自覚を持ち、教養や知識の習得にも配慮する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

英語教育法研究概論

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

「事実上の国際共通語」の地位を得て久しい英語ですが、それゆえにグローバル化が進むのにあわせ、この言語に習熟することが前にもまして重要になってきています。何らかの形で英語と関わる分野の研究を深めようとする皆さんは、たとえ直接英語教育に携わる立場に立たなくとも、英語学習者の方々への助言を行なうなど、さまざまな形で間接的に英語教育にかかわることとなります。

この授業では、タスクを中心とした学習法の研究を行なっているクレイグ・ランバート先生と、おもに通訳教育を専門としている伊藤健一の2名の教員がそれぞれの得意とする領域についてお話しし、皆さんと意見交換をしながら学びを深めていきたいと思っております。第2回から第9回までをランバート先生が、第1回と第10回以降を伊藤が担当します。なお、一部メニューが重複しますが、復習として、また異なる見解に触れる機会として考えていただければ幸いです。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。授業ではプリントなどを用い、皆さんの学習の便宜を図ります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業の中で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 オリエンテーション：英語を取りまく世界の状況
- 第02回 Types of Language Knowledge
- 第03回 Approaches to Language Teaching
- 第04回 Discourse Demands
- 第05回 Task Sequencing
- 第06回 Lesson Planning
- 第07回 Teaching Methods
- 第08回 Learner Motivation
- 第09回 Evaluating Learners Performance
- 第10回 言語習得理論と学習法
- 第11回 リーディングの指導
- 第12回 リスニング・スピーキングの指導
- 第13回 文法・作文の指導
- 第14回 教材と授業運営
- 第15回 通訳教育からの提言

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加の度合い50% + 学期末レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

英語教育法研究概論 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語表現法【夜】

担当者名 /Instructor クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	英語表現法に関する高度な知識を身につける。	
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	英語表現法に関する資料を適切に分析できるようになる。	
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	英語表現法に関する課題を主体的に解決できるようになる。	
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			英語表現法	

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

This course will build advanced-level academic English vocabulary through study of the Latin roots, prefixes and suffixes that are commonly used in the construction of English words. The course will be especially useful for learners doing graduate study in literature, linguistics or law. It will provide them with the skills necessary to deconstruct the meaning of unknown words encountered in texts as well as to express their own ideas more eloquently.

教科書 /Textbooks

Ayer, D. English Words from Latin & Greek Elements. 2nd Ed. University of Arizona Press.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Barnhardt, R. K. (Ed.) Chambers Dictionary of Etymology.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Lesson 1: Orientation; the English-English dictionary (Homework: Ayer 1)
 Lesson 2: The origins & development of the English language
 Lesson 3: Definitions; word structure: bases, prefixes, suffixes (Homework: Ayer 2)
 Lesson 4: Prefixes: regressive assimilation (Homework: Ayer 3)
 Lesson 5: Prefixes: other predictable sound changes; acronyms (Homework: Ayer 4-5)
 Lesson 6: Multiple-base words; hybrid words (Homework: Ayer 6-7)
 Lesson 7: Review #1 (units 1-7)
 Lesson 8: Suffixes (adjectival): dissimilation & other sound changes (Homework: Ayer 8-10)
 Lesson 9: Suffixes (adjectival): semantic & functional change (Homework: Ayer 11-13)
 Lesson 10: Suffixes (noun): abstraction, weakening and hyperbole (Homework: Ayer 14-16)
 Lesson 11: Suffixes (noun): diminutives, concept development (Homework: Ayer 17)
 Lesson 12: Suffixes (noun): euphemism, taboo deformation & circumlocution (HW: Ayer 18-19)
 Lesson 13: Suffixes (verbal): clipped words and blends (Homework: Ayer 20-21)
 Lesson 14: Doublets; Latinisms in English; metathesis, Latin phrases in English (Homework: Ayer 22-25)
 Lesson 15: Review #2 (units 8-25)

成績評価の方法 /Assessment Method

Mid-term test 50% Final test 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Learners will analyze, define and learn approximately 40 English words per week.

英語表現法 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代イギリス文学研究 【夜】

担当者名 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 現代イギリス文学に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 高度な英語力を持つ専門的職業人として、現代イギリス文学に関する資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△ 専門的な言語・現代イギリス文学の知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		現代イギリス文学研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

今日エコロジストは、絶対化された存在という呪縛から人間を解き放ち、人間を相対化し、人間もあくまで自然の一部に過ぎないと主張します。しかし人類の長い歴史を振り返ると、人間は自然を搾取し、コントロールすることで文明を発展させてきたことが分かります。このような自然と人間の関係を軸に文学作品を批評する方法として昨今脚光を浴び出したのが「エコクリティシズム」です。

そこで今回は、その方法論を習得し、時間的に余裕があれば、幾つかの詩をその視点で鑑賞します。扱う詩人は、イギリス人ではロマン派の代表者W.ワーズワスや、自然搾取が確実に深刻な問題になりつつあった時代を生きたD.H.ロレンス、アメリカ人では、ウォールデン湖のほとりで自然と共に生きる生活を敢えて実践したH.D.ソローや、“inhumanism”を唱えたR.ジェファーズなどです。これらの詩人をエコロジーの視点で鑑賞することで、彼らの今日的意義を探ります。

授業の到達目標： 英米から始まったエコクリティシズムに関する知識を養い、現代の英米における詩人たちをエコロジーの発想で論じると同時に、それらの特徴を説明できるようになること。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。(The Ecocriticism Readers by Cheryl Glotfelty)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入 (自然と文学について)
- 2回 The Ecocriticism Readers pp. xv - xvii 精読と解釈
- 3回 The Ecocriticism Readers pp. xvii - xviii 精読と解釈
- 4回 The Ecocriticism Readers pp. xviii - xx 精読と解釈
- 5回 The Ecocriticism Readers pp. xx - xxii 精読と解釈
- 6回 The Ecocriticism Readers pp. xxii - xxiv 精読と解釈
- 7回 The Ecocriticism Readers pp. xxiv - xxv 精読と解釈
- 8回 伊藤詔子氏によるエコクリティシズムの説明論文の紹介
- 9回 ソローの『ウォールデン』からの抜粋の読みと、それを巡る議論
- 10回 ワーズワスの詩の鑑賞とエコロジー的読み
- 11回 ロレンスの詩の鑑賞とエコロジー的読み
- 12回 ジェファーズの詩の鑑賞とエコロジー的読み
- 13回 自然と人間のあり方についての議論： 授業を踏まえて(1)【機械文明の問題】
- 14回 自然と人間のあり方についての議論： 授業を踏まえて(2)【共生の可能性】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・・・ 80%
毎回の授業への参加度など・・・ 20%

現代イギリス文学研究 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

テキストの英文を精読します。しっかりと予習をして授業に臨んでください。

キーワード /Keywords

イギリス文学研究 【夜】

担当者名 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ イギリス文学研究に関する高度な知識を身につける。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ イギリス文学に関する資料を適切に分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△ イギリス文学研究に関する課題を主体的に解決できるようになる。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		イギリス文学研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

メインなテキストとしてボードリアールの『シミュラクルとシミュレーション』を置き、毎回2章ずつ読んでいく。同時に、ボードリアールの主張するシミュラクルとシミュレーションの考え方をベースにして、Lewis Carol, Charles Dickens, P. B. Shelley, John Foweles, W. B. Yeats等のイギリス文学の作家について考察し、「オリジナルなきシミュラクル」の問題について考える。

教科書 /Textbooks

ボードリアール『シミュラクルとシミュレーション』（叢書・ユニベルシタス）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業において適宜指摘する。

イギリス文学研究 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 シミュラーケルの先行、歴史
復古のシナリオ
- 3回 ホロコースト
チャイナ・シンドローム
- 4回 アポカリプス・ナウ (『地獄の黙示録』)
ポーブル効果—内破と抑止
- 5回 ハイパーマーケットとハイパー商品
メディアの中で意味は内破する
- 6回 絶対広告と零広告
クローン物語
- 7回 ホログラム
クラッシュ
- 8回 シミュラーケルとSF
動物—テリトリーとメタモルフォーズ
- 9回 残り
螺旋しかばね
- 10回 価値のラスト・タンゴ
ニヒリズムについて
- 11回 ルイス・キャロルとシミュラーケル
- 12回 デイケンズとシミュラーケル
- 13回 ブロンテとシミュラーケル
- 14回 P. B. シェリーとシミュラーケル
- 15回 ジョン・ファウルズとシミュラーケル

成績評価の方法 /Assessment Method

平素100パーセント

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス文化研究 【夜】

担当者名 アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立つ能力を修得する。	○ イギリス文化、社会、歴史を理解した上でシェイクスピア演劇の分析ができるようになる。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 国際的に認められる論文が英語で書けるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 国々間の文化、考え方を交換するための架け橋となる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

イギリス文化研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

The purpose of this course is to direct students through an exploration into the relationships that exist between the theatre of Shakespeare and Renaissance society. This exploration will take place in an English language environment. A Shakespearean tragedy will be selected to serve as the base from which to conduct research into Renaissance culture. The initial twelve classes will focus upon analysis of the primary source alongside reference to historical/socio-historical events and key texts in the field of literary criticism. The final three classes will follow a similar format, but will be led by students. Instruction in English for Academic Purposes will constitute a further component of the course.

On successfully completing the course students will be able to conduct new historicist investigations into Renaissance literature and communicate the process and outcome of such investigations in academic presentation and thesis formats.

教科書 /Textbooks

Shakespeare, William, Complete Works (The RSC Shakespeare), ed. by Jonathan Bate and Eric Rasmussen (Basingstoke: Macmillan, 2007)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A required reading list (secondary sources) will be available prior to the first class.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Class 1: Introduction – ‘Reading’ Shakespeare
Class 2: Performance in Elizabethan England 1: The Rules
Class 3: Performance in Elizabethan England 2: The Stage
Class 4: Audiences in Elizabethan England 1: Society
Class 5: Audiences in Elizabethan England 2: Education
Class 6: Politics and the Play
Class 7: Gender and the Play
Class 8: Renaissance Revenge 1: Key Texts
Class 9: Renaissance Revenge 2: Key Structures
Class 10: Performance Text as a Cultural Document 1: Gender
Class 11: Performance Text as a Cultural Document 2: Power
Class 12: Review
Class 13: Student-Led Group Discussion: Text and Performance
Class 14: Student-Led Group Discussion: What is real?
Class 15: Student-led Group Discussion: The Director’s Problems

イギリス文化研究 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

A 2000-word report to be submitted as the course concludes ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Required preparation will be discussed during the first class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ文学研究 【夜】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ アメリカ文学を代表的する特定の作家に関する高度に専門的な知識を修得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ アメリカ文学の作品を専門的視点から分析し、独自の解釈を口頭発表できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△ 過去のアメリカ文学作品が有する先見性に対する理解を深める。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		アメリカ文学研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

アメリカ文学と、現実のアメリカ人の価値観、美意識やアメリカの歴史・文化との相互関係についての分析・考究を行う。より具体的には、小説 *Adventures of Huckleberry Finn* を精読し、作品内容と当時の南部社会の特質との関連性について考察する。特に、作品中の奴隷制度の描写に焦点を当てることにより、作品外の現実が、如何なる形で作品構造に対して影響を及ぼしているかを論ずる。以上の作業を行うことによって、アメリカ文学とアメリカ文化との関連性を分析する能力を身につけたい。併せて、本作に関する批評論文や、作品内容と関連したアメリカ文化に関する英語資料も、時間が許す限り読解したい。古典的な文学作品や研究論文の英語を読みこなせるだけの英語読解力を、可能な限り身につけることも目標とする。

教科書 /Textbooks

Adventures of Huckleberry Finn Mark Twain A Norton Critical Edition ISBN: 978-0-393-96640-4
受講希望者は事前に上記テキストを、アマゾンや生協等に発注し購入しておくこと。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- *Huck Finn* Ed. Harold Bloom Chelsea House Publisher
- *Coming to Grip with Huckleberry Finn* Tom Quirk University of Missouri Press
- 『ハックルベリーフィンの冒険』(上、下) 西田実訳 岩波文庫

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方に関するオリエンテーション Mark Twain に関する概説
- 2回 南部文化、奴隷制度等の作品の背景に関する解説
- 3回 1-4章 作中のキリスト教の位置づけ
- 4回 5-8章 アメリカ文学における父親のイメージ
- 5回 9-12章 ハックのジムに対する姿勢の本質
- 6回 13-16章 ハックとジムの論争の描写の意味について
- 7回 17-23章 グレンジャーフォード家についてハックが語る際の語り口の特徴
- 8回 24-27章 詐欺師の二人組に対するハックの不可解な対応の意義
- 9回 28-31章 メアリー・ジェーンに対するハックの評価の不可思議性
- 10回 32-35章 なぜハックは詐欺師をリンチから救うことに強くこだわるのか。
- 11回 36-40章 トムが主導するジムの救出作戦の描写は、何を読者に伝えようとしての結果なのか。
- 12回 41-43章 ハックのジムに対する姿勢は、作品当初と比べて、どのように変化したのか、していないのか。
- 13回 南部の奴隷制度に関する論文の読解
- 14回 作品の背景となる南部文化に関する論文の読解
- 15回 作品に関する論文の読解、全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...70% 発表...30%

アメリカ文学研究 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

作品の事前に指定された箇所（25ページ程度）を事前に読んでおくこと。
また、重要と判断した箇所に関して、可能な限り自分自身の解釈を考えておくこと。
発表の担当となっている場合は、指示に従ってレジユメを作成しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ文化研究 【夜】

担当者名 /Instructor 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ アメリカの文化に関する高度な知識を身に付ける。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ グローバル社会の諸課題に主体的に向きあえるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

アメリカ文化研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

1960年代のミュージカル映画と演劇について学ぶ。

教科書 /Textbooks

文献は初回の授業で紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入
- 2回 1920年代～1950年代
- 3回 時代背景
- 4回 『ウエストサイド物語』
- 5回 『マイ・フェア・レディ』
- 6回 『サウンド・オブ・ミュージック』
- 7回 「イギリス人の侵入」
- 8回 ザ・ビートルズ
- 9回 ロック・ミュージカル
- 10回 アフロ・アメリカンの音楽
- 11回 「人種のサラダ」
- 12回 「寛容な社会」
- 13回 ポプ・フォッシー
- 14回 アンドリュー・ロイド＝ウェーバー男爵
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20% 発表...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習を必ず行い、プレゼンの資料を用意すること。

アメリカ文化研究 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の頭で考えてください。教師に対し理論的な戦いを挑み、倒すことを考えている院生を大歓迎します。
演習室はコロシウム。

キーワード /Keywords

【ミュージカル演劇】 【時代との関連】 【作品の種類】

社会言語学研究 【夜】

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 社会言語学に関する知識を持ち研究者として社会に役立てる能力を修得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 社会言語学の知識を持つ専門的職業人として資料を適切に分析し研究できる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 社会言語学の知識を生かし、社会が抱える課題を主体的に解決できる。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		社会言語学研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義では言語と社会の係わりを様々な視点から考え、社会言語学概念や理論を踏まえた上で、日常的な言語現象を社会言語学的視点で捉え、受講者自らが調査・分析する力を身につけることを目的とする。実際の言語使用に基づいた研究事例を取り上げ、社会言語学的視点から考察する。また言語調査を行なうために必要な言語データの収集・分析など方法論の基礎を学ぶ。さらに受講者が各自言語調査を行い、授業時に研究テーマに基づいた方法論、調査結果、問題点等を発表し全員で議論する。

教科書 /Textbooks

(予定) 岩田祐子・重光由加・村田泰美 (2013). 『概説 社会言語学』. ひつじ書房.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会言語学とは
- 2回 地域と言語
- 3回 言語と社会階層
- 4回 民族と言語
- 5回 言語とジェンダー
- 6回 言語と年齢
- 7回 言語の選択
- 8回 言語の状況差、適切さ(スタイルとレジスター)
- 9回 ポライトネス
- 10回 会話のしくみ
- 11回 コミュニケーションの民族誌
- 12回 学生による研究報告(1)
- 13回 学生による研究報告(2)
- 14回 学生による研究報告(3)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表・平常の学習状況...50%、レポート...50%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

社会言語学研究 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語通訳研究 【夜】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 通訳として立っていくに必要な高度な語学力、多岐にわたる背景知識を身に付け、国際的な感性を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 通訳に必要な技能を身に付け、一定の条件下で適格な通訳を行なうことができる技能を身に付ける。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 通訳の自覚をもって、グローバル社会におけるコミュニケーターとして、また異文化コンサルタントとして務められる奉仕の姿勢を身に付ける。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		英語通訳研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

この授業では、「通訳」を理論的に考察することを目的としています。英語学研究という表題からも窺えるように、おもに英語と日本語の間での通訳について、そのメカニズムを分析し、そこで起こっていることをコミュニケーションの立場から見つめ、通訳理論を検証し言語学的に分析したりといった理論的な側面を中心に組み組んでいきたいと思えます。ただし、受講生の中に日本語以外の言語を母語とする人がいる場合、その言語をも含めた通訳についても考えていきます。こうしたことを念頭に置いた上で、わかりやすい通訳とはどのような通訳なのか、そのためにはどのようなことに配慮したらよいかなど、通訳者として務めていくために考えなければならない様々な問題についても検討し、ディスカッションしていきます。ただし、この分野は音楽やスポーツと同様で、実技を伴わない考察は深まりませんので、通訳訓練を体験してもらうことも予定に組み込みます。また、通訳訓練法や通訳理論を英語教育に応用すること、背景知識、特に政治・経済・国際情勢等について学ぶことも、この授業の研究課題としたいと思います。

以上を踏まえ、この授業では、①通訳という業務、通訳者の役割を学ぶ、②通訳理論、通訳に必要なスキルを学び、必要な実践を行なう、③通訳に必要な背景知識を身につける、といったポイントを到達目標と位置付けて取り組んでいきたいと思えます。

教科書 /Textbooks

参加者の経験やレベルを確認の上、プリント教材を用意します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で必要に応じて指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 オリエンテーション
- 第02回 異文化間コミュニケーションとしての通訳
- 第03回 通訳の諸形態とそこで求められるもの(1)：コミュニティー通訳、等
- 第04回 通訳の諸形態とそこで求められるもの(2)：会議通訳、ビジネス通訳、等
- 第05回 通訳の諸形態とそこで求められるもの(3)：医療通訳、法廷通訳、等
- 第06回 アジアにおける通訳事情とリレー通訳
- 第07回 通訳者養成のための訓練法概説
- 第08回 通訳者養成のための訓練法の実践
- 第09回 リスニングの考察
- 第10回 ノートテーキングの理論と実践
- 第11回 背景知識を学ぶ(1)：ニュース記事から政治・経済について学ぶ
- 第12回 背景知識を学ぶ(2)：ニュース記事から国際情勢について学ぶ
- 第13回 背景知識を学ぶ(3)：ニュース記事から諸情報を得る
- 第14回 通訳の実践演習
- 第15回 全体のまとめとディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への出席を前提に、授業時のディスカッションや実技への積極的参加の度合いを総合的に評価します。
授業への積極的参加の度合い50% + 発表または実技50%

英語通訳研究 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎時間、次週の内容を確認しますので、あらかじめご準備いただいた上でご参加ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまで通訳について、基礎的な学習をしたことのある方もない方も、また実践した経験をお持ちの方もお持ちでない方もありだろうと思います。このあたりは履修される皆さんの実態に合わせて配慮しますので、不安を感じられる方も積極的にご参加下さい。

キーワード /Keywords

中国語法研究概論【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	中国語文法研究に関する基礎理論・知識を修得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	◎	現代言語学の方法で文法構造を分析でき、中日両言語文法構造の異同について解釈できる能力を身につける。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△	積極的に言語類型学及び第二言語習得・教育の視点から研究課題を取り込んで、実践する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			中国語法研究概論

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修論の研究方向に関する文法知識を確認しながら、日中対照の視点から現代中国語の文法規則を説明、理論的な解釈を理解させた上で、実践的な練習を通じて、修論の展開を試みる。

教科書 /Textbooks

資料を配付する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 王 占華 他 『中国語学概論』（改訂版）駿河台出版社
- 朱 徳熙 『語法講義』（中国語原書と日訳）白帝社
- 相原 茂 他 『中国語の文法書』同学社
- 杉村 博文 『中国語文法教室』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 文法研究概説 文法研究の対象 文法研究の方法
2. 構造主義と中国語文法研究
3. 認知文法と中国語文法研究
4. 「配価（結合価）文法」と中国語文法研究
5. 語義特徴分析理論と中国語文法研究
6. 格文法と中国語文法研究
7. 生成文法理論と中国語文法研究
8. 機能文法・第二言語教育と中国語文法研究
9. 語用論と中国語文法研究
10. これまでの重要な研究（問題別の観点・著作・論文）
11. 現代中国語文法研究における重要課題
12. 中国の有名な文法研究者及びその観点と論述
13. 日本の有名な中国語文法研究者及びその観点と論述
14. 海外の有名な中国語文法研究者及びその観点と論述
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の練習・発表・コメントにより100%で評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

中国語法研究概論 【夜】

履修上の注意 /Remarks

基礎を固めた上視野を広め、修論を作成するための授業なので、積極的な思考・問題提起・資料準備などを望んでいる。また常に各課の内容に合わせて、「中国語学」「中国語文」「世界漢語教学」などの学術誌を参考するよう要求する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語研究概論【夜】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 中国学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 中国語理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 中文の中国文化に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△ 中国文化に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		中国文化研究概論

※文化・言語専攻（中国語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

20世紀の中国文学芸術運動、特に1930年代の中国近代文学芸術運動を中心に体系的に講義する。主要な作家、作品、思潮、流派等の紹介を通じて、当時の文学芸術を概観する。魯迅等の後の中国近現代文学芸術に影響を与えた1900～10年の作家達（四大譴責小説-魯迅『中国小説史略』）の紹介、中国近代白話小説-魯迅『狂人日記』『阿Q正伝』および中国に初めてイブセン劇が紹介され、西欧の小説・戯が翻訳・模倣された1910年代の紹介、五四運動後に思想的分化を果たして誕生した矛盾を中心とする「文学研究会」と郭沫若を代表とする「創造社」の二大勢力・流派の紹介ならびに主要な作家の紹介、欧米日の文学芸術の影響を受けた多種多様な作家達が登場し、各種論争を引き起こし、次第に文学の世界に政治が露骨に介入してくるようになる時期までを毎回テーマを絞って講義する。

教科書 /Textbooks

プリント教材。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 中国近代と梁啓超『小説と政治の関係について』と日本の政治小説について
- 第2回 中国近代と嚴復『天演論』の影響について
- 第3回 中国近代と魯迅「中国四大譴責小説」について
- 第4回 義和団事件と女性解放運動のバイオニア・秋瑾について
- 第5回 魯迅と故郷紹興および作品集『呐喊』について
- 第6回 魯迅の日本留学、特に仙台医学専門学校・藤野巖九郎との関係について
- 第7回 魯迅と辛亥革命について
- 第8回 啓蒙雑誌「新青年」と中国初の白話小説・魯迅の処女作『狂人日記』について
- 第9回 五四新文化運動と西文学・思想の受容について
- 第10回 イブセンの『人形の家』と中国女性解放について
- 第11回 五四退潮期と「文学研究会」ならびに「創造社」の成立とその活動について
- 第12回 革命文学論争-「創造社」「太陽社」VS魯迅について
- 第13回 中国左翼作家聯盟成立とその活動について
- 第14回 国防文学論争と魯迅の死について
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・40% レポート・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし。

中国文化研究概論 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少々難易度の高い授業になるので集中して受講すること。

キーワード /Keywords

中国近代文学芸術、魯迅、五四新文化運動

中国思想文化研究概論 【夜】

担当者名 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 中国思想と文化理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 中国語と古文の中国思想に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△ 中国思想文化に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		中国思想文化研究概論

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

中国古代思想史全般について、幾つかの教科書を講読することによって、中国思想史の基本知識を学び、中国文化の源流を理解する。

教科書 /Textbooks

○小島祐馬著『中国思想史』 創文社2000年（必要に応じてコピーして配る）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○胡適著『中国古代哲学史大綱(上)』商務印書館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	序説
第2回	中国古代の社会状態
第3回	孔子
第4回	孟子
第5回	子思子
第6回	荀子
第7回	墨子
第8回	農家
第9回	老子
第10回	莊子
第11回	列子・楊子
第12回	法家
第13回	易・五行
第14回	春秋
第15回	まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の予習状況30%、受講準備30%、レポート40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国思想文化研究概論 【夜】

キーワード /Keywords

中国哲学史研究【夜】

担当者名 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	中国哲学と思想史理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	現代中国語と漢文の中国思想に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△	中国哲学史に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			中国哲学史研究

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

中国中古の思想史を勉強することによって、中国思想史研究の基礎を築き、中国文化のルーツに対する理解を深める。

教科書 /Textbooks

○『中国思想史の流れ』（上、両漢・六朝） 橋本高勝編 晃洋書房

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

胡適著『中国中古思想史長編』（関連部分をコピーして配布）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 概説
- 第2回 賈誼
- 第3回 劉安
- 第4回 董仲舒
- 第5回 司馬遷
- 第6回 揚雄
- 第7回 王充
- 第8回 王符
- 第9回 何休
- 第10回 黃老
- 第11回 孔融
- 第12回 仲長統
- 第13回 何晏
- 第14回 王弼
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平時の予習状況50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国哲学史研究【夜】

キーワード /Keywords

中国語教授法研究【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 第二言語教育のニーズに応じて、等級別の中国語教育内容・重点・方法を修得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 先行研究を踏まえ、中日両言語における異同点をまとめ、その動因を解釈した上、説得力のある教育法を身につける。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 積極的に教育法に関する論文・教科書の作成を取り込んで、自分なりの講義ポイントを積み重ねる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

中国語教授法研究

※文化・言語専攻（中国語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

日本語母語者に中国語を教授する方法を研究する。

教科書 /Textbooks

1. 日中両国の体系的な中国語教科書抜粋のコピー
2. 第二言語教育理論に関する論述のコピー
3. 中国語検定試験・HSK試験問題

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 王 占華 他 『中国語学概論』（改訂版）駿河台出版社
- 朱 徳熙 『語法講義』（中国語原書と日訳）白帝社
- 相原 茂 他 『中国語の文法書』同学社
- 杉村 博文 『中国語文法教室』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 第二言語の習得と教育総説
2. 翻訳法
3. 直接法
4. 視聴法
5. 機能法
6. その他の第二言語教育法
7. 第二言語教育の視点による中日語彙の比較・教育重点
8. 第二言語教育の視点による中日語法の比較・教育重点
9. 第二言語教育の視点による中日表現の比較・教育重点
10. テキストの種類と編成
 - 1 1. 練習問題の作成
 - 1 2. 誤用対策
 - 1 3. 評価体系と形式
 - 1 4. シラバスの設定
 - 1 5. 総合復習

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の練習・発表・コメントにより100%で評価

中国語教授法研究 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国文化史研究【夜】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 中国学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 中国語の中国語理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 中文の中国語理解に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△ 中国語理解に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		中国語理解

※文化・言語専攻（中国語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

20世紀の中国文学芸術運動、特に中国の演劇・話劇（新劇）運動史を中心に体系的に講義を進める。（1）19世紀末、京劇の改良演劇として誕生した時装新戯や時事新戯の立役者・汪笑儂から中国話劇が誕生した。（2）そしてその改良演劇の影響を受けた李叔同（当時、東京美術学校の留学生）は1906年、東京で「春柳社」を結成し、話劇を上演する。（3）その時の顧問を務めた人物は川上音二郎一座の俳優兼座付作者の藤沢浅次郎であった。（4）1918年初めてイブセン劇が胡適によって中国に紹介される。（5）1920年代半ばに中国の舞台に初めて女優が登場する。その立役者は洪深。（6）1930年代に入り、のちに中国近代演劇の父と称される曹禺が『雷雨』で劇壇デビューを果たす。以上、中国演劇の歴史を紐解きながら、各時期の主要作家、主要作品を紹介し、その時代の社会や文化を検証する。

教科書 /Textbooks

プリント教材。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 中国近代の幕開けと中国伝統劇・京劇改革運動と汪笑儂について
- 第2回 早期話劇の誕生と上海の学校との関わりについて
- 第3回 中国話劇団「春柳社」の日本・東京での誕生とその関わりについて
- 第4回 辛亥革命と話劇団「春陽社」の演劇運動との関わりについて
- 第5回 イブセンの『人形の家』と中国の女性解放運動について
- 第6回 中国初の口語体による話劇脚本『終身大事』（胡適作）の登場について
- 第7回 近代的演劇理論を学んで米国から帰国した洪深と中国劇壇での女優の登場について
- 第8回 中国小劇場運動のパイオニア田漢と中国劇壇での活躍と日本との関わりについて
- 第9回 田漢と谷崎潤一郎、佐藤春夫との関係について
- 第10回 上海芸術劇社の誕生と中国左翼演劇家協会の誕生秘話について
- 第11回 劇作家夏衍の国防演劇『賽金花』『秋瑾伝』について
- 第12回 夏衍の上海映画演劇界における活躍について
- 第13回 欧陽予倩と西南地区の演劇運動について
- 第14回 曹禺戯曲における悲劇性について
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・40% レポート・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

中国文化史研究【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少々難易度の高い授業になるので集中して受講すること。

キーワード /Keywords

中国近代演劇、中国話劇の誕生、イブセン劇の受容、中国近代演劇の父-曹禺

中国古典文学研究【夜】

担当者名 武井 満幹 / 中国学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 中国古典文学理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 中国文学の漢文資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△ 中国文学全般に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		中国古典文学研究

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

三国時代の文学について、『三国志演義』にも引用される詩や文を読み、その作品の特徴や物語展開上の役割などを考察する。また中国古典詩の特徴や解釈する上での注意点を学び、いろいろな資料を使って適切に作品を解釈できるようになることを目指す。

教科書 /Textbooks

プリント配布。
※三国時代の漢詩・漢文については主に『文選』（胡刻本）を底本とする予定である。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『詩歌三国志』（松浦友久、新潮選書、1998年）
『「三国志」漢詩紀行』（八木章好、集英社新書、2009年）
ほか。
※作品を読む際に参考にすべきものについては授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 『三国志』、『三国志演義』、『文選』、建安文学について(1)
第2回 『三国志』、『三国志演義』、『文選』、建安文学について(2)
第3回 曹操「短歌行」（『文選』巻27）(1)
第4回 曹操「短歌行」（『文選』巻27）(2)
第5回 陳琳「為袁紹檄劉予州」（『文選』巻44）(1)
第6回 陳琳「為袁紹檄劉予州」（『文選』巻44）(2)
第7回 陳琳「為袁紹檄劉予州」（『文選』巻44）(3)
第8回 王粲「七哀詩」（『文選』巻23）ほか
第9回 諸葛亮「出師表」（『文選』巻37）(1)
第10回 諸葛亮「出師表」（『文選』巻37）(2)
第11回 諸葛亮「出師表」（『文選』巻37）(3)
第12回 曹植「七步詩」（『世説新語』）(1)
第13回 曹植「七步詩」（『世説新語』）(2)
第14回 曹植「七步詩」（『世説新語』）(3)
第15回 その他の、三国志に関する漢詩
※以上のような予定であるが、変わる場合がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み（50%）+レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

中国古典文学研究 【夜】

履修上の注意 /Remarks

漢文訓読についても学ぶ。
作品の解釈について意見を聞くことがある。
作品を解釈するに当たって調べてもらうことがある。
実際に資料にあたりながら作品を解釈してもらうことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

三国志演義、三国志、文選、建安文学、漢詩・漢文

中国語音声学研究【夜】

担当者名 平田 直子 / HIRATA NAOKO / 中国学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 中国語学（音声学）の理解に必要な基礎的専門的知識を習得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 中国語学（音声学）関連の資料を活用した調査研究能力を身につける。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△ 現代中国語の音声現象に対して関心を深めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

中国語音声学研究

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本授業では以下のことを学習目標とする。

- ①一般音声学、中国語音声学・音韻学の基礎的専門的知識を身につける。
- ②上記①の基礎的知識をもとに、中国語の古代音から現代音への音韻変遷を概観し、中国語音声学・音韻学の研究方法を身につける。
- ③興味あるテーマを決め、学期末にレポートを書いて提出する（必要な関連資料を収集する能力を身につけ、自分の意見・主張を論理的に展開することが大切）。

教科書 /Textbooks

『概説 中国語音声学』 佐藤昭 編著

購入については、授業時に指示をする。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語語音史 中古音から現代音まで』 佐藤昭 著 白帝社 2002年
- 『中国文化叢書1 言語』 牛島徳次等 大修館書店 1967年
- 『中国語の歴史』 大島正二 大修館書店 2011年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画は以下の通りである。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 音声学の基礎知識(1)
- 第3回 音声学の基礎知識(2)
- 第4回 日本語の音節と中国語の音節
- 第5回 中国語の声母と韻母
- 第6回 中国語の基本音節表
- 第7回 中国の方言音と方言区分(1)
- 第8回 中国の方言音と方言区分(2)
- 第9回 中国語の古代音と現代音
- 第10回 中古音から現代音への変化
- 第11回 中国語音韻学の基礎知識(1)
- 第12回 中国語音韻学の基礎知識(2)
- 第13回 中古音から中原音韻への変化
- 第14回 中原音韻から現代音への変化
- 第15回 まとめ

中国語音声学研究 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (出席 + 発表) 50点、レポート50点 合計100点満点で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較文化研究概論 【夜】

担当者名 /Instructor 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科, フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	◎ 日本とヨーロッパとの比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 日本文化とヨーロッパ文化の深い造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ フランス語やヨーロッパの文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

比較文化研究概論

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義では、生活様式、歴史、政体、国民性、文学、価値観、芸術、食文化といった様々なトピックを通じて、イギリス、フランス、日本との文化比較を行う。学生には、各文化の特徴、差異、共通点について概論的な知識を吸収してもらうとともに、文化を相対的に眺める視点を獲得してもらう。授業は教員2人によるイントロダクションを経て、前半7回をクリーサーが、後半7回を福島が担当する。

教科書 /Textbooks

Printed materials distributed by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The instructor will distribute supplemental materials while students are responsible for acquiring their own research materials.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 The British Isles
- 3回 Identity: What does it mean to be British? What does it mean to be Japanese?
- 4回 Historical Influences: Britain and Japan
- 5回 The British Empire
- 6回 The English Language
- 7回 Politics (Britain and Japan)
- 8回 Review
- 9回 モニュメントから見る日本とフランス
- 10回 ミュージアムから見る日本とフランス
- 11回 現代美術から見る日本とフランス
- 12回 映画から見る日本とフランス
- 13回 文学から見る日本とフランス
- 14回 写真から見る日本とフランス
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Preparation and presentations 60% Final paper 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

While the instructor will explain necessary preparations during the course, all materials for each session must be read beforehand and students should be ready for discussion

比較文化研究概論 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本文化研究概論 【夜】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科, 五月女 晴恵 / 比較文化学科
真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	◎	日本文化に関する総合的知識を習得する。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	◎	日本文化の諸領域の研究方法について習得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	○	日本文化に関する知識をもとにグローバル社会が抱える課題を考究する能力を身につける。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

日本文化研究概論

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

日本文化の諸領域について、3名の教員が各5回授業を実施する。

1～5回

グローバルな生活環境の変化のなかで日本文化を研究しようとする際に、大衆文化は学問分野をまたいで共有される重要なテーマである。本概論の最初の5回では、近現代の日本文化を研究するうえで避けては通れない領域として大衆文化を位置づけ、大衆文化研究史の概略的なポイント（研究テーマ・研究方法の特徴）を確認していく。

6～10回

東洋日本美術史分野から主に平安仏画・絵巻・北宋山水画を中心に取り上げて、専門知識と基本的研究方法の確認を行う。平安仏画の回では美術史の王道である様式史に基づく研究方法について、絵巻を中心とした回では異時同図法という描き方について、北宋山水画を中心とした回では三遠之法とは何か、そして、その南宋絵画や日本絵画への影響について確認する。

11～15回

日本宗教史に関する主要なテーマを取り上げ、基礎知識と研究方法について学んでもらう。神道の成立、神仏習合、最澄、空海、中世神道思想について、代表的研究業績を踏まえつつ、理解を深めてもらいたい。受講者に分担して発表し、全員で議論するという形式で進めていく。

教科書 /Textbooks

1～5回 使用しない。

6～10回 毎回レジュメを配布する。

11～15回 使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で指示する。

日本文化研究概論 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス：近現代を研究すること、大衆文化を研究することの意義
- 2回 大衆文化研究史①
- 3回 大衆文化研究史②
- 4回 大衆文化研究史③
- 5回 大衆文化研究史④
- 6回 平安仏画-照量・截金
- 7回 平安仏画-具色・着衣文様
- 8回 異時同図法-仏伝図・絵巻
- 9回 異時同図法-絵巻
- 10回 宋代山水画-三遠之法
- 11回 神道の成立
- 12回 神仏習合
- 13回 平安仏教
- 14回 鎌倉仏教
- 15回 中世神道思想

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業へ取り組み100%（（東洋日本美術史分野は確認小テストを行う）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

1～5回
あらかじめテキストを指定する。受講者はそれを読み込んで授業に臨むこと。積極的な発言が求められる。

6～15回
特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メディア 都市 生活 平安仏画 異時同図法 三遠之法 神道 仏教 神仏習合

言語学研究概論【夜】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 葛西 宏信 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	◎ 言語学を研究する上で必要な専門知識を習得する。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	○ 身に付けた専門知識を使って、言語現象を分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	◎ 身につけた専門知識を生かし、言語及び言語学の諸問題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

言語学研究概論

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義では生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータを交えながら、言語学の諸分野を概括し、受講者が言語について、より専門的な知識を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

受講生の興味・希望を考慮して決定
その他プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』 大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年。
- 『言語を生み出す本能(上)・(下)』 スティーヴン・ピンカー著、椋田 直子訳、NHKブックス、1995年。
- 『新・自然科学としての言語学：生成文法とは何か』 福井直樹著、筑摩書房、2012年。
- シリーズ朝倉「言語の可能性」中島平三監修、朝倉書店。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序：言語学の研究方法（漆原・葛西）
- 第2回 音韻：音声、音素、異音（漆原）
- 第3回 音節構造：音節、モーラ、sonority hierarchy、アクセント（漆原）
- 第4回 同化と異化：削除、挿入、連濁、鼻濁音（漆原）
- 第5回 派生と屈折：形態素、派生、屈折、順序づけ（漆原）
- 第6回 複合語(1)：右側主要部、語彙的緊密性（漆原）
- 第7回 複合語(2)：第一姉妹の原則、項構造（漆原）
- 第8回 複合動詞：語彙的複合動詞、統語的複合動詞（漆原）
- 第9回 文の構造：句構造、c統御、支配（葛西）
- 第10回 移動現象(1)：格、A移動、主要部移動（葛西）
- 第11回 移動現象(2)：A-bar移動、島の制約（葛西）
- 第12回 言語間変異：原理とパラメータ（葛西）
- 第13回 語の意味：語彙概念構造、語彙的アスペクト（葛西）
- 第14回 文の意味：含意、前提、真理条件、量化詞（葛西）
- 第15回 発話行為：協調の原理、関連性理論（葛西）

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 35% 期末レポート 65%

言語学研究概論 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

文献の予習（特に英語文献は意味が取れるようにしておくこと）

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較文学研究概論 【夜】

担当者名 /Instructor だニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科, 岩本 真理子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立つ能力を修得する。	◎ 文学、思想、文化に対する高度な知識を得て、比較文学研究を通して国際社会及び地域社会に役立つ能力を修得する。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 文学的資料を適切に分析し、比較文学において高度な研究ができる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 比較文学の知識を生かし、グローバル社会における課題が解決できる。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		比較文学研究概論

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

この講義は大学院生にふさわしい比較文学に関する知識と価値観を学生に提供するもので、比較文学の研究史（Weltliteratur, フランス学派、アメリカ学派など）を踏まえて、影響研究、ジャンル研究、比較研究、翻訳研究、翻案研究などの実例を紹介し、研究方法を教える予定である。又、文学批評と関連する項目であるジェンダー、パラリテラチャー、ポストコロニアリズムに関しても視野に入れて授業を進める方針である。

この講義の到達目標は以下の通りである。

- ・ 比較文学研究に関する高度な知識を得ることで、国際社会・地域社会に役立つ能力を修得する。
- ・ 文学的資料の分析を通して、高度な比較文学研究ができる。
- ・ 比較文学の知識を、グローバル社会における課題解決に応用できる。

教科書 /Textbooks

インターネット資料、プリントを必要に応じて配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生と相談した上で決定する。

比較文学研究概論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 文学とは何か？（基本的問題提起）（岩本）
- 第2回 比較文学とは何か？（Weltliteratur, フランス学派、アメリカ学派など）（岩本）
- 第3回 比較研究（フランス学派：文学作品の二項関係の影響研究）（岩本）
- 第4回 ジャンル研究（物語、詩、戯曲）（ストラック）
- 第5回 比較研究（アメリカ学派：文学と絵画、文学と映画などの対比研究）（ストラック）
- 第6回 文学批評の諸姿勢（ストラック）
- 第7回 ジェンダーと語り直し（ストラック）
- 第8回 受容と変容（岩本）
- 第9回 比較文学における翻訳研究（岩本）
- 第10回 翻案研究（岩本）
- 第11回 普遍性と文化の差異（岩本）
- 第12回 ポストコロニアリズム（ストラック）
- 第13回 パラリテラチャー（ストラック）
- 第14回 越境する文学（ストラック）
- 第15回 まとめ（岩本・ストラック）

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：30% 課題：20% 期末試験：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業準備のために文学作品を事前に読むことが必要な場合がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文学、比較文学、Weltliteratur、ジャンル、翻訳、翻案、ポストコロニアリズム、文学理論、パラリテラチャー

日本宗教文化研究【夜】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	◎ 日本の宗教文化に関する諸資料を通して専門的知識を身につける。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	◎ 日本の宗教文化を研究する上に必要な文献資料の読解力を身につける。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	△ 他地域の宗教文化と比較して研究課題を考究する能力を身につける。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

日本宗教文化研究

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

『扶桑略記』の講読。

仏教関係記事を中心とする編年体歴史書である『扶桑略記』から巻廿三「醍醐天皇 上」以降の記事を受講者が分担して輪読する。日本宗教文化の研究に不可欠な日本漢文の読解力を身につけてもらうとともに、日本宗教史に関する諸問題について議論していきたい。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○高橋秀樹『古記録入門』（東京堂出版）
その他は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回授業の進め方
- 2 回『扶桑略記』と古記録の読み方について
- 3 回『扶桑略記』輪読
- 4 回『扶桑略記』輪読
- 5 回『扶桑略記』輪読
- 6 回『扶桑略記』輪読
- 7 回『扶桑略記』輪読
- 8 回『扶桑略記』輪読
- 9 回『扶桑略記』輪読
- 10 回『扶桑略記』輪読
- 11 回『扶桑略記』輪読
- 12 回『扶桑略記』輪読
- 13 回『扶桑略記』輪読
- 14 回『扶桑略記』輪読
- 15 回『扶桑略記』輪読

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日本宗教文化研究 【夜】

履修上の注意 /Remarks

受講者は毎回割り当てられた漢文読解の発表準備をして望んでもらう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

『扶桑略記』 日本宗教史

日本美術史研究【夜】

担当者名 五月女 晴恵 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	◎ 日本美術史の専門知識を修得する。美術史を専門とする学芸員の職を目指すことが可能なレベルの知識を身に付ける。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	◎ 日本美術史の研究方法を修得し、美術史の学術論文を執筆する技能を身に付ける。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	△ 他文化圏の美術に対しての日本美術ならではの特性を理解する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		日本美術史研究

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

日本美術史においては、著名な作品でありながら、制作年代や制作者、当初の状態などについて、未だ解明されていない作品が幾つも存在する。本講義では、これまで多くの先行研究が発表されて来たにも関わらず、未だ定説を見ない問題について、それらの先行研究論文を読み進めながら考えて行く。

今年度取り上げる問題は、法華寺所蔵「阿弥陀三尊并持幡童子像」の堂内の掛け方についてと、高野山有志八幡講十八箇院所蔵「阿弥陀聖衆来迎図」の制作年代についてである。

従って、本授業での目標は、美術史的な考察方法・研究方法の習得であり、最終的には参加者各自に自らの説を提示してもらうこととする。

教科書 /Textbooks

なし。但し、毎回、こちらが提示した先行研究論文を読んで来ること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の手順に関する説明
- 2回 法華寺「阿弥陀三尊并持幡童子像」の先行研究論文の読解①
- 3回 法華寺「阿弥陀三尊并持幡童子像」の先行研究論文の読解②
- 4回 法華寺「阿弥陀三尊并持幡童子像」の先行研究論文の読解③
- 5回 法華寺「阿弥陀三尊并持幡童子像」の先行研究論文の読解④
- 6回 法華寺「阿弥陀三尊并持幡童子像」の先行研究論文の読解⑤
- 7回 法華寺「阿弥陀三尊并持幡童子像」の先行研究論文の読解⑥
- 8回 2～7回を踏まえたディスカッション
- 9回 高野山「阿弥陀聖衆来迎図」の先行研究論文の読解①
- 10回 高野山「阿弥陀聖衆来迎図」の先行研究論文の読解②
- 11回 高野山「阿弥陀聖衆来迎図」の先行研究論文の読解③
- 12回 高野山「阿弥陀聖衆来迎図」の先行研究論文の読解④
- 13回 高野山「阿弥陀聖衆来迎図」の先行研究論文の読解⑤
- 14回 高野山「阿弥陀聖衆来迎図」の先行研究論文の読解⑥
- 15回 9～14回を踏まえたディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...50% 授業への参加態度・・・50%

日本美術史研究【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本表象文化研究【夜】

担当者名 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	◎ 日本の表象文化についての専門的知識を獲得し理解する。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	◎ 日本の表象文化についての専門的な分析方法を習得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	○ 日本の表象文化についての課題を設定し、主体的に解決する態度を身につけている。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

日本表象文化研究

授業の概要 /Course Description

前半では日本の大衆文化に関する研究書を取りあげて、その講読をおこなう。本年度は、1950年代～60年代における大衆文化論を取りあげて講読する。後半では、テーマを設定してそれにそった発表を受講者にしてもらう。

教科書 /Textbooks

授業で指示する

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業で指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 テキスト講読
- 第3回 テキスト講読
- 第4回 テキスト講読
- 第5回 テキスト講読
- 第6回 テキスト講読
- 第7回 テキスト講読
- 第8回 テキスト講読
- 第9回 テキスト講読
- 第10回 テーマ発表
- 第11回 テーマ発表
- 第12回 テーマ発表
- 第13回 テーマ発表
- 第14回 テーマ発表
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度・・・20%、講読発表・テーマ発表・・・80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本表象文化研究 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較広域文学研究【夜】

担当者名 /Instructor だニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 比較広域文学研究に関する高度な知識を修得する。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	△ 比較広域文学に関する資料を適切に分析し研究できる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 比較広域文学研究に関する課題を主体的に解決できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

比較広域文学研究

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

当演習においては、様々な名文献を考察し、その文献に潜んでいる隠喩的思想性を追求していきます。多数の文化に見られるメタファーを分析することを通して、異文化間における概念や思想の差異に関する理解を深めます。

教科書 /Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生と相談した上で決定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回コース紹介
- 第2回 『美学』 (アリストテレス)
- 第3回 『詩学』 (アリストテレス)
- 第4回 『論語』 (孔子)
- 第5回 「山上の垂訓」 (イエス)
- 第6回 『万葉集』
- 第7回 「方丈記」
- 第8回 シェイクスピア (「ソネット」)
- 第9回 ジョン・ダン
- 第10回 小林一茶
- 第11回 アメリカの「独立宣言」
- 第12回 ニーチェ
- 第13回 キップリング
- 第14回 M.L.キング
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：40% 小テスト：0% 期末試験：0% 課題：50% 態度：10%

比較広域文学研究 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Students will be expected to read the weeks assignment and come to class prepared to analyze and discuss the work.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較広域文化研究【夜】

担当者名 岩本 真理子 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○	日本の文化に関する深い知識を身に付け、さまざまな他文化との比較研究を通じて、専門的職業人として国際社会及び地域社会に貢献できる能力を修得する。	
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	△	日本文化並びにさまざまな他文化に関する深い学識を備えた専門家として、広範囲にわたる資料を駆使し、分析・研究できるようにする。	
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	◎	比較文化の専門的な知識と研究能力を生かし、グローバル社会における課題を自ら解決できるようにする。	
			比較広域文化研究	

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

この授業では「シンボル」と「イメージ」をテーマとした異文化理解を研究する。物事が持つシンボル性や、それに基づくイメージは、たとえ同じものでも、あるいはよく似たものでも、文化によって全く異なる場合が多いことはあまり意識されていない。いくつかの事例を取り上げて、そのシンボル性やイメージの違いを考えると同時に、その違いが重大な誤解や文化摩擦につながりかねない重要性を持つものであることを認識しよう。

この授業の到達目標は以下の通りである。

- ・ シンボル・イメージという抽象的な研究対象を扱い、その成果をグローバル社会で応用できる。
- ・ 日本文化と異文化の内的関係を理解できる。

教科書 /Textbooks

特になし。授業中に資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起・シンボルとイメージの研究はなぜ必要か？
- 2回 シンボル・イメージと非言語コミュニケーションの関係
- 3回 龍とドラゴンは同じ？
- 4回 龍のシンボル性
- 5回 ドラゴンのシンボル性
- 6回 ワイバーンとは？
- 7回 火のシンボル性
- 8回 地獄の業火としての火
- 9回 浄火としての火
- 10回 水のシンボル性
- 11回 水で洗うのは体か心か
- 12回 物理的洗浄と衛生感
- 13回 精神的洗浄と宗教
- 14回 火と水と葬儀形式の関係
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度20%、レポート80%で評価する。

比較広域文化研究 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ヨーロッパ比較文化研究【夜】

担当者名 /Instructor 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	△	日本とヨーロッパ文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	△	日本文化とヨーロッパ文化の深い造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	◎	フランス語やヨーロッパの文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

ヨーロッパ比較文化研究

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

ロラン・バルト、ウォルター・ベンヤミンを中心とする写真に関する文献を通じて、日本とヨーロッパの文化比較を行う。

教科書 /Textbooks

プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ロラン・バルト著『明るい部屋』花輪光訳、みすず書房
ヴァルター・ベンヤミン『図説 写真小史』久保哲司編訳、ちくま学芸文庫

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 「写真」の特殊性
- 第3回 分類しがたい「写真」
- 第4回 出発点としての感動
- 第5回 「撮影者」、「幻像」、「観客」
- 第6回 撮影する人
- 第7回 「観客」---その無秩序な好み
- 第8回 冒険としての「写真」
- 第9回 鷹揚な現象学
- 第10回 二重性
- 第11回 「ストゥディウム」と「プンクトウム」
- 第12回 「ストゥディウム」
- 第13回 知らせること
- 第14回 描くこと
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点50%とレポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ヨーロッパ比較文化研究 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日英比較文化研究【夜】

担当者名 /Instructor
 フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科

履修年次 /Year
 単位 /Credits
 2単位
 学期 /Semester
 2学期
 授業形態 /Class Format
 演習
 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	◎ 日英比較文化研究に関する高度な知識を身につける。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 日英比較文化に関する資料を適切に分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 日英比較文化研究に関する課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

日英比較文化研究

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

In this course students will learn about British culture and society and have the opportunity to compare it with Japanese culture and society. Topics covered include but are not limited to, politics, music, fashion, sport, the monarchy, food and drink. This course is discussion based and students will have ample opportunity to give their opinions and ideas about topics under discussion.

教科書 /Textbooks

Materials will be distributed each week by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction
 Week 2: Music
 Week 3: Fashion
 Week 4: Media
 Week 5: Food and Drink
 Week 6: The Monarchy
 Week 7: The Monarchy
 Week 8: Politics
 Week 9: Multicultural Britain
 Week 10: Multicultural Britain
 Week 11: Education
 Week 12: Education
 Week 13: The Arts
 Week 14: Language
 Week 15: Review

成績評価の方法 /Assessment Method

In class assessment 50%
 Report 30%
 Presentation and Discussion 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日英比較文化研究 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日米比較文化研究【夜】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	◎	日米比較文化研究に関する高度な知識を修得する。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	○	日米比較文化に関する資料を適切に分析し研究できる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	○	日米比較文化研究に関する課題を主体的に解決できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

日米比較文化研究

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

The purpose of this course is to guide students through an in-depth comparative cultural analysis of Japan and the United States of America. This investigation will be conducted in English, as we will focus on the interpretations of foreign scholars to illustrate the deep cultural differences that exist between the two countries. Initially, a survey and analysis of the dynamics of the relationship between both countries will be conducted by reading key literature and scholarship on different facets of both societies. During the final phase of the course students will lead the discussion in presenting their own interpretations of materials from the course. Thus, English for Academic Purposes will be another component of this course.

教科書 /Textbooks

Printed materials distributed by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The instructor will distribute supplemental materials while students are responsible for acquiring their own research materials.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction of historical and cultural legacy of Japan
- 2回 Introduction of historical and cultural legacy of the United States
- 3回 Cultural Similarities and Differences Between the United States and Japan I
- 4回 Cultural Similarities and Differences Between the United States and Japan II
- 5回 Value Patterns in the United States and Japan
- 6回 Discussion based on reading materials I
- 7回 Japanese Values: Interpretations of contemporary scholars
- 8回 Discussion based on reading materials II
- 9回 Discussion based on reading materials III
- 10回 American Values: Interpretations of contemporary scholars
- 11回 Discussion based on reading materials IV
- 12回 Presentations led by students I
- 13回 Discussions on student topics I
- 14回 Presentations led by students II
- 15回 Discussions on student topics II

成績評価の方法 /Assessment Method

Preparation and presentations 50%

Final 2000 word paper 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日米比較文化研究 【夜】

履修上の注意 /Remarks

While the instructor will explain necessary preparations during the course, all materials for each session must be read beforehand and students should be ready for discussion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

理論言語学研究 (形態論) 【夜】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 形態論および関連言語学下位分野を研究する上で必要な専門知識を習得する。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	○ 身に付けた専門知識を使って、言語の形態およびそれに関連する現象を分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	○ 身に付けた専門知識を生かし、言語の形態と実社会での運用に関する諸問題を主体的に解決できるようにする。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

理論言語学研究 (形態論)

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

言語学における形態論の位置づけ、形態論の基本的概念、分析方法などを学んだ上で、日本語・英語をはじめ、学生の興味ある言語における現象について観察し、議論する。

教科書 /Textbooks

学生の興味・関心・レベルに応じて決定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Spencer, A. et al. 1998. The Handbook of Morphology. Blackwell Publishers.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 言語学の対象と目的
- 第2回 言語学における形態論の位置づけ
- 第3回 形態論の基本的概念(1)：自由形態素、拘束形態素、唯一形態素、異形態
- 第4回 形態論の基本的概念(2)：派生
- 第5回 形態論の基本的概念(3)：屈折
- 第6回 形態論の基本的概念(4)：複合語
- 第7回 形態論の基本的概念(5)：省略、混成、逆形成、頭文字語
- 第8回 形態論の基本的概念(6)：接語
- 第9回 アメリカ構造主義言語学における形態論
- 第10回 生成文法理論における形態論
- 第11回 語彙的緊密性
- 第12回 主要部と第一姉妹の原則
- 第13回 生産的語形成と限定的語形成
- 第14回 分散形態論
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 10%
発表 40%
期末レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

文献（特に英語文献）の予習を行うこと。

理論言語学研究 (形態論) 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

理論言語学研究 (統語論) 【夜】

担当者名 葛西 宏信 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 統語論および関連言語学下位分野を研究する上で必要な専門知識を習得する。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 身につけた専門知識を使って、統語現象およびそれに関連する現象を分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 身につけた専門知識を生かし、統語論および実社会での運用に関する諸問題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

理論言語学研究 (統語論)

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

生成文法の『原理とパラメータ』の理論的枠組みの中で、言語間の違いがどのようにして分析されてきたかを概観する。また、受講生の興味に応じて、様々な言語現象を取り上げ、分析を行う。到達目標は以下の通りである。

生成文法の基本的な考え方を理解し、説明できるようになる。
統語論の基本的な考え方を理解し、統語分析ができるようになる。

教科書 /Textbooks

授業時に指定。
その他プリント配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 授業の進め方
第2回 - 第4回 生成文法の概説
第5回 - 第7回 句構造理論
第8回 - 第10回 移動規則
第11回 - 第15回 世界の諸言語の分析

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

文献の予習 (特に英語文献は意味が取れるようにしておくこと)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国研究概論 【夜】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科, 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科
白石 麻保 / 中国学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 中国研究の諸分野について専門的知識を習得し、自らの見解を表明できる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 中国研究の専攻分野に関する研究文献と一次資料を調査収集し、研究課題を定め、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	△ 中国に関する諸問題に関心を持ち、広い視野から問題解決の方法を模索し行動することができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

中国研究概論

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

中国の歴史・経済・政治の分野において、研究をすすめる上で必須の専門知識を習得し、中国研究の研究方法を理解する。特に研究文献と一次資料の取り扱い方、一次資料から自説を立論する手法を重んじる。

教科書 /Textbooks

授業中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：全教員-授業ガイダンス
- 2回：白石-中国経済を分析する視点
- 3回：白石-中国経済への分析アプローチ(1)
- 4回：白石-中国経済への分析アプローチ(2)
- 5回：白石-中国経済分析から得られるインプリケーション
- 6回：堀地-中国近代史の学術論文が完成するまで
- 7回：堀地-中国近代史研究とインターネット利用
- 8回：堀地-歴史資料を読解し分析する(1)
- 9回：堀地-歴史資料を読解し分析する(2)
- 10回：下野-現代中国を政治的観点からみる - 問題の所在
- 11回：下野-資料の探し方
- 12回：下野-資料の読み方
- 13回：下野-分析手法
- 14回：全教員-総合討論と学生研究報告(1)
- 15回：全教員-総合討論と学生研究報告(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常評価、授業中の報告等と学生研究報告で100%評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

中国研究概論 【夜】

履修上の注意 /Remarks

講義だけでなく、受講生による報告や実習等も行う。中国の歴史・政治・経済を専門とする学生の履修が望ましい。中国の文学・言語学・文化等を専門とする者には非常に難である。現代中国語と古典中国語の語学力が必要である。中国語未習者には、本科目の履修を薦めない。また、英語文献を取り扱うこともある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国近代史 一次資料 中国政治 中国経済 現代中国

東南アジア研究概論 【夜】

担当者名 /Instructor 田村 慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
 篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 東南アジア地域の歴史、政治や社会についての専門的知識や理解力を修得する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 自ら先行研究を収集し、その問題点も発見しながら的確にまとめることができる能力を獲得する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	△ 東南アジア地域が現在抱えている諸問題の解決に積極的に取り組めるような態度を育成する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

東南アジア研究概論

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

近現代東南アジアの歴史、政治や社会について体系的に学び、当該地域に対する理解を深めることができるように指導する。(オムニバス方式 / 全15回)

1 田村慶子 / 5回

戦後アジアの国際関係や、東南アジア諸国の政治、社会、エスニシティ、国民統合に関する文献を読み、受講生との討論を中心に授業を進める。

2 伊野憲治 / 5回

東南アジア、特にミャンマーを中心に、民主化問題を扱い、政治と文化の関係性に注目しながら文献を選び、受講生との討論を行っていく。

3 篠崎香織 / 5回

植民地期の島嶼部東南アジアを中心に、東南アジアの近現代史を扱う。ナショナリズム、移民などのテーマを中心に文献を選び、受講生による報告・討論を行う。

教科書 /Textbooks

清水一史・田村慶子・横山豪志編『東南アジア現代政治入門』ミネルヴァ書房、2011年。

* これは学部3 - 4年生用の教科書であるので、大学院受講生の学力や知識によっては変わることもある。

弘末雅士『東南アジアの港市世界—地域社会の形成と世界秩序』岩波書店、2004年。

加納啓良ほか編『植民地経済の繁栄と凋落 (岩波講座東南アジア史第6巻)』岩波書店、2002年。

池端雪浦ほか編『植民地抵抗運動とナショナリズムの展開 (岩波講座東南アジア史 第7巻)』岩波書店、2002年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○白石隆『海の帝国—アジアをどう考えるか』中公新書、2000年。

○ベネディクト・アンダーソン (白石隆・白石さや訳)『想像の共同体—ナショナリズムの起源と流行』NTT出版、1997年。

○東南アジア学会監修『東南アジア史研究の展開』山川出版社、2009年。

○伊野憲治『アウンサンスーチーの思想と行動』アジア女性交流・研究フォーラム、2001年。

工藤年博編『ミャンマー政治の実像—軍政23年の功罪と新政権のゆくえ』アジア経済研究所、2012年。

東南アジア研究概論 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【田村担当】

- 第1回 教科書、参考文献、スケジュールなどの説明。
 第2回 『東南アジア現代政治入門』序章および第一章の輪読と議論
 第3回 『東南アジア現代政治入門』第二章および第三章の輪読と議論
 第4回 『東南アジア現代政治入門』第四章および第五章の輪読、議論
 第5回 『東南アジア現代政治入門』第六章の輪読および議論、まとめの議論

【伊野担当】

- 第6回 東南アジア諸国における民主化についてーミャンマーを中心にー (講義)
 第7回 東南アジア諸国における民主化に関する文献の輪読、議論 (理論に関する邦語論文の輪読)
 第8回 東南アジア諸国における民主化に関する文献の輪読、議論 (理論に関する英語論文の輪読)
 第9回 東南アジア諸国における民主化に関する文献の輪読、議論 (ミャンマーに関する邦語文献の輪読)
 第10回 東南アジア諸国における民主化に関する文献の輪読、議論 (ミャンマーに関する英語文献の輪読)

【篠崎担当】

- 第11回 『東南アジアの港市世界』の輪読、議論：序章～第4章
 第12回 『東南アジアの港市世界』の輪読、議論：第5章～終章
 第13回 『植民地経済の繁栄と凋落』の輪読、議論。
 第14回 『植民地経済の繁栄と凋落』および『植民地抵抗運動とナショナリズムの展開』の輪読、議論。
 第15回 『植民地抵抗運動とナショナリズムの展開』の輪読、議論。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 報告や議論などの日常の授業への取り組み 70%
 レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東南アジア、港市国家、植民地支配、ナショナリズム、華僑、華人

アメリカ社会史概論 【夜】

担当者名 /Instructor 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ アメリカ社会の歴史に関する専門的知識を修得する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ アメリカ社会の歴史に関する資料を用いた調査研究能力を身につける。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	△ アメリカ社会の諸問題を発見・分析できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

アメリカ社会史概論

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

17世紀から現代までのアメリカ社会を、「自由」をキーワードに、政治、経済、文化、思想など広範な視点から論じることで、アメリカ社会を支えてきた人々の営み考え方、感じ方を受講生にとらえさせる。講義に際しては、適宜アメリカ史に関する基本文献や一次史料等を用いる。

教科書 /Textbooks

初回の授業でリーディング・リストを配布し、参加者と相談のうえ決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示・配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス：授業のテーマとすすめ方
- 2回 南北戦争までの時代：植民地時代～共和国形成期
- 3回 再建期と金びか時代：奴隷制廃止とKKK
- 4回 再建期と金びか時代：工業化の進展と社会進化論
- 5回 再建期と金びか時代：ポピュリズム
- 6回 革新主義と改革運動：都市化の進展
- 7回 革新主義と改革運動：前世紀転換期アメリカ社会の諸問題
- 8回 革新主義と改革運動：移民の流入と改革運動
- 9回 革新主義と改革運動：労働運動
- 10回 大恐慌とニューディール：1920年代アメリカの政治・社会・経済
- 11回 大恐慌とニューディール：不況下の人々の暮らし
- 12回 大恐慌とニューディール：第一次ローズベルト政権下のニューディール政策
- 13回 大恐慌とニューディール：第二次ローズベルト政権下のニューディール政策
- 14回 大恐慌とニューディール：貧困と政治
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20% 授業への貢献度...20% 授業中の報告内容...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

リーディング・リストの文献を積極的に読むことを薦める。

アメリカ社会史概論 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ人種関係概論 【夜】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ アメリカ合衆国の人種関係について、広く知識を習得している。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ アメリカ合衆国の人種関係に関する先行研究を収集・整理し、一次史料を用いて議論を組み立てることができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	△ アメリカ合衆国の人種関係に関する知識を国際社会で生かせるよう、実践的な問題にも関心を持つことができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

アメリカ人種関係概論

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

人種・民族的多様性ということに関して、その規模の大きさとパターンの複雑さでアメリカ合衆国の右に出るものはない。それゆえに、人種差別解消に関する思想およびそのための諸政策についても、アメリカ合衆国の事例を抜きにして学ぶことはできない。この授業では、アメリカ合衆国における人種・エスニシティ関係について、史的・総合的に取り扱う。

教科書 /Textbooks

Lawrence H. Fuchs, The American Kaleidoscope: Race, Ethnicity, and the Civic Culture, Hanover, NH: Wesleyan University Press, 1990.
 Marc Dollinger, Quest for Inclusion: Jews and Liberalism in Modern America, Princeton, NJ: Princeton University Press, 2000.
 Matthew Frye Jacobson, Whiteness of a Different Color: European Immigrants and the Alchemy of Race, Cambridge, MA: Harvard University Press, 1998.
 Murray Friedman, What Went Wrong?: The Creation & Collapse of the Black-Jewish Alliance, New York: Free Press, 1995.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション
2. アメリカ人種関係論の概要
3. 新しい「社会史」の登場
4. アメリカの人種関係と「平等」の諸理論
5. アメリカの人種関係と「国民統合」の諸理論
6. 「白人性（ホワイトネス）」議論の登場
7. ホワイトネス各論 1：M.ジェイコブソン
8. ホワイトネス各論 2：D.ローディガー
9. ホワイトネス各論 3：その他の主要な著作
10. 人種混淆の理論
11. ユダヤ人 - 黒人関係の歴史的展開：20世紀前半
12. ユダヤ人 - 黒人関係の歴史的展開：20世紀後半
13. その他のグループ間関係
14. 21世紀のアメリカの人種関係
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発言・報告...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アメリカ人種関係概論 【夜】

履修上の注意 /Remarks

初回の授業以前に担当教員（北美幸）の研究室を訪問し、修士課程での研究テーマとこの授業の関連について相談すること。その際に授業テキスト以外のリーディング・リスト（読んでおくべき文献のリスト）も配布する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際関係研究概論【夜】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科, 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科
魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 国際関係の理論、国際経済、国際政治の基礎について包括的な知識を修得し、それに基づいて専門的な議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 国際関係の理論、国際経済、国際政治に関する資料の収集と分析ができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	△ 国際関係の理論、国際経済、国際政治に関する事項について、修得した知識と技術を生かして、実践的な問題にも関心を持つことができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

国際関係研究概論

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義では、国際関係研究の基礎となる国際政治および国際経済の理論を主に学びます。そのうえで専門科目を学ぶにあたっての基礎的な素養をしっかりと身につけます。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。適宜、各回の授業で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、各回の授業で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 マルクス主義 (1) 生成の背景と思想
- 第3回 マルクス主義 (2) 実践と現代における意味
- 第4回 巨視的歴史理論 (1) 従属論
- 第5回 巨視的歴史理論 (2) 世界システム論
- 第6回 リアリズム：覇権安定論
- 第7回 リベラリズム (1) 相互依存論
- 第8回 リベラリズム (2) 国際レジーム論
- 第9回 コンストラクティビズム：規範の役割
- 第10回 グローバル化する経済 (1) 自由貿易
- 第11回 グローバル化する経済 (2) 経済統合
- 第12回 グローバル化する経済 (3) 直接投資
- 第13回 国際統合論 (1) 連邦主義
- 第14回 国際統合論 (2) 交流主義、新機能主義
- 第15回 国際統合論 (3) ガバナンス論

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・20% レポート・・・80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

国際関係研究概論 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義は、東アジア専攻の4名の教員によってオムニバス形式で行われます。

キーワード /Keywords

現代中国政治研究【夜】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 中国政治およびそれに関連する事項について広く知識を修得し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 中国政治およびそれに関連する事項について先行研究を収集することができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 中国政治およびそれに関連する事項について修得した知識・技能を生かして、広い視野から国際社会について考えることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

現代中国政治研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

中国の近現代史を踏まえて、①中華人民共和国の成立過程と21世紀初頭までの歩み、②現代中国の政治体制について広く知識を修得し、現代中国が抱える諸問題について学術的な観点から議論できるようになることを授業の目的とする。

教科書 /Textbooks

Kenneth Lieberthal, *Governing China: From Revolution through Reform*, 2nd edition, W.W.Norton & Company, 2004.
天見慧『中国の歴史第11巻 巨龍の胎動 - 毛沢東vs.鄧小平』講談社、2004年。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 下野寿子『中国外資導入の政治過程 - 対外開放のキーストーン』法律文化社、2008年。
- 毛里和子『現代中国政治』名古屋大学出版会、2004年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回 『中国の歴史第11巻 巨龍の胎動』はじめに・1章
- 3回 " 2・3章
- 4回 " 4・5章
- 5回 " 6・7章
- 6回 " 8・9章
- 7回 *Governing China* Chap.1
- 8回 " Chap.2
- 9回 " Chap.3
- 10回 " Chap.4
- 11回 " Chap.5~6
- 12回 " Chap.7~8
- 13回 " Chap.9~10
- 14回 " Chap.11~12
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発言・報告...60 % 課題提出物...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

現代中国政治研究【夜】

履修上の注意 /Remarks

現代中国の近現代史・政治・経済・社会などについて基礎的な知識を備えていることが望ましい。
授業では、テキストを熟読して論点を把握し、自分の抱いた問題点（3点程度にまとめる）等を用意してから授業に臨むこと。
中国・台湾の地図や新聞記事などを授業内容理解のために活用すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代韓国経済研究【夜】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 現代の韓国経済を学ぶことによって、東アジア経済発展のダイナミズムと脆さを理解する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 現代の韓国経済についての先行研究を整理し、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代の韓国経済を客観的に捉えるようになることで、隣国との経済関係がどうあるべきかを考察してみる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

現代韓国経済研究

授業の概要 /Course Description

この授業では、アジアNIEsの一角として急速な経済発展に成功し、また地理的な近さから経済交流がもっとも活発な韓国経済について学習することをねらいとする。韓国がどのような発展戦略によって経済発展を実現させ、その発展戦略がどのような構造的な問題点を内包してきたか。そして、経済危機後に採用された発展戦略がどのように変化し、何をもたらしたかを明らかにする。

教科書 /Textbooks

趙淳 (深川博史監訳/藤川昇悟訳) 『韓国経済発展のダイナミズム』、法政大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で適時指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション 「序論」
- 第2回 「1950年代と1960年代の経済発展」
- 第3回 「概観」(1)：輸出志向工業化と重化学工業化
- 第4回 「概観」(2)：構造調整と民主化
- 第5回 「産業組織」(1)：大企業と中小企業の関係
- 第6回 「産業組織」(2)：政府の政策
- 第7回 「労働」(1)：韓国の労働事情
- 第8回 「労働」(2)：労働問題と政策的含意
- 第9回 「金融制度」(1)：銀行制度と証券市場
- 第10回 「金融制度」(2)：金融政策と金融改革
- 第11回 「対外貿易」(1)：貿易政策と貿易状況
- 第12回 「対外貿易」(2)：世界経済の中の韓国
- 第13回 「IMF経済危機」
- 第14回 「危機以降の韓国経済」
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

指定文献の報告...30%、授業での討論参加状況...30%、レポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

現代韓国経済研究 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

開発独裁、財閥、輸出志向工業化、通貨危機、構造改革

日本社会史研究【夜】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 日本の文化が形成される近世社会の歴史に関心を持ち、歴史を社会と生活文化の視点から捉えることができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 著書や論文などの文献にとどまらず、実際にくずし字史料を解読して実証的な研究を行うことができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 単に一国史の視点にとどまることなく、アジアやヨーロッパと比較する視点を持つことによって世界史の中に位置づけることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

日本社会史研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

江戸時代の歴史とりわけ文化・思想の背後にある社会経済的背景を当時の史料から理解します。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『日本都市生活史料集成』（学習研究社）
- 『日本庶民生活史料集成』（三一書房）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 平戸町人別帳① 川崎屋
- 第3回 平戸町人別帳② 高麗人
- 第4回 犯科帳① 抜荷
- 第5回 犯科帳② 遊女
- 第6回 犯科帳③ 欠落
- 第7回 犯科帳④ 博奕
- 第8回 犯科帳⑤ 無宿
- 第9回 博多津要録① 捨て子
- 第10回 博多津要録② 茶屋
- 第11回 博多津要録③ 水主役
- 第12回 博多津要録④ 興業
- 第13回 博多津要録⑤ 寺内
- 第14回 補論
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート提出・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日本社会史研究【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

近代日本政治外交史研究【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 近代日本政治外交史に加え、広く世界に関する知識を修得している。現代世界が抱える問題について、歴史的な見地から議論を行なうことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 研究テーマに関して、先行研究を踏まえ、草書体史料などの一次史料を用いて議論を組み立てることができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 近代日本政治外交史に関する知識を国際社会で実践的に生かすことができる。歴史認識の多様性を理解し、適切な行動をとることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

近代日本政治外交史研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

近代日本政治外交史の研究書、とりわけ、政軍関係論に関するものを読み進めていきます。毎回分担範囲を決めて、学生諸君に報告していただきます。本講義の狙いは、近代日本政治外交史研究のレベルを理解してもらうことにあります。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上決定しますが、森靖夫『日本陸軍と日中戦争への道』（ミネルヴァ書房、6825円）、黒沢文貴・小林道彦編著『日本政治史のなかの陸海軍』（ミネルヴァ書房、6000円）を予定しております。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 外務省編・刊『日本外交文書並主要文書』上・下巻（原書房、1965年）。
- 中西寛・小林道彦共編著『歴史の桎梏を越えて』（千倉書房、2010年）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 『日本陸軍と日中戦争への道』序章の講読。
- 3回 同上第1章の講読。
- 4回 同上第2章の講読。
- 5回 同上第3章の講読。
- 6回 同上第4章の講読。
- 7回 同上第5章の講読。
- 8回 同上第6章と終章の講読。
- 9回 『日本政治史のなかの陸海軍』第1章1・2・3の講読。
- 10回 同上第1章4・5の講読。
- 11回 同上第3章1・2・3・4の講読。
- 12回 同上第3章5・6・7の講読。
- 13回 同上第6章1・2の講読。
- 14回 同上第6章3・4の講読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告の内容...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

明治期の文語体の文章を読んでおいて下さい。あらかじめ、ある程度テキストに目を通しておいて下さい。

近代日本政治外交史研究 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

半期で2冊を通読するというスケジュールはややハードですが、がんばって参りましょう。なお、受講者の能力によってはシラバスの内容に若干の変更を加えることもあり得ます。この点、ご了承下さい。

キーワード /Keywords

東南アジア近現代史研究【夜】

担当者名 篠崎 香織 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 現代世界とのつながりのなかで、東南アジア近現代史を理解することができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 東南アジア近現代史に関する資料を収集・分析し、論理的な議論を組み立てることができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 東南アジア近現代史に関する理解を、現代世界における普遍的な課題への対応策として応用することができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

東南アジア近現代史研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

この授業では、植民地期の島嶼部東南アジアを中心に、東南アジアの近現代史を扱う。まず、19世紀から20世紀にかけて伝統的な港市国家が近代的な植民地国家に再編された過程をおさえる。そのうえで、その過程で展開した社会変容への対応、自立の模索、人やモノの越境などのテーマを中心的に取り上げ、受講生による報告・討論を行う。

教科書 /Textbooks

弘末雅士『東南アジアの港市世界—地域社会の形成と世界秩序』岩波書店、2004年。
杉原薫『アジア間貿易の形成と構造』ミネルヴァ書房、1996年。
加納啓良ほか編『植民地経済の繁栄と凋落（岩波講座東南アジア史第6巻）』岩波書店、2002年。
後藤雪浦ほか編『植民地抵抗運動とナショナリズムの展開（岩波講座東南アジア史第7巻）』岩波書店、2002年。
後藤乾一ほか編集『国民国家形成の時代（岩波講座東南アジア史第8巻）』、2002年。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○東南アジア史学会40周年記念事業委員会編『東南アジア史研究の展開』山川出版社、2009年。
このほかにも授業中に別途指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入
- 2回 『東南アジアの港市世界』の輪読、討論(1) 序章～第1章
- 3回 『東南アジアの港市世界』の輪読、討論(2) 第2章～第4章
- 4回 『東南アジアの港市世界』の輪読、討論(3) 第5章～終章
- 5回 『アジア間貿易の形成と構造』の輪読、討論(1) 序章～第1章
- 6回 『アジア間貿易の形成と構造』の輪読、討論(2) 第2章、第3章
- 7回 『アジア間貿易の形成と構造』の輪読、討論(3) 第9章、第10章
- 8回 『植民地経済の繁栄と凋落』から論文を選び、輪読、討論(1) 【開発】
- 9回 『植民地経済の繁栄と凋落』から論文を選び、輪読、討論(2) 【貿易】
- 10回 『植民地抵抗運動とナショナリズムの展開』から論文を選び、輪読、討論(1) 【抵抗運動】
- 11回 『植民地抵抗運動とナショナリズムの展開』から論文を選び、輪読、討論(2) 【ナショナリズム】
- 12回 『植民地抵抗運動とナショナリズムの展開』から論文を選び、輪読、討論(3) 【革命】
- 13回 『国民国家形成の時代』から論文を選び、輪読、討論(1) 【脱植民地化】
- 14回 『国民国家形成の時代』から論文を選び、輪読、討論【国家形成】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ... 50 % レポート ... 50%

東南アジア近現代史研究 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

基本的にテキストに沿って進める。東南アジアについて基本的な知識がない受講者は、学部（国際関係学科）で開講している東南アジア研究概論、東南アジアの社会と歴史、東南アジアの政治と外交などを受講のうえ本科目を受講するか、これらの科目を本科目と並行して受講すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東南アジア地域研究I 【夜】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 現代国際社会における地域研究的アプローチの重要性を認識し、自ら運用できる知見と能力を修得する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 東南アジア研究全般にわたり、広く研究史を概観できる能力を修得する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 各研究テーマに即して、研究と実践との相関関係を把握する能力を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

東南アジア地域研究 I

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

東南アジアを対象としながら、地域研究的なアプローチのあり方を考え、その上で、自己の研究テーマへの方法論的還元を目指す。

教科書 /Textbooks

適宜指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：地域研究の起源【起源】
- 第3回：地域研究と社会諸科学との関係【社会諸科学との関係】
- 第4回：地域研究における総合的認識【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像の把握【全体像の把握】
- 第6回：地域研究における文化主義的認識【文化主義的認識】
- 第7回：東南アジア研究の視点（風土・生態系）【風土・生態系】
- 第8回：東南アジア研究の視点（宗教・世界観）【宗教・世界観】
- 第9回：東南アジア研究の視点（人間関係）【人間関係】
- 第10回：東南アジア研究の視点（歴史）【歴史】
- 第11回：地域研究における総合的認識に関する文献の輪読・議論【総合的認識】
- 第12回：文化相対主義に関する文献の輪読・議論【文化相対主義】
- 第13回：ミャンマー人の世界観に関する文献の輪読・議論【ミャンマー人の世界観】
- 第14回：ミャンマー人の人間関係に関する文献の輪読・議論【ミャンマー人の人間関係】
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%
報告内容50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

東南アジア地域研究I 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域研究

東南アジア地域研究II 【夜】

担当者名 田村 慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 東南アジア地域の近現代史、独立後の政治や社会の変容に関する基礎的な知識を習得する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 広く先行研究を収集し、その問題点も発見しながら的確にまとめることができる能力を獲得する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 東南アジア地域が現在抱えている諸問題の解決に積極的に取り組めるような行動力を育成する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

東南アジア地域研究II

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

戦後アジアの国際関係や、東南アジア諸国の政治・社会・エスニシティ（華僑、華人問題）、国民統合に関する文献を輪読して、受講者による報告と議論を行う。受講者が多い場合にはグループ学習、報告も行う。それらを通して、【大学院生として身につけておくべき東南アジアに関する専門知識や優れた課題解決能力を養成する】。課題レポートをいくつか科して、添削して返却する。その経験を修士論文や課題研究の執筆に活かせることができるよう指導する。

教科書 /Textbooks

受講生と相談して決めるが、候補としては以下を考えている：
岩崎育夫『アジア政治とは何か』中公叢書、2009年。
Lynn Pan ed., The Encyclopedia of the Chinese Overseas, Curzon, 1998.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 日本国際政治学会編『日本の国際政治学』4冊、有斐閣、2009年
* 「[学としての国際政治]」「国境なき国際政治」「地域から見た国際政治」「歴史の中の国際政治」の4冊がある。
- アジア政経学会編『現代アジア研究』3冊、慶應義塾大学出版会、2008年。
* 「越境」「市民社会」「政策」の3冊がある。
- 清水一史・田村慶子・横山豪志『東南アジア現代政治入門』ミネルヴァ書房、2011年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テキストとスケジュールの相談、説明
- 第2回 『アジア政治とは何か』序章を輪読、議論する
- 第3回 『アジア政治とは何か』開発体制を輪読、議論する
- 第4回 『アジア政治とは何か』各人が開発体制のいくつかの事例を紹介、議論する
- 第5回 『アジア政治とは何か』民主主義を輪読、議論する
- 第6回 アジア政治の課題について議論する
- 第7回 The Encyclopedia of the Chinese Overseasの序章を輪読、議論する
- 第8回 The Encyclopedia of the Chinese Overseasのマレーシアを輪読、議論する
- 第9回 The Encyclopedia of the Chinese Overseasのインドネシアを輪読、議論する
- 第10回 The Encyclopedia of the Chinese Overseasのフィリピンを輪読、議論する
- 第11回 The Encyclopedia of the Chinese Overseasのタイを輪読、議論する
- 第12回 The Encyclopedia of the Chinese Overseasのベトナムを輪読、議論する
- 第13回 華人の東南アジアへの移住の歴史と国民国家建設における役割について議論する
- 第14回 これまでの議論を踏まえて、各人が作成したレポートの報告、議論を行う
- 第15回 補足とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート ... 40% 報告や議論 ... 60%

東南アジア地域研究II 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

大学院は各自が自主的に学ぶ場であるので、参考文献や資料を収集して熟読すること。
アジア国際関係史や東南アジア研究など、東南アジアに関する講義を学部で受講したことがない場合は、外国語学部国際関係学科「地域研究入門 - 東南アジア」を聴講するなど、自主的に・積極的に学習して欲しい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東南アジア、華僑・華人、植民地支配、国民国家、国民統合、ASEAN

アメリカ社会史研究 【夜】

担当者名 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ アメリカ社会の歴史に関する専門的知識を深める。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ アメリカ社会の歴史に関する資料を用いた調査研究能力を深める。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ アメリカ社会の諸問題を発見・分析できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

アメリカ社会史研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

現代アメリカ社会の始まりは、19世紀末～20世紀初頭の革新主義時代であるとされる。本授業においては、革新主義時代のアメリカ社会形成を中心に、現代アメリカ史に関する基本文献を読み、アメリカ社会をよりよく理解する端緒とする。

教科書 /Textbooks

初回の授業でリーディング・リストを配布し、参加者と相談のうえ決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示・配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 ガイダンス：授業のテーマとすすめ方
- 2 回 都市の時代：1893年シカゴ万博と都市の拡大
- 3 回 都市の時代：ハル・ハウスと移民の生活
- 4 回 都市の時代：ハル・ハウスと貧困・階級
- 5 回 労働争議の時代：プルマン・ストライキと労働問題
- 6 回 労働争議の時代：労働組合と労働問題
- 7 回 労働争議の時代：フォーディズムと労働問題
- 8 回 大衆消費の時代：郊外化とアメリカ文化
- 9 回 大衆消費の時代：都市化とアメリカ文化
- 10 回 大恐慌の時代：不況と政治
- 11 回 大恐慌の時代：不況と家族・家庭
- 12 回 大恐慌の時代：不況と労働運動
- 13 回 冷戦の時代：冷戦と反共主義
- 14 回 冷戦の時代：冷戦と家族・家庭
- 15 回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20% 授業への貢献度...20% 授業中の報告...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

リーディング・リストの参考文献を積極的に読むことを薦める。

アメリカ社会史研究 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ人種関係研究 【夜】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ アメリカ合衆国の人種関係について広く知識を修得し、それに基づいて、現代世界が抱える問題について専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ アメリカ合衆国の人種関係に関する先行研究を収集・整理することができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ アメリカ合衆国の人種関係に関する知識を国際社会で生かせるよう、実践的な問題にも関心を持つことができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

アメリカ人種関係研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

人種・民族の多様性という点に関して、その規模の大きさとパターンの複雑さでアメリカ合衆国の右に出るものはない。それゆえに、人種差別解消に関する思想およびそのための諸政策についても、アメリカ合衆国の事例を抜きにして学ぶことはできない。この授業では、アメリカ合衆国における人種・エスニシティ関係について、文献の輪読や討論を行う。

教科書 /Textbooks

Gary Gerstle, American Crucible: Race and Nation in the Twentieth Century, Princeton, NJ: Princeton University Press, 2001.
 David Roediger, The Wages of Whiteness: Race and the Making of the American Working Class, Revised ed., New York: Verso, 1999 [1991].
 David Biale, Michael Galchinsky, and Susannah Heschel, Insider/Outsider: American Jews and Multiculturalism, Berkeley: University of California Press, 1998.
 Karen Brodtkin, How Jews Became White Folks and What That Says About About Race in America, New Brunswick, NJ: Rutgers University Press, 1999.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション
2. 優生学の登場
3. 「新移民」と人種
4. ホワイト・エスニックとは
5. 反ユダヤ主義の系譜
6. 戦争と人種問題 1 : アフリカ系アメリカ人
7. 戦争と人種問題 2 : ホロコーストの記憶と反省
8. 戦争と人種問題 3 : 日系人と強制収容
9. 公民権運動をめぐる議論 1 : 1950年代
10. 公民権運動をめぐる議論 2 : 1960年代前半
11. 公民権運動をめぐる議論 3 : 1960年代後半
12. ポスト公民権運動期の人種関係
13. 文化多元主義と多文化主義
14. 今日のアメリカの人種関係とその展望
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発言・報告...100%

アメリカ人種関係研究 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

初回の授業以前に担当教員（北美幸）の研究室を訪問し、修士課程での研究テーマとこの授業の関連について相談すること。その際に授業テキスト以外のリーディング・リスト（読んでおくべき文献のリスト）も配布する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際経済研究 【夜】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 国際経済に関する諸問題を理解するために必要な専門知識を習得する。グローバル社会が抱える諸問題を経済学の視点から理解する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 経済学の分析手法を身につけ、国際経済の現実問題に応用して議論を行うことができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 修得した知識・技能を生かし、国際的な視野に立って物事を考える。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

国際経済研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義は、不完全競争市場下の貿易政策の経済分析を学習する。部分均衡分析の手法を用いて、国際貿易政策の分析に応用できることを期待している。

到達目標は以下の通りである。

- ① 不完全競争の市場構造を理解できる。
- ② 貿易政策の経済分析の基本ツールを身につける。
- ③ 現実の貿易政策を調査し、経済学の視点から分析できる。

教科書 /Textbooks

Helpman E. and P.R. Krugman 『Trade Policy and Market Structure』(MIT Press)
和訳：大山道広訳『現代の貿易政策』(東洋経済新報社)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

伊藤元重・清野一治他著『産業政策の経済分析』(東京大学出版社)
柳川範之著『戦略的貿易政策』(有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 貿易政策と市場支配力【戦略的效果】【生産効率】
- 3回 完全競争下の貿易政策I【関税】【輸入割当】【輸出補助金】
- 4回 完全競争下の貿易政策II【最適関税理論】
- 5回 保護と国内市場支配力I【国内独占】【関税】【輸入割当】
- 6回 保護と国内市場支配力II【国内寡占】
- 7回 外国企業による市場支配I【外国独占】【関税】【数量制限】
- 8回 外国企業による市場支配II【クールノー型寡占】【ベルトラン型寡占】
- 9回 外国企業による市場支配III【寡占のもとでの割当】
- 10回 戦略的輸出政策I【戦略的輸出補助金政策】【レントシフト】
- 11回 戦略的輸出政策II【価格競争】【規模の経済】
- 12回 戦略的輸入政策I【関税】【輸入割当】
- 13回 貿易政策調査発表I
- 14回 貿易政策調査発表II
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 30 % 課題提出・発表 70 %

国際経済研究 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学、学部レベルの国際経済論の知識を事前に習得すること。図解と数式を用いて解説を進めるので、微分などの経済数学の知識が必要。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際機構研究 【夜】

担当者名 /Instructor 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 国際機構の理解に必要な基礎的専門的知識を習得する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 国際機構に関する先行研究を踏まえ、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 国際機構をめぐる実践的な問題に関心を持ち、適切な行動をとることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

国際機構研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

国際機構に関する理解を深めるために、国際機構の目的、制度、機能および課題を研究する。

教科書 /Textbooks

Clive Archer, International Organizations, Fourth Edition, Routledge, 2014.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストの講読と報告を通じて、国際機構の現代的展開を概観および考察する。

- 第1回 はじめに
- 第2回 テキスト第1章【国際機構の定義】
- 第3回 テキスト第1章【国際機構の歴史】
- 第4回 テキスト第2章【国際機構への加盟】
- 第5回 テキスト第2章【国際機構の目的と活動】
- 第6回 テキスト第3章【現実主義と国際機構】
- 第7回 テキスト第3章【修正主義と国際機構】
- 第8回 テキスト第3章【急進主義と国際機構】
- 第9回 テキスト第4章【国際機構の役割】
- 第10回 テキスト第4章【国際機構の機能】
- 第11回 テキスト第4章【グローバル・ガバナンス】
- 第12回 テキスト第5章【国際機構の将来】
- 第13回 テキスト第5章【国際機構の課題】
- 第14回 テキスト第5章【国際機構のもうひとつの可能性】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加50%、報告50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

国際機構に関する入門書・専門書を事前に購読しておくこと。

国際機構研究 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス文学研究 【夜】

担当者名 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ イギリス文学研究に関する高度な知識を身につける。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ イギリス文学に関する資料を適切に分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△ イギリス文学研究に関する課題を主体的に解決できるようになる。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		イギリス文学研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

メインなテキストとしてボードリアールの『シミュラクルとシミュレーション』を置き、毎回2章ずつ読んでいく。同時に、ボードリアールの主張するシミュラクルとシミュレーションの考え方をベースにして、Lewis Carol, Charles Dickens, P. B. Shelley, John Foweles, W. B. Yeats等のイギリス文学の作家について考察し、「オリジナルなきシミュラクル」の問題について考える。

教科書 /Textbooks

ボードリアール『シミュラクルとシミュレーション』（叢書・ユニベルシタス）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業において適宜指摘する。

イギリス文学研究 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 シミュラークルの先行、歴史
復古のシナリオ
- 3回 ホロコースト
チャイナ・シンドローム
- 4回 アポカリプス・ナウ (『地獄の黙示録』)
ポーブル効果—内破と抑止
- 5回 ハイパーマーケットとハイパー商品
メディアの中で意味は内破する
- 6回 絶対広告と零広告
クローン物語
- 7回 ホログラム
クラッシュ
- 8回 シミュラークルとSF
動物—テリトリーとメタモルフォーズ
- 9回 残り
螺旋しかばね
- 10回 価値のラスト・タンゴ
ニヒリズムについて
- 11回 ルイス・キャロルとシミュラークル
- 12回 デイケンズとシミュラークル
- 13回 ブロンテとシミュラークル
- 14回 P. B. シェリーとシミュラークル
- 15回 ジョン・ファウルズとシミュラークル

成績評価の方法 /Assessment Method

平素100パーセント

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代イギリス文学研究 【夜】

担当者名 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 現代イギリス文学に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 高度な英語力を持つ専門的職業人として、現代イギリス文学に関する資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△ 専門的な言語・現代イギリス文学の知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		現代イギリス文学研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

今日エコロジストは、絶対化された存在という呪縛から人間を解き放ち、人間を相対化し、人間もあくまで自然の一部に過ぎないと主張します。しかし人類の長い歴史を振り返ると、人間は自然を搾取し、コントロールすることで文明を発展させてきたことが分かります。このような自然と人間の関係を軸に文学作品を批評する方法として昨今脚光を浴び出したのが「エコクリティシズム」です。

そこで今回は、その方法論を習得し、時間的に余裕があれば、幾つかの詩をその視点で鑑賞します。扱う詩人は、イギリス人ではロマン派の代表者W.ワーズワスや、自然搾取が確実に深刻な問題になりつつあった時代を生きたD.H.ロレンス、アメリカ人では、ウォールデン湖のほとりで自然と共に生きる生活を敢えて実践したH.D.ソローや、“inhumanism”を唱えたR.ジェファーズなどです。これらの詩人をエコロジーの視点で鑑賞することで、彼らの今日的意義を探ります。

授業の到達目標： 英米から始まったエコクリティシズムに関する知識を養い、現代の英米における詩人たちをエコロジーの発想で論じると同時に、それらの特徴を説明できるようになること。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。(The Ecocriticism Readers by Cheryl Glotfelty)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入 (自然と文学について)
- 2回 The Ecocriticism Readers pp. xv - xvii 精読と解釈
- 3回 The Ecocriticism Readers pp. xvii - xviii 精読と解釈
- 4回 The Ecocriticism Readers pp. xviii - xx 精読と解釈
- 5回 The Ecocriticism Readers pp. xx - xxii 精読と解釈
- 6回 The Ecocriticism Readers pp. xxii - xxiv 精読と解釈
- 7回 The Ecocriticism Readers pp. xxiv - xxv 精読と解釈
- 8回 伊藤詔子氏によるエコクリティシズムの説明論文の紹介
- 9回 ソローの『ウォールデン』からの抜粋の読みと、それを巡る議論
- 10回 ワーズワスの詩の鑑賞とエコロジー的読み
- 11回 ロレンスの詩の鑑賞とエコロジー的読み
- 12回 ジェファーズの詩の鑑賞とエコロジー的読み
- 13回 自然と人間のあり方についての議論： 授業を踏まえて(1) 【機械文明の問題】
- 14回 自然と人間のあり方についての議論： 授業を踏まえて(2) 【共生の可能性】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・・・ 80%
毎回の授業への参加度など・・・ 20%

現代イギリス文学研究 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

テキストの英文を精読します。しっかりと予習をして授業に臨んでください。

キーワード /Keywords

英語表現法 【夜】

担当者名 /Instructor クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 英語表現法に関する高度な知識を身につける。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英語表現法に関する資料を適切に分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 英語表現法に関する課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

英語表現法

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

This course will build advanced-level academic English vocabulary through study of the Latin roots, prefixes and suffixes that are commonly used in the construction of English words. The course will be especially useful for learners doing graduate study in literature, linguistics or law. It will provide them with the skills necessary to deconstruct the meaning of unknown words encountered in texts as well as to express their own ideas more eloquently.

教科書 /Textbooks

Ayer, D. English Words from Latin & Greek Elements. 2nd Ed. University of Arizona Press.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Barnhardt, R. K. (Ed.) Chambers Dictionary of Etymology.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Lesson 1: Orientation; the English-English dictionary (Homework: Ayer 1)
- Lesson 2: The origins & development of the English language
- Lesson 3: Definitions; word structure: bases, prefixes, suffixes (Homework: Ayer 2)
- Lesson 4: Prefixes: regressive assimilation (Homework: Ayer 3)
- Lesson 5: Prefixes: other predictable sound changes; acronyms (Homework: Ayer 4-5)
- Lesson 6: Multiple-base words; hybrid words (Homework: Ayer 6-7)
- Lesson 7: Review #1 (units 1-7)
- Lesson 8: Suffixes (adjectival): dissimilation & other sound changes (Homework: Ayer 8-10)
- Lesson 9: Suffixes (adjectival): semantic & functional change (Homework: Ayer 11-13)
- Lesson 10: Suffixes (noun): abstraction, weakening and hyperbole (Homework: Ayer 14-16)
- Lesson 11: Suffixes (noun): diminutives, concept development (Homework: Ayer 17)
- Lesson 12: Suffixes (noun): euphemism, taboo deformation & circumlocution (HW: Ayer 18-19)
- Lesson 13: Suffixes (verbal): clipped words and blends (Homework: Ayer 20-21)
- Lesson 14: Doublets; Latinisms in English; metathesis, Latin phrases in English (Homework: Ayer 22-25)
- Lesson 15: Review #2 (units 8-25)

成績評価の方法 /Assessment Method

Mid-term test 50% Final test 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Learners will analyze, define and learn approximately 40 English words per week.

英語表現法 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ文学研究 【夜】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ アメリカ文学を代表的する特定の作家に関する高度に専門的な知識を修得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ アメリカ文学の作品を専門的視点から分析し、独自の解釈を口頭発表できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△ 過去のアメリカ文学作品が有する先見性に対する理解を深める。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		アメリカ文学研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

アメリカ文学と、現実のアメリカ人の価値観、美意識やアメリカの歴史・文化との相互関係についての分析・考究を行う。より具体的には、小説 *Adventures of Huckleberry Finn* を精読し、作品内容と当時の南部社会の特質との関連性について考察する。特に、作品中の奴隷制度の描写に焦点を当てることにより、作品外の現実が、如何なる形で作品構造に対して影響を及ぼしているかを論ずる。以上の作業を行うことによって、アメリカ文学とアメリカ文化との関連性を分析する能力を身につけたい。併せて、本作に関する批評論文や、作品内容と関連したアメリカ文化に関する英語資料も、時間が許す限り読解したい。古典的な文学作品や研究論文の英語を読みこなせるだけの英語読解力を、可能な限り身につけることも目標とする。

教科書 /Textbooks

Adventures of Huckleberry Finn Mark Twain A Norton Critical Edition ISBN: 978-0-393-96640-4
受講希望者は事前に上記テキストを、アマゾンや生協等に発注し購入しておくこと。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- *Huck Finn* Ed. Harold Bloom Chelsea House Publisher
- *Coming to Grip with Huckleberry Finn* Tom Quirk University of Missouri Press
- 『ハックルベリーフィンの冒険』(上、下) 西田実訳 岩波文庫

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方に関するオリエンテーション Mark Twain に関する概説
- 2回 南部文化、奴隷制度等の作品の背景に関する解説
- 3回 1-4章 作中のキリスト教の位置づけ
- 4回 5-8章 アメリカ文学における父親のイメージ
- 5回 9-12章 ハックのジムに対する姿勢の本質
- 6回 13-16章 ハックとジムの論争の描写の意味について
- 7回 17-23章 グレンジャーフォード家についてハックが語る際の語り口の特徴
- 8回 24-27章 詐欺師の二人組に対するハックの不可解な対応の意義
- 9回 28-31章 メアリー・ジェーンに対するハックの評価の不可思議性
- 10回 32-35章 なぜハックは詐欺師をリンチから救うことに強くこだわるのか。
- 11回 36-40章 トムが主導するジムの救出作戦の描写は、何を読者に伝えようとしての結果なのか。
- 12回 41-43章 ハックのジムに対する姿勢は、作品当初と比べて、どのように変化したのか、していないのか。
- 13回 南部の奴隷制度に関する論文の読解
- 14回 作品の背景となる南部文化に関する論文の読解
- 15回 作品に関する論文の読解、全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...70% 発表...30%

アメリカ文学研究 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

作品の事前に指定された箇所（25ページ程度）を事前に読んでおくこと。
また、重要と判断した箇所に関して、可能な限り自分自身の解釈を考えておくこと。
発表の担当となっている場合は、指示に従ってレジユメを作成しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語教育法研究概論 【夜】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科, クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 英語教育学に関する高度な知識を身に付け、通訳教育についても考察し、現代を生きる日本人に最も適した英語教育学のあり方を考えることができる。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 理解力、分析力に裏打ちされた研究を遂行するとともに、自らがその手本として高度な英語力を身に付けている。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 理論や技能にとどまらず、グローバル人材として活躍できる人材を育成するとの自覚を持ち、教養や知識の習得にも配慮する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

英語教育法研究概論

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

「事実上の国際共通語」の地位を得て久しい英語ですが、それゆえにグローバル化が進むのにあわせ、この言語に習熟することが前にもまして重要になってきています。何らかの形で英語と関わる分野の研究を深めようとする皆さんは、たとえ直接英語教育に携わる立場に立たなくとも、英語学習者の方々への助言を行なうなど、さまざまな形で間接的に英語教育にかかわることとなります。

この授業では、タスクを中心とした学習法の研究を行なっているクレイグ・ランバート先生と、おもに通訳教育を専門としている伊藤健一の2名の教員がそれぞれの得意とする領域についてお話しし、皆さんと意見交換をしながら学びを深めていきたいと思えます。第2回から第9回までをランバート先生が、第1回と第10回以降を伊藤が担当します。なお、一部メニューが重複しますが、復習として、また異なる見解に触れる機会として考えていただければ幸いです。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。授業ではプリントなどを用い、皆さんの学習の便宜を図ります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業の中で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 オリエンテーション：英語を取りまく世界の状況
- 第02回 Types of Language Knowledge
- 第03回 Approaches to Language Teaching
- 第04回 Discourse Demands
- 第05回 Task Sequencing
- 第06回 Lesson Planning
- 第07回 Teaching Methods
- 第08回 Learner Motivation
- 第09回 Evaluating Learners Performance
- 第10回 言語習得理論と学習法
- 第11回 リーディングの指導
- 第12回 リスニング・スピーキングの指導
- 第13回 文法・作文の指導
- 第14回 教材と授業運営
- 第15回 通訳教育からの提言

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加の度合い50% + 学期末レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

英語教育法研究概論 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会システム総合概論【夜】

担当者名 /Instructor 岡山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 社会システムにおける基礎的で共通の知識を修得し、各専攻での専門的な知識や理解の礎を形成できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	△ 各専攻での専門的な課題に対して、適切な分析の基礎が修得できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△ 各専攻で修得する専門的知識を駆使して、社会の様々な課題に主体的に取り組む姿勢を修得できるようになる。

※◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

社会システム総合概論

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

現代の社会システム全般を大きく対象として取り上げ、その構造や機能、さらにはそれらの動態的变化等について考察する。その際、つねに実態を重視するとともに、multidisciplinaryな視点からアプローチをしていくことを目標としていく。したがって、受講生の専攻分野に関わりなく、個別具体的な問題意識を顕在化させることに努めるとともに、同時にその専門化された分析手法の有効性や限界についても、論理的かつ実証的に習得するように努める。具体的には個々の受講生がmultidisciplinaryな観点から相互に討議しまたこれへの参加を得て、よりその内容を研鑽し発展させて行く。

教科書 /Textbooks

授業の性格上、共通のテキストは指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋昌一郎 「哲学ダイバート: <倫理>を<論理>する」 NHKブックス[1097] 2007年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

多様で多方面にわたる総合的な演習を行う関係から、その進行状況にあわせた演習内容とスケジュールとなる。

- 1回 インTRODクシヨン・ガイダンス
- 2回 社会システムとは: 発表および討議
- 3回 社会システムとは: 発表および討議
- 4回 論理的思考に関する講義および討議
- 5回 論理的思考に関する講義および討議
- 6回 例題演習および討議
- 7回 例題演習および討議
- 8回 学生による報告の中間発表
- 9回 学生による報告の中間発表
- 10回 学生による報告(グループ毎に決めた課題についての発表および議論)
- 11回 学生による報告(グループ毎に決めた課題についての発表および議論)
- 12回 学生による報告(グループ毎に決めた課題についての発表および議論)
- 13回 学生による報告(グループ毎に決めた課題についての発表および議論)
- 14回 学生による報告(グループ毎に決めた課題についての発表および議論)
- 15回 学生による報告(グループ毎に決めた課題についての発表および議論)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業貢献、20%: 課題1、20%: 課題2、25%: 課題3、35%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

社会システム総合概論【夜】

履修上の注意 /Remarks

自分の専門分野を超えていろいろな視点から研究対象をとらえるべく、視角を広げ他分野の研究に対して臆することなく議論を行うことが必要。その上で自らの研究テーマを客観的に捉え、その有効性等を確認する作業に努めることが、各授業へ対する準備となる。
社会システム研究科博士前期課程学生の必須科目。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

討論中心であり、学生間および学生と教員との相互の意見交換・意思疎通が重要となる。活発な議論を期待する。

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 田島 司 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

社会心理学に関連する研究を進めていくための基礎的な指導を行う。研究テーマを絞り、研究史をまとめる作業を行いつつ、研究方法の予備的検討を行う。

教科書 /Textbooks

特に定めない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 オリエンテーション
- 2～14回目 発表や討論など
- 15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究内容50%、研究遂行上の積極性50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

人間が、歴史的社会的文脈の中に自己の存在を位置づけていく自己実現と相互承認の編成過程を分析することを課題としている。そのために、(1) グローバルな視点や歴史的な視点で課題を押さえた上で、(2) 地域レベルでの行動の課題を、文化・教育・福祉・環境など幅広い分野における学習の契機や条件として把握し、検討する。(3) これらを踏まえて、現代社会における、人間そのものや、人間関係について、その到達点と可能性を明らかにしていく。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 雑誌『月刊 社会教育』国土社
- 雑誌『公民館』全国公民館連合会
- 雑誌『社会教育』全日本社会教育連合会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

文献購読や、生涯教育・社会教育の基礎理論をテーマとした演習を行う。
以下のテーマに関して2～3回で進めていく。(1: ガイダンス、2: 動向検討、3: 論点整理)
(1) 「自分づくりの危機」の時代といわれる今日的課題について教育的検討を行い、そのメカニズムを解明し、克服していこうとする実践について理解を深める。
(2) 子どもから成人にわたる教育の論理(学習過程の独自性)について検討を行う。
(3) 生活課題や地域課題について理解を深め、地域づくりの課題と可能性を解明する。
(4) 地域における教育の構造や、その連関について理解を深める。
(5) NPOやNGOについての理解を深め、社会参画やボランティア活動について検討を行う。
(6) 生涯学習社会における学校教育・家庭教育・社会教育について理解を深め、生涯学習関連の諸活動・制度と、その連携・ネットワークについて検討する。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度及び発表内容等を総合して評価する
平素…40%、課題…40%、討議…20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特別研究基礎 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文のテーマおよびその方法論を検討することを目的とする。研究テーマにおいては人間の基本的特性を理解した上で、人間関係に関わる諸問題を検討する。さらに、方法論においては人間関係に関わる諸問題についてどのような調査・分析が可能かを検討する。そして、修士論文のテーマを具体化することが目標となる。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 山田剛史・林創 (2011). 大学生のためのリサーチリテラシー入門 ミネルヴァ書房
- 大野木裕明・中沢潤 (編著) (2002). 心理学マニュアル研究法レッスン 北大路書房
- 浦上昌則・脇田貴文 (2008). 心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方 東京図書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回～第15回 研究指導

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の自主的研究活動 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

自分の研究テーマについて、十分に検討しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

研究論文の作成に向け、必要な基礎的・理論的知識及び研究法の習得するために、テーマに関する文献収集とその検討や研究手法に関する指導を行う。

教科書 /Textbooks

なし。
 資料は初回の授業で配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 研究計画の検討1【研究目的・課題をめぐって】
- 3回 研究計画の検討2【研究方法をめぐって】
- 4回 修士論文に関わる文献の購読1【修士論文・課題】
- 5回 修士論文に関わる文献の購読2【修士論文・方法】
- 6回 修士論文に関わる文献の購読3【日本教育制度学会・学会誌掲載論文】
- 7回 修士論文に関わる文献の購読4【日本教育政策学会・学会誌掲載論文】
- 8回 修士論文に関わる文献の購読5【日本教育経営学会・学会誌掲載論文】
- 9回 修士論文に関わる文献の購読6【日本教育法学会・学会誌掲載論文】
- 10回 修士論文に関わる文献の購読7【日本教育社会学会・学会誌掲載論文】
- 11回 研究方法1【フィールドワーク・学校】
- 12回 研究方法2【フィールドワーク・学校外教育】
- 13回 研究計画の検討3【先行研究の検討(研究目的・課題をめぐって)】
- 14回 研究計画の検討4【先行研究の検討(研究方法をめぐって)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...40% 発表報告...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

配布資料は事前によく読んでおくこと。発表者は事前の準備を行い、発表当日はレジュメ等、プレゼン資料を準備すること。

特別研究基礎 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文作成のための基礎力を身につけることを目的とする。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。プリントを配布する予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 研究テーマの設定と討論①
- 第3回 研究テーマの設定と討論②
- 第4回 研究テーマの設定と討論③
- 第5回 研究テーマの設定と討論④
- 第6回 関連資料の講読と討論①
- 第7回 関連資料の講読と討論②
- 第8回 関連資料の講読と討論③
- 第9回 関連資料の講読と討論④
- 第10回 関連資料の講読と討論⑤
- 第11回 関連資料の講読と討論⑥
- 第12回 関連資料の講読と討論⑦
- 第13回 関連資料の講読と討論⑧
- 第14回 関連資料の講読と討論⑨
- 第15回 関連資料の講読と討論⑩

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表・討論・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特別研究基礎 【夜】

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

社会問題としての生活問題に関する理論を基礎にして、対象者を権利の主体として位置づけるための社会福祉研究のあり方について、文献研究を通して深めていく。

教科書 /Textbooks

適時指定する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 問題意識に関する討論
- 3回 講読文献の決定と討論
- 4回 文献講読と討論
- 5回 文献講読と討論
- 6回 文献講読と討論
- 7回 文献講読と討論
- 8回 問題意識を深めるための中間討論
- 9回 文献講読と討論
- 10回 文献講読と討論
- 11回 文献講読と討論
- 12回 文献講読と討論
- 13回 文献講読と討論
- 14回 文献講読と討論
- 15回 まとめの討論

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートおよび報告を総合して評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

指定するテキストの中には、すでに絶版となっている物も含まれているため、文献探索の労をいとわない様にしてほしい。

特別研究基礎 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文の作成のための基本的学習を行う。受講生の研究計画について話し合い、問題意識を掘り下げ、研究テーマが明確化できるような支援を行う。参考文献を読むことで、研究の方法や論文執筆に役立つ福祉の理論的枠組みについて検討できるようにする。

教科書 /Textbooks

受講生と相談の上決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生と相談の上決定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 研究計画の検討
- 3回 研究計画の検討
- 4回 研究文テーマに関する参考文献の収集と検討
- 5回 研究文テーマに関する参考文献の収集と検討
- 6回 参考文献の講読
- 7回 参考文献の講読
- 8回 参考文献の講読
- 9回 参考文献の講読
- 10回 参考文献の講読
- 11回 参考文献の講読
- 12回 参考文献の講読
- 13回 参考文献の講読
- 14回 研究計画の検討
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 50%、研究活動への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特別研究基礎 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

特別研究基礎

授業の概要 /Course Description

この授業では、修士課程での2年間の研究活動の基礎を培うため、①参加者の修士課程での研究テーマの基礎となる知見の修得、②研究を進めていく上で求められる研究方法の修得、③参加者の研究に必要なフィールドの場の確立、の三点の課題を中心にして取り組みを進めていきたい。

教科書 /Textbooks

参加者と相談の上、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 参加者の問題意識の交流
- 3回 研究計画の検討
- 4回 文献購読 第1章
- 5回 文献購読 第2章
- 6回 文献購読 第3章
- 7回 文献購読 第4章
- 8回 文献購読 第5章
- 9回 文献購読 第6章
- 10回 参加者の研究計画の再検討
- 11回 事例検討 その1
- 12回 事例検討 その2
- 13回 事例検討 その3
- 14回 事例検討 その4
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 70% 期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

2年間の研究活動を見通して、問題意識をしっかりとって参加してほしい。

特別研究基礎 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

研究計画、研究方法

特別研究基礎 【夜】

担当者名 深谷 裕 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

研究テーマ・研究課題の設定方法、課題に応じた資料の収集方法や、調査方法等の論文作成に必要な知識について学び、課題の明確化と研究への着手を進める。

教科書 /Textbooks

授業の中で紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 論文作成にあたって (概要説明)
- 第2回 問題意識の整理
- 第3回 研究方法1 (研究の種類)
- 第4回 研究方法2 (研究の進め方)
- 第5回 研究計画書の書き方
- 第6～10回 研究計画書の発表 (第1回目)
- 第11～14回 研究計画書の修正 (第2回目)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表と授業への積極的関与により評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

研究テーマと研究計画について必ず整理してくる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

この科目は、研究と修士論文の作成のための基礎的な知見と研究方法を修得することを目的とします。
研究テーマに関する文献・資料の収集を行いながら、先行研究と研究の方法論を学び、研究を独自で展開するために必要な能力を身につけます。同時に、論文執筆に必要なスキルを高めます。

この科目の学位授与方針に基づく到達目標は以下の通りです。
人間の基本的特性の理解に必要な専門知識を備える。
人間関係に関わる諸課題について調査できる。
人間関係に関わる諸問題を見定めることができる。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の研究テーマに関する文献を授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション
第2回～第15回 論文執筆指導

成績評価の方法 /Assessment Method

自主的な研究活動 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

特別研究基礎

授業の概要 /Course Description

この授業では、自らの研究課題に関連する論文（レポート）の作成に向けて、以下の準備作業を行う。
 (1) 研究テーマ・問い、論証戦略の確定
 (2) 調査方法の検討
 (3) 自らの研究テーマ・問いについての既存の研究の整理
 (4) 調査法の習得

教科書 /Textbooks

受講者の研究領域、調査方法（量的 / 質的）に応じて決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講者の研究領域、調査方法（量的 / 質的）に応じて、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション
 第2回 研究テーマ・問いの確認
 第3回 既存の研究の探索
 第4回 既存の研究の検討
 第5回 文献リストの作成
 第6回 基本仮説・作業仮説の検討
 第7回 論証戦略の検討
 第8回 調査法の整理
 第9回 調査法の検討
 第10回 文献レビュー（テキスト批評）1
 第11回 文献レビュー（テキスト批評）2
 第12回 文献レビュー（テキスト批評）3
 第13回 文献レビュー（テキスト批評）4
 第14回 調査の計画
 第15回 研究報告

成績評価の方法 /Assessment Method

理解度・・・20% 課題（レポート）・・・80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

特別研究基礎 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

フィールドワークを主体とした「人類学」研究の場である。ゼミ生はそれぞれ自分の研究テーマと調査地をもつ。研究テーマは、人と文化に関するあらゆる分野(もちろん社会・環境・福祉・教育・心理・言語・宗教・芸術などすべてここに含まれる)のなかから自分のもつとも関心のあるものを選ぶ。調査の基本は異文化における世界認識を自分の身体経験を通して客体化するフィールドワークの手法である。ゼミでは自分の必要に応じて調査の内容あるいは文献の紹介をおこない、それをもとに参加者全員でディスカッションをする。つかいふるされたテキストではなくフィールドの体験から一次データを収集しそれを分析していく過程をへて、われわれが最終的に目指すものは、既存の価値観をくつがえす新しいパラダイムを発見することである。もしかしたらそれはあなたの生き方まで変えてしまうかもしれない。人間について知りたい、未知の世界を発見したいという意欲があり、自分自身でそれを遂行できる人のみ受け入れる。

研究のスタイルを確立し論文の作成に向けての基礎

教科書 /Textbooks

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回オリエンテーション：研究計画
 - 第2回調査方法検討
 - 第3回周辺領域の文献収集
 - 第4回文献リストの作成
 - 第5回 先行研究に関する批判
 - 第6回先行研究に関する総論
 - 第7回調査計画
 - 第8回調査計画の再検討
 - 第9回仮説作成
 - 第10回 仮説作成の再検討
 - 第11回予備調査
 - 第12回予備調査の再検討
 - 第13回先行研究との関連性
 - 第14回本調査への準備
 - 第15回 まとめ
- 予備調査をかねて広くさまざまな地域をまわり、調査地との関係をつくる。そこでえられたデータをもとに講義をとおして議論をおこない論文の構成をととのえていく。
- ゼミこそが本来の大学らしい教育と研究の場所であり、ものごとを議論し探求する楽しさを学んでほしいと考えている。

特別研究基礎 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミでのディベートとディスカッション ... 50 %
各自の調査研究 ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本を読むこと。議論をすること。野に出ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミとは講義を受ける場所ではなくて、ひとつの問題についてできるだけ多くの意見を交換し互いに考察を深める場である。したがって、毎回のゼミで発表者に対してなんらかのコメントをつけることは、最低限の礼儀と考えてほしい。そういった意味で、自分が調査地に出ているときをのぞき、ゼミには必ず参加すること、だつて発表する人に失礼でしょ。

キーワード /Keywords

人類学
フィールドワーク

特別研究基礎 【夜】

担当者名 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

環境社会学に関する研究のために、調査方法、論文作成方法を理解し、自主的に研究をすすめることができるようにする。

教科書 /Textbooks

とくに使用しないが、必要に応じて論文やプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の関心テーマに合わせて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 研究の分担発表、討論
- 3回 研究の分担発表、討論
- 4回 研究の分担発表、討論
- 5回 研究の分担発表、討論
- 6回 論文講読の分担発表、討論
- 7回 論文講読の分担発表、討論
- 8回 論文講読の分担発表、討論
- 9回 論文講読の分担発表、討論
- 10回 研究の分担発表、討論
- 11回 研究の分担発表、討論
- 12回 研究の分担発表、討論
- 13回 研究の分担発表、討論
- 14回 研究の分担発表、討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(討論への参加状況含む) ...40% 事前調査と発表内容...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各自の研究テーマの関連文献を自主的に読み進めること、発表までの作業計画をたてて準備しておくことが求められる。

特別研究基礎 【夜】

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文作成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の課題を主体的に分析できる態度を養う。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

This course will cover fundamental issues in second language teaching as background for future research in the field.

教科書 /Textbooks

Course materials will be arranged by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Brown, G. & Yule, G. 1983. Teaching the Spoken Language. Cambridge: Cambridge University Press.
 Ellis, R. 2009. Task-based language teaching: sorting out the misunderstandings. International Journal of Applied Linguistics 19(3): 221-246.
 Robinson, P. 2011. Task-based language teaching: a review of the issues. Language Learning 61(supplemental issue): 1-36.
 Samuda, V. & Bygate, M. 2008. Tasks in Second Language Learning. London: Palgrave Macmillan.
 Skehan, P. 1996. A framework for the implementation of task-based instruction. Applied Linguistics 17(1): 38-62.
 Yule, G. 1997. Referential Communication Tasks. Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Types of Language Knowledge
2. Types of Communication
3. Approaches to Language Teaching
4. Types of Discourse
5. Designing Learning Tasks
6. Presentation #1
7. Sequencing Learning Tasks
8. Evaluating Learning Tasks
9. Presentation #2
10. Classroom Interaction Patterns
11. Learner Motivation
12. Learner Involvement
13. Presentation #3
14. Corrective Feedback
15. Achievement

成績評価の方法 /Assessment Method

In-Class Presentations 50%
 Final Report 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

特別研究基礎 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

The course will be taught in English.

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文作成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の課題を主体的に分析できる態度を養う。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文作成のために必要な基礎的知識を体得すると同時に、研究のための理論を習得します（例えばエコクリティシズム、フェミニスト批評、ポストコロニアル批評等々）。

修士論文で扱う作家、作品、関心のあるテーマなどを絞り込むことで、2年次からの論文作成の実践に備えます。

様々な資料を通じて理論を学びつつ、関心のある作家、作品、関心のあるテーマを深めるための資料なども読破していきます。

★到達目標： 多くの作品を読破することで、自分の扱う作品やテーマを絞り込み、それらに対する批評方法を意識化できるようになること。

- ① 英米語圏の文学の知識を応用し、論文作成の基本能力を養うこと。
- ② 英米語圏の文学作品や批評理論の資料を分析できる技能を修得すること。
- ③ 英米語圏の文学の課題を主体的に分析できる態度を養うこと。

教科書 /Textbooks

適宜、指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入。担当学生と相談の上、1学期の予定表を作成します。
- 第2回 テーマに沿って課題1の発表。コメント。課題2の確認。
- 第3回 前回のコメントを踏まえた調整。課題2の発表。コメント。課題3の確認。
- 第4回 前回のコメントを踏まえた調整。課題3の発表。コメント。課題4の確認。
- 第5回 前回のコメントを踏まえた調整。課題4の発表。コメント。課題5の確認。
- 第6回 前回のコメントを踏まえた調整。課題5の発表。コメント。課題6の確認。
- 第7回 前回のコメントを踏まえた調整。課題6の発表。コメント。課題7の確認。
- 第8回 前回のコメントを踏まえた調整。課題7の発表。コメント。課題8の確認。
- 第9回 前回のコメントを踏まえた調整。課題8の発表。コメント。課題9の確認。
- 第10回 前回のコメントを踏まえた調整。課題9の発表。コメント。課題10の確認。
- 第11回 前回のコメントを踏まえた調整。課題10の発表。コメント。課題11の確認。
- 第12回 前回のコメントを踏まえた調整。課題11の発表。コメント。課題12の確認。
- 第13回 前回のコメントを踏まえた調整。課題12の発表。コメント。課題13の確認。
- 第14回 前回のコメントを踏まえた調整。課題13の発表。コメント。
- 第15回 総括。修士論文の題目を決定。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の報告書... 80% 授業への参加度など... 20%

特別研究基礎 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回出す課題をしっかりとこなしていきましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文作成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の課題を主体的に分析できる態度を養う。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		特別研究基礎

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

毎回、各自の研究内容に沿い、1000～1200字程度のエッセイ課題を出す。課題は授業の1日前にemailによって提出してもらう。提出されたエッセイの内容をもとにしてチュータリング方式で指導する。

教科書 /Textbooks

テキスト、参考文献は、研究内容の展開に応じて指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指摘する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（基礎1）
- 第2回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（基礎2）
- 第3回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（基礎3）
- 第4回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（基礎4）
- 第5回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（基礎5）
- 第6回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（展開1）
- 第7回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（展開2）
- 第8回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（展開3）
- 第9回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（展開4）
- 第10回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（展開5）
- 第11回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（応用1）
- 第12回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（応用2）
- 第13回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（応用3）
- 第14回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（応用4）
- 第15回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（応用5）

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加・課題エッセイ

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

課題を準備してくること。

特別研究基礎 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文作成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の課題を主体的に分析できる態度を養う。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		特別研究基礎

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

文学作品の読解、批評論文の読解を通して、アメリカ文学を分析する際の手法を理解し、身に付けることを目的とする。
授業の詳細に関しては、出席者の研究テーマと興味の所在を踏まえたうえで決定するが、本年度はジョン・スタインベックの小説の精読を行う予定である。また、修士論文の執筆に必要な資料の収集、読解、活用に関する指導と、修士論文の構想の作成に関する指導も行なう。

教科書 /Textbooks

必要に応じて、和文、英文のプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回の授業時に、受講生の興味の所在を踏まえた上で指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、授業のテーマと方向性に関する詳細の決定
- 2回 最初に決めたテーマと関連した資料収集：図書館
- 3回 最初に決めたテーマと関連した資料収集：ネット活用
- 4回 最初に決めたテーマと関連した資料収集：他大学蔵書
- 5回 最初に決めたテーマと関連した作品の読解
- 6回 最初に決めたテーマと関連した作品の分析
- 7回 最初に決めたテーマと関連した日本語資料の読解
- 8回 最初に決めたテーマと関連した日本語資料の分析
- 9回 最初に決めたテーマと関連した英語資料の精読
- 10回 最初に決めたテーマと関連した英語資料の読解
- 11回 最初に決めたテーマと関連した英語資料の分析
- 12回 修論のテーマに関する指導
- 13回 修論の構想に関する指導：章構成について
- 14回 修論の構想に関する指導：各章の内容について
- 15回 レポートの提出・講評

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50% 平素の学習状況50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前に与えられた課題を行っておくこと。
夏休み中に修士論文の構想を確定し、夏休み明けの最初の授業時に発表する必要がある。

特別研究基礎 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立つ能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文作成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の課題を主体的に分析できる態度を養う。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文の作成のために必要な基礎的知識と方法論を学ぶ。修士論文のテーマに関する文献収集のやり方や収集した文献の評価検討のやり方や研究の方法論について習得する。

教科書 /Textbooks

文献は初回の授業で紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入
- 2回 研究目的論
- 3回 研究課題論
- 4回 資料収集の手ほどき
- 5回 資料収集の実践
- 6回 収集した資料の評価
- 7回 研究方法論(19世紀まで)
- 8回 研究方法論(20世紀前半)
- 9回 研究方法論(1960年代・70年代)
- 10回 研究方法論(1980年代・90年代)
- 11回 研究方法論(2000年代以降)
- 12回 先行研究の評価に関して
- 13回 研究論文作成の手ほどき
- 14回 研究論文作成の実践
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表報告・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習を必ず行い、プレゼンの資料を用意すること。

特別研究基礎 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の頭で考えてください。教師に対し理論的な戦いを挑み、倒すことを考えている院生を大歓迎します。
演習室はコロシウム。

キーワード /Keywords

【文献収集】 【文献の評価検討】 【研究の方法論】

特別研究基礎 【夜】

担当者名 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文作成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の課題を主体的に分析できる態度を養う。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

研究課題に取り組むための準備として十分な文献講読を行い、修士論文（又は特定課題研究）の作成において必要な基礎的・理論的知識及び文献・資料の収集・調査方法等の基礎を指導する。

教科書 /Textbooks

未定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン
- 2回 研究テーマについて(1)
- 3回 研究テーマについて(2)
- 4回 文献講読とディスカッション(1)
- 5回 文献講読とディスカッション(2)
- 6回 文献講読とディスカッション(3)
- 7回 文献講読とディスカッション(4)
- 8回 文献講読とディスカッション(5)
- 9回 文献講読とディスカッション(6)
- 10回 文献講読とディスカッション(7)
- 11回 文献講読とディスカッション(8)
- 12回 文献講読とディスカッション(9)
- 13回 学生による研究報告(1)
- 14回 学生による研究報告(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表・平常の学習状況...50%、レポート...50%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特別研究基礎 【夜】

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文作成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の課題を主体的に分析できる態度を養う。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

この授業では、これから大学院での研究活動を始めるにあたって必要な基礎力を身に着けるためのお手伝いをしたいと思います。あくまでも研究の主体は受講生ですから、こちらから何かを教えるというのではなく、主体的に取り組んでこられたことを確認し、発展させるための手助けをしたいと思います。これから2年間しっかりがんばりましょう。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 研究方針の確認(1)
- 第02回 必要な文献の購読と吟味(1)
- 第03回 必要な文献の購読と吟味(2)
- 第04回 必要な文献の購読と吟味(3)
- 第05回 必要な文献の購読と吟味(4)
- 第06回 必要な文献の購読と吟味(5)
- 第07回 必要な文献の購読と吟味(6)
- 第08回 必要な文献の購読と吟味(7)
- 第09回 学期末小論文の作成準備協議(1)
- 第10回 学期末小論文の作成準備協議(2)
- 第11回 学期末小論文の作成準備協議(3)
- 第12回 学期末小論文の作成準備協議(4)
- 第13回 学期末小論文の作成準備協議(5)
- 第14回 学期末小論文の作成準備協議(6)
- 第15回 学期末小論文の作成準備協議(7)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表、学期末小論文によって評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特別研究基礎 【夜】

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 中国学に関するあらゆる基礎的知識を修得し、論文作成の基本能力を養う。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 現代中国語と漢文資料を収集し、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 中国学全般に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

論文作成の基本知識と技巧を習得する。

教科書 /Textbooks

授業ごとにプリントを配る。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

鄧紅著『王充新八論』（中国社会科学出版社2003年）○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一回 先行研究の選定
- 第二回 先行研究の引用
- 第三回 学術論文の章節
- 第四回 学術論文の構造
- 第五回 学術論文の言語表現
- 第六回 論文の標点
- 第七回 論文のバランス
- 第八回 注釈の作成
- 第九回 参考資料の調査
- 第十回 資料の調べ方
- 第十一回 図書館の利用法
- 第十二回 インターネットと論文作成
- 第十三回 論文講読（1）
- 第十四回 論文講読（2）
- 第十五回 論文試作、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業準備40%、レポートの完成度60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

論文作成道具の用意

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特別研究基礎 【夜】

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 中国学に関するあらゆる基礎的知識を修得し、論文作成の基本能力を養う。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 現代中国語と漢文資料を収集し、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 中国学全般に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

現代中国語文法・語用論・教育法における研究成果をまとめ、修士論文のテーマを考える。

教科書 /Textbooks

関係ある論文・最新研究資料のコピーを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 王 占華 他 『中国語学概論』(改訂版) 駿河台出版社
- 朱 徳熙 『語法講義』(中国語原書と日訳) 白帝社
- 相原 茂 他 『中国語の文法書』 同学社
- 杉村 博文 『中国語文法教室』 大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回
現代中国語文法に関する問題を分類する。
問題別に研究現状をまとめる。
修論のテーマを決めた上で、関係ある論文を読む。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の練習・発表・コメントにより100%で評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 胡 玉華 / 中国学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○	中国学に関するあらゆる基礎的知識を修得し、論文作成の基本能力を養う。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	現代中国語と漢文資料を収集し、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	中国学全般に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			特別研究基礎

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

中国語教育に関する実践研究の論文を読み、実践研究（実験）を行うための方法論を習得し、中国語教育における現状及び問題を知り、修論のテーマを確定する。

教科書 /Textbooks

随時配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『教育心理学キーワード』 森敏・秋田喜代美 有斐閣 2006
『授業に学び授業を創る教育心理学』 宇野忍 中央法規 1995

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～2回 実践研究の方法（比較法と構成法）
3回～6回 中国語教育における教育援助に関する実践研究
7回～9回 中国語教育における教育評価に関する実践研究
10～13回 ミニ実践研究の発表および講評
14～15回 修論テーマの検討（レポート）

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発表・コメント（50%）、期末のレポート（50%）による総合的評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

問題意識・考える力を高く評価する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 比較文化研究に関する必要な基礎的専門知識を身につける。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 比較文化研究に必要な基礎的研究能力を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ グローバルな視野で文化の問題を考察できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

特別研究基礎

授業の概要 /Course Description

講生各自が日本宗教史の領域の中から興味のあるテーマに関する代表的研究論文を読み、その内容について報告する。さらに報告について全員で議論する。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方
- 2回 日本宗教史研究の課題 (講義)
- 3回 報告と議論
- 4回 報告と議論
- 5回 報告と議論
- 6回 報告と議論
- 7回 報告と議論
- 8回 報告と議論
- 9回 報告と議論
- 10回 報告と議論
- 11回 報告と議論
- 12回 報告と議論
- 13回 報告と議論
- 14回 報告と議論
- 15回 報告と議論

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の内容 50% 授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特別研究基礎 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本宗教史

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 比較文化研究に関する必要な基礎的専門知識を身につける。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 比較文化研究に必要な基礎的研究能力を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ グローバルな視野で文化の問題を考察できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

認知言語学を用いることにより、文化と文学の関連性を探求する。文学、新聞、広告などに登場するメタファーの文化的背景を視野に入れ、そのメタファーがいかなる認知的及び文化的過程を通して成り立っているかを検討する。

教科書 /Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生と相談した上で決定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 修士論文計画に関する検討
- 2回～14回 院生による口頭発表及び教員による指導
- 15回 今後の研究計画に関する検討

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：30% 小テスト：0% 期末試験：0% 課題：45% 態度：25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

修士論文計画書の通りに研究を行なうことが重要なポイントです。院生は計画の通りに研究を実行しなければ、修士論文提出締め切りまでに提出できなくなり場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較文学、メタファー論、認知言語学、認知文学

特別研究基礎 【夜】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 比較文化研究に関する必要な基礎的専門知識を身につける。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 比較文化研究に必要な基礎的研究能力を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ グローバルな視野で文化の問題を考察できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

論文指導を受けたい受講生と相談のうえ、どのような課題について論文を書くか、また、その受講生のこれまでの学習・研究状況に応じて、必要な文献講読を行う。同時に、言語学の分野における論文執筆作法の基礎を身につける。言語学の下位分野1領域の興味のある課題について、小さな論文をまとめる。

教科書 /Textbooks

授業時に指定。
その他プリント配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 受講生との相談
- 第2回 - 第5回 文献講読（音韻論・形態論・統語論・意味論・語用論）
- 第6回 - 第10回 言語学の課題についての議論
- 第11回 - 第14回 受講生による発表
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...45% 課題...10% レポート...45%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

文献の予習（特に英語文献は意味が取れるようにしておくこと）

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 比較文化研究に関する必要な基礎的専門知識を身につける。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 比較文化研究に必要な基礎的研究能力を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ グローバルな視野で文化の問題を考察できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

受講生と相談のうえ、言語学の下位分野の中から、興味のある課題を選び、論文を作成する。受講生が選んだテーマに応じて、必要な文献講読を行う。到達目標は以下の通りである。

- (1)文献講読を通して、言語学に関する知識を身につける。
- (2) 言語学に関する論文作成の基礎を身につける。

教科書 /Textbooks

授業時に指定。
その他プリント配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 受講生と相談
- 第2回 - 第10回 文献講読
- 第11回 - 第14回 受講生による発表
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

文献の予習（特に英語文献は意味が取れるようにしておくこと）

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 堀地 明 / 中国学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文作成のための研究報告と研究指導を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし、研究課題に即して指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 研究報告と指導
- 第3回 研究報告と指導
- 第4回 研究報告と指導
- 第5回 研究報告と指導
- 第6回 研究報告と指導
- 第7回 研究報告と指導
- 第8回 研究報告と指導
- 第9回 研究報告と指導
- 第10回 研究報告と指導
- 第11回 研究報告と指導
- 第12回 研究報告と指導
- 第13回 研究報告と指導
- 第14回 研究報告と指導
- 第15回 研究報告と指導

成績評価の方法 /Assessment Method

研究報告と討論により100%評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特別研究基礎 【夜】

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

中華人民共和国の共産党一党支配体制と市場経済化との関係について検討し、改革開放政策に対する評価について議論する。中国研究の資料・文献について収集・読解能力を養う。詳細は受講生の関心に応じて決定する。学期末にレポートを課す。

教科書 /Textbooks

授業で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の関心に基づいて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下のスケジュールを進める。
 1回 インTRODクシヨン
 2回～14回 指定した文献の輪読・報告・議論。
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発言・報告...60% レポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

課題を熟読して論点を把握し、自分の抱いた問題点(3点程度にまとめる)等を用意してから授業に臨むこと。
 中国・台湾の地図や新聞記事などを授業内容理解のために活用すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 白石 麻保 / 中国学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

中国経済理解のための実証分析の手法を身につけ、それを自身の研究に応用する。
個別に設定されたテーマについて中国経済に対する社会科学的・実証的な分析を行い、報告・ディスカッションを行う。

教科書 /Textbooks

履修生のテーマに沿って取り扱う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の際に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーリングと打ち合わせ
 - 2回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
 - 3回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
 - 4回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
 - 5回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
 - 6回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
 - 7回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
 - 8回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
 - 9回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
 - 10回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
 - 11回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
 - 12回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
 - 13回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
 - 14回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
 - 15回 まとめ
- * 内容については進捗状況に応じて変動することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度及びプレゼンテーション、ディスカッションへの参加状況やそれらの内容による。

レジュメの作成及び報告・・・60% ディスカッションへの参加状況・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

特別研究基礎 【夜】

履修上の注意 /Remarks

(主にミクロ) 経済学及び統計学, 計量経済学等の知識を必要とするので, 学部レベルの当該科目の知識を習得しているとより理解が深まる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

東アジア三国(日本、清国・中国、朝鮮・韓国)の政治思想と国際関係への理解を深めるために、関連文献とともに原典・古典を読解する。ゼミ参加学生の論文テーマに沿って、報告・討論の機会を設ける。

教科書 /Textbooks

随時紹介する。またゼミ参加学生各自の関心分野に関する参考文献は随時相談に応じる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回
読解する文献、原典・古典は授業中決める。
レジュメの作成・報告、討論

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 50% レポートや論文 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

関連文献を自主的に読むこと。

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。	
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎	研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。	
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。	

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

東アジア経済に関連したテーマで修士論文を作成することを前提として、東アジア経済の基本的文献とともに研究を進める上での方法論についても文献を精読していき、論文執筆に求められる知識と研究能力を身につけていく。

教科書 /Textbooks

研究テーマに応じて相談して決める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指摘する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 イントロダクション
第2回～第14回 レジユメによる報告とディスカッション
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 40% 報告 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。	
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎	研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。	
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。	

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文を書くための基礎作業を行う

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

別途指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～第5回 研究史のまとめ方
第6回～第15回 史料の探し方・読み方

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(4000字)・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。	
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎	研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。	
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。	

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文作成に向けて、まず、研究テーマ（日本政治外交史）を決める手助けをしたい。

教科書 /Textbooks

学生との話し合いによる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション
第2回～15回 学生による報告とそれに対する指導。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

その都度指示します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 篠崎 香織 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文の指導を行う。先行研究の整理と、「問い」と「仮説」の設定、それを実証する方法について検討する。

教科書 /Textbooks

受講生の関心に応じて決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生に対して個別に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 イン트로ダクション
2回～14回 修士論文の経過報告
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ... 50 % レポート ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業中に指示する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

各自が研究対象とする地域と課題を設定し、基本的な文献を収集・読破する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：研究する上での基本的姿勢（講義）
- 第3回：課題設定における諸注意（講義）
- 第4回～第14回：各自の報告・議論
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 報告内容50%
- レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 田村 慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

受講生の必要に応じて開講する。
戦後東南アジアの国際関係、政治や社会に関する英語および日本語文献を輪読、受講生による報告と議論を行う。それを通して、【大学院生として身につけておくべき基礎的・初歩的知識の獲得】を目指す。
同時に、修士論文もしくは課題研究を執筆するために必要な技法（文献検索や参考文献の提示の仕方などの細かい点も含めて）を教示し、論文もしくは課題研究を完成させることを目指す。
また何度か短い課題レポートを科し、添削をして返却する。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で決定するが、以下を考えている。
(1) 清水一史・田村慶子・横山豪志『東南アジア現代政治入門』ミネルヴァ書房、2011年。
(2) 岩崎育夫『アジア政治とは何か』中公叢書、2009年。
(3) Amitav Acharya, Constructing a Security Community in Southeast Asia, Routledge, 2001.
(4) 服部民夫・船津鶴代・鳥居高編『アジア中間層の生成と特質』アジア経済研究所、2002年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○村田翼夫編『東南アジア諸国の国民統合と教育』東信堂、2001年。
○大阪市立大学経済研究所監修『アジアの大都市シリーズ』日本評論社、1998年～2000年。
バンコク編、ジャカルタ編、クアラルンプール・シンガポール編、マニラ編の4冊がある。
○Lynn Pan ed., The Encyclopedia of the Chinese Overseas, Curzon, 1998.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 テキストとスケジュールの相談、説明
第2～4回 『東南アジア現代政治入門』を3回に分けて輪読、議論する
第5～7回 『アジア政治とは何か』を3回に分けて輪読、議論する
第8～10回 Constructing a Security Community in Southeast Asiaを3回に分けて輪読、議論する
第11～13回 『アジア中間層の生成と特質』を3回に分けて輪読、議論する
第14回 これまでの議論を踏まえて各人の課題レポートを決め、その内容を報告する
第15回 まとめの議論

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート ... 40% 報告や議論 ... 60%

特別研究基礎 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学院は各自が自主的に学ぶ場であるので、参考文献や資料を収集して熟読すること。

キーワード /Keywords

東南アジア、国民統合、国家建設、中間層、民主化、ASEAN

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

近現代アメリカ合衆国を中心とした社会の諸問題について各自が報告を行い、それを通して論文の書き方を学ぶ。

教科書 /Textbooks

原則として、各自で用意する。また、適宜必要な文献・資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて各自で調査する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方などについての話し合い
- 2回 論文の書き方、資料収集方法などについての確認
- 3回 受講者による発表・討議
- 4回 文献講読と解説
- 5回 文献講読と解説
- 6回 受講者による発表・討議
- 7回 文献講読と解説
- 8回 文献講読と解説
- 9回 受講者による発表・討議
- 10回 文献講読と解説
- 11回 文献講読と解説
- 12回 受講者による発表・討議
- 13回 文献講読と解説
- 14回 文献講読と解説
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度... 30% 発表... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

発表者は必ず、レジユメを作って発表にのぞむこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特別研究基礎 【夜】

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

特別研究基礎

授業の概要 /Course Description

修士論文の作成に向け、参加者の関心に沿って文献の輪読を行う。

教科書 /Textbooks

受講生と相談の上、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献リストをオリエンテーション時に配布する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 文献紹介
- 第3回 文献の背景説明
- 第4-8回 一冊目の輪読
- 第9回 文献の背景説明
- 第10-14回 二冊目の輪読
- 第15回 講義の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ... 70 % レポート ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

この講義はアメリカ社会概論とあわせて履修すると効果的です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文の執筆に向けての指導を行う。

教科書 /Textbooks

授業中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 インTRODクシオン。
第2～14回 修士論文の経過報告・テキスト輪読・討論
第15回 まとめ
詳細は受講生と相談のうえ決定する。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...30% 討論への参加度...40% レポート類...30%
ただし、報告の放棄や無断欠席が一度でもあった場合には単位はない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業中に指示する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文執筆に向けての基礎的な指導を行う。

教科書 /Textbooks

受講生の研究分野に応じて決める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 修論執筆に向けた基礎的な指導(1)
- 3回 修論執筆に向けた基礎的な指導(2)
- 4回 修論執筆に向けた基礎的な指導(3)
- 5回 修論執筆に向けた基礎的な指導(4)
- 6回 修論執筆に向けた基礎的な指導(5)
- 7回 修論執筆に向けた基礎的な指導(6)
- 8回 修論執筆に向けた基礎的な指導(7)
- 9回 修論執筆に向けた基礎的な指導(8)
- 10回 修論執筆に向けた基礎的な指導(9)
- 11回 修論執筆に向けた基礎的な指導(10)
- 12回 修論執筆に向けた基礎的な指導(11)
- 13回 修論執筆に向けた基礎的な指導(12)
- 14回 修論執筆に向けた基礎的な指導(13)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の内容・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

報告準備を十分に整えておくこと。

特別研究基礎 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 五月女 律子 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

この授業では、北欧諸国の国内政治、対外政策、EUとの関係などについて、英語の文献を用いながら、学生が独自の研究を進める基礎力をつけることを目指す。受講生が北欧諸国の政治についての基礎知識を持っていることを前提として進める予定である。

教科書 /Textbooks

必要に応じて授業時に適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業時に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、スケジュールの決定
- 2回 北欧諸国の政治・国際関係に関する基礎知識の確認・復習
- 3回 学生による研究計画の発表(1)
- 4回 学生による研究発表(2)
- 5回 学生による研究発表(3)
- 6回 学生による研究発表(4)
- 7回 学生による研究発表(5)
- 8回 学生によるレポートのアウトライン発表
- 9回 学生によるレポート内容の発表(1)
- 10回 学生によるレポート内容の発表(2)
- 11回 学生によるレポート内容の発表(3)
- 12回 学生によるレポート内容の発表(4)
- 13回 学生によるレポート内容の発表(5)
- 14回 レポートの添削
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

議論への参加40%、口頭発表30%、レポート30%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特別研究基礎 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義は、大学院レベルの国際経済理論、とくにミクロ経済側面の国際貿易理論を学習する。貿易発生仕組み、貿易政策の経済効果、海外直接投資の分析を中心に、国際経済の諸問題を経済学の視点から理解できることを目標としている。

到達目標は以下の通りである。

- ① 国際経済に関する知識を養い、経済分析の手法を身につける。
- ② 現実の国際経済問題を経済学の視点から説明できる。
- ③ 国際経済の数理モデルを理解できる。

教科書 /Textbooks

中西訓詞・広瀬憲三・川井一宏著『国際経済理論』（有斐閣ブックス）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

木村福成著『国際経済学入門』（日本評論社）
伊藤元重・大山大道著『国際貿易』（岩波書店）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 リカードモデルI【比較優位】【貿易パターン】
- 3回 リカードモデルII【2国多財モデル】【相対賃金】【技術進歩】
- 4回 特殊の要素モデルI【特殊の要素】【生産構造】
- 5回 特殊の要素モデルII【比較静学】
- 6回 ヘクシャー・オリーンモデルI【ヘクシャー・オリーン定理】【要素価格均等化定理】
- 7回 ヘクシャー・オリーンモデルII【ストルパー・サムエルソン定理】【リプチンスキー定理】
- 8回 貿易均衡【交易条件】【オファー・カーブ】
- 9回 貿易政策論の基礎I【小国】【ラーナーの対称性定理】
- 10回 貿易政策論の基礎II【大国】【関税と数量規制政策の同値性】
- 11回 海外直接投資I【国際資本移動】【マクドゥーガル分析】
- 12回 海外直接投資II【多国籍企業】【取引コスト】
- 13回 戦略的貿易政策I【国際寡占】【戦略的行動】
- 14回 戦略的貿易政策II【輸入関税政策】【輸出補助金政策】
- 15回 まとめ

特別研究基礎 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 30 % 課題提出 (数回) 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学、学部レベルの国際経済論の知識を事前に習得すること。図解と数式を用いて解説を進めるので、微分など経済数学の知識が必要。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際貿易、直接投資、経済統合

特別研究基礎 【夜】

担当者名 大平 剛 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

この演習では、修士課程の1年生が修士論文を作成する上で必要となるスキルを身に付けることを目指します。論文とはいかなるものであるかをまずは学び、論文作成上のアカデミック・ルールを身に付けます。次いで、実際に学術論文をもとに、論文の内容把握とともに、論理展開の方法について学習します。

教科書 /Textbooks

川崎剛『社会科学系のための「優秀論文」作成術』勁草書房、2010年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

前半部分は上記テキストを用い、後半部分では学術論文のコピーを教材として使用します。

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 テキスト第1章、第2章
- 第3回 テキスト第3章、第5章
- 第4回 テキスト第7章
- 第5回 論文執筆のアカデミック・ルール
- 第6回 学術論文の解剖①(1) (日本語論文) (内容把握)
- 第7回 学術論文の解剖①(2) (日本語論文) (論理展開の分析)
- 第8回 学術論文の解剖②(1) (日本語論文) (内容把握)
- 第9回 学術論文の解剖②(2) (日本語論文) (論理展開の分析)
- 第10回 学術論文の解剖③(1) (日本語論文) (内容把握)
- 第11回 学術論文の解剖③(2) (日本語論文) (論理展開の分析)
- 第12回 学術論文の解剖④(1) (英語論文) (内容把握)
- 第13回 学術論文の解剖④(2) (英語論文) (論理展開の分析)
- 第14回 学術論文の解剖⑤(1) (英語論文) (内容把握)
- 第15回 学術論文の解剖⑤(2) (英語論文) (論理展開の分析)

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・・・70% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特別研究基礎 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。	
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎	研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。	
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○	現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。	

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

国際機構を主題とする修士論文を作成するために、基礎的な文献や一次資料を収集し、かつこれらを整理するための技能を養う。

教科書 /Textbooks

受講生の関心に沿って決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 はじめに
第2回-第14回 報告と議論
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告30%、参加70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

受講者各自が研究を進めることが目標である。受講前に研究をどの程度行ってきたかや、採用する研究方法等によって進め方は異なるために、共通した授業内容としてここに表記することは困難である。しかし基本的には、研究テーマの絞り込み、関連する先行研究の渉獵とまとめ、問題の明確化、実験・調査の計画と実施、データの分析、論文の執筆、という流れであり、これらを受講者が互いに発表、議論しながら進めていく。

各受講生が学問的意義、社会的意義のある研究を進め、論文執筆できるようになることが到達目標である。

教科書 /Textbooks

特に定めない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 受講者の研究の進捗状況に沿って進めていく

成績評価の方法 /Assessment Method

研究内容 ... 50 % 研究への積極的取り組み等 ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

人間が、歴史的社会的文脈の中に自己の存在を位置づけていく自己実現と相互承認の編成過程を分析することを課題としている。そのために、(1) グローバルな視点や歴史的な視点で課題を押さえた上で、(2) 地域レベルでの行動の課題を、文化・教育・福祉・環境など幅広い分野における学習の契機や条件として把握し、検討する。(3) これらを踏まえて、現代社会における、人間そのものや、人間関係について、その到達点と可能性を明らかにしていく。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 雑誌『月刊 社会教育』国土社
- 雑誌『公民館』全国公民館連合会
- 雑誌『社会教育』全日本社会教育連合会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

文献購読や、生涯教育・社会教育の基礎理論をテーマとした演習を行う。
以下のテーマに関して2～3回で進めていく。(1: ガイダンス、2: 動向検討、3: 論点整理)
(1) 「自分づくりの危機」の時代といわれる今日的課題について教育的検討を行い、そのメカニズムを解明し、克服していこうとする実践について理解を深める。
(2) 子どもから成人にわたる教育の論理(学習過程の独自性)について検討を行う。
(3) 生活課題や地域課題について理解を深め、地域づくりの課題と可能性を解明する。
(4) 地域における教育の構造や、その連関について理解を深める。
(5) NPOやNGOについての理解を深め、社会参画やボランティア活動について検討を行う。
(6) 生涯学習社会における学校教育・家庭教育・社会教育について理解を深め、生涯学習関連の諸活動・制度と、その連携・ネットワークについて検討する。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度及び発表内容等を総合して評価する
平素…40%、課題…40%、討議…20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特別研究 1 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文の作成に必要な基礎的・理論的知識と研究方法を修得することを目的とする。研究テーマに関する文献・資料の収集、研究の方法論を学び、研究を独自で展開するのに必要な能力をつける。研究テーマにおいては人間の基本的特性を理解した上で、人間関係に関わる諸問題を検討し、文献・資料の収集を行う。さらに、方法論においては人間関係に関わる諸問題についてどのような調査・分析が可能かを検討する。そして、修士論文を完成させるのに必要な能力をつけることが最終的な到達目標となる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の研究テーマに応じた文献を必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1 回～第15回 論文執筆指導

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の自主的研究活動 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

自分の研究テーマについて、先行研究などを調べ十分に検討しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 田中 信利 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

臨床心理学領域の修士論文を書くのに必要とされる知識・理論の習得や、問題の所在を明確化して研究デザインを導き出すための力を身につけることを目的とする。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献講読と討論①
- 第3回 文献講読と討論②
- 第4回 文献講読と討論③
- 第5回 文献講読と討論④
- 第6回 文献講読と討論⑤
- 第7回 文献講読と討論⑥
- 第8回 文献講読と討論⑦
- 第9回 文献講読と討論⑧
- 第10回 文献講読と討論⑨
- 第11回 研究デザインと討論①
- 第12回 研究デザインと討論②
- 第13回 研究デザインと討論③
- 第14回 研究デザインと討論④
- 第15回 研究デザインと討論⑤

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表・討論・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特別研究 1 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

「社会福祉の実践と研究の視角」

社会福祉の（ないしは社会福祉問題に近接する）領域において頻繁に取り上げられる実践上および研究上の課題を取り上げ、それらを多角的に検討することによって、この領域における研究対象とすべきことを吟味する。

教科書 /Textbooks

適時指定する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1～5回 社会福祉研究の動向に関する討論
- 第 6～10回 研究方法に関する検討
- 第11、12回 研究課題に関する報告と討論
- 第13、15回 研究論文の意味と位置

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートおよび報告を総合して評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文の作成のための基本的学習を行う。受講生の研究計画について話し合い、問題意識を掘り下げ、研究テーマが明確化できるような支援を行う。参考文献を読むことで、社会福祉の理論について学び、論文執筆に役立つ理論的枠組みについて検討できるようにする。研究計画を検討し、具体化できるように支援を行う。

教科書 /Textbooks

適宜指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 研究に関する報告と討議、検討
- 3回 研究に関する報告と討議、検討
- 4回 研究に関する報告と討議、検討
- 5回 研究に関する報告と討議、検討
- 6回 研究に関する報告と討議、検討
- 7回 研究に関する報告と討議、検討
- 8回 研究に関する報告と討議、検討
- 9回 研究に関する報告と討議、検討
- 10回 研究に関する報告と討議、検討
- 11回 研究に関する報告と討議、検討
- 12回 研究に関する報告と討議、検討
- 13回 研究に関する報告と討議、検討
- 14回 研究に関する報告と討議、検討
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 50%、 報告・レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特別研究 1 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

報告のためのレポートの作成など、事前学習が必要になります。

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

この授業では、修士課程での2年間の研究活動の基礎を培うため、①参加者の修士課程での研究テーマの基礎となる知見の修得、②研究を進めていく上で求められる研究方法の修得、③参加者の研究に必要なフィールドの場の確立、の三点の課題を中心にして取り組みを進めていきたい。

教科書 /Textbooks

参加者と相談の上、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 参加者の問題意識の交流
- 3回 研究計画の検討
- 4回 文献購読 第1章
- 5回 文献購読 第2章
- 6回 文献購読 第3章
- 7回 文献購読 第4章
- 8回 文献購読 第5章
- 9回 文献購読 第6章
- 10回 参加者の研究計画の再検討
- 11回 事例検討 その1
- 12回 事例検討 その2
- 13回 事例検討 その3
- 14回 事例検討 その4
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 70%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特別研究 1 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

研究活動の基礎

特別研究 1 【夜】

担当者名 深谷 裕 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○	人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。	
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎	人間関係に係わる諸課題について調査できる。	
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎	人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。	

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

研究課題の整理と、研究方法の精緻化を進める。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 特別研究の進め方 (概要説明)
- 第 2～6 回 研究計画の修正と進捗報告
- 第 7～14 回 関連文献・関連論文の報告
- 第 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究報告により評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必ず報告の準備をしてくること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

この科目は、特別研究基礎から引き続いて、研究と修士論文の作成に必要な基礎的・理論的知識と研究方法を修得することを目的とします。研究テーマに関する文献・資料の収集を行いながら、先行研究と研究の方法論を学び、研究を独自で展開するために必要な能力を身につけます。同時に、論文執筆に必要なスキルを高めます。

この科目の学位授与方針に基づく到達目標は以下の通りです。
人間の基本的特性の理解に必要な専門知識を備える。
人間関係に関わる諸課題について調査できる。
人間関係に関わる諸問題を見定めることができる。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の研究テーマに関する文献を授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1 回～第15回 論文執筆指導

成績評価の方法 /Assessment Method

自主的な研究活動 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

受講者の問題関心にそった論文（レポート）の作成をめざす。
そのため、以下のことを行う。
（１）自らの研究関心に関連する文献のレビュー（テキスト批評）
（２）調査法の習得
（３）論文（レポート）の執筆

教科書 /Textbooks

受講者の研究領域、調査方法（量的 / 質的）に応じて決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講者の研究領域、調査方法（量的 / 質的）に応じて決定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 問いと論証戦略の確認
- 第3回 既存の研究の整理（文献リストの作成）
- 第4回 文献のレビュー（テキスト批評）1
- 第5回 文献のレビュー（テキスト批評）2
- 第6回 調査法の検討
- 第7回 文献のレビュー（テキスト批評）3
- 第8回 文献のレビュー（テキスト批評）4
- 第9回 文献のレビュー（テキスト批評）5
- 第10回 研究報告 1
- 第11回 文献のレビュー（テキスト批評）6
- 第12回 文献のレビュー（テキスト批評）7
- 第13回 文献のレビュー（テキスト批評）8
- 第14回 文献のレビュー（テキスト批評）9
- 第15回 研究報告 2

成績評価の方法 /Assessment Method

理解度・・・20% 課題（レポート）・・・80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

特別研究 1 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

フィールドワークを主体とした「人類学」研究の場である。ゼミ生はそれぞれ自分の研究テーマと調査地をもつ。研究テーマは、人と文化に関するあらゆる分野(もちろん社会・環境・福祉・教育・心理・言語・宗教・芸術などすべてここに含まれる)のなかから自分のもつとも関心のあるものを選ぶ。調査の基本は異文化における世界認識を自分の身体経験を通して客体化するフィールドワークの手法である。ゼミでは自分の必要に応じて調査の内容あるいは文献の紹介をおこない、それをもとに参加者全員でディスカッションをする。つかいふるされたテキストではなくフィールドの体験から一次データを収集しそれを分析していく過程をへて、われわれが最終的に目指すものは、既存の価値観をくつがえす新しいパラダイムを発見することである。もしかしたらそれはあなたの生き方まで変えてしまうかもしれない。人間について知りたい、未知の世界を発見したいという意欲があり、自分自身でそれを遂行できる人のみ受け入れる。

研究のスタイルを確立し論文の作成に向けての基礎

教科書 /Textbooks

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回オリエンテーション：研究計画
- 第2回本調査データの検討
- 第3回周辺領域の文献
- 第4回文献リストの作成
- 第5回 先行研究に関する批判
- 第6回先行研究に関する総論
- 第7回補足調査計画
- 第8回補足調査計画の再検討
- 第9回中間発表準備および章立ての作成
- 第10回 章立ての再検討
- 第11回論文指導
- 第12回論文指導
- 第13回論文指導
- 第14回論文指導
- 第15回 まとめ

予備調査をかねて広くさまざまな地域をまわり、調査地との関係をつくる。そこでえられたデータをもとに講義をとおして議論をおこない論文の構成をととのえていく。

ゼミこそが本来の大学らしい教育と研究の場所であり、ものごとを議論し探求する楽しさを学んでほしいと考えている。

特別研究 1 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミでのディベートとディスカッション ... 50 %
各自の調査研究 ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本を読むこと。議論をすること。野に出ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミとは講義を受ける場所ではなくて、ひとつの問題についてできるだけ多くの意見を交換し互いに考察を深める場である。したがって、毎回のゼミで発表者に対してなんらかのコメントをつけることは、最低限の礼儀と考えてほしい。そういった意味で、自分が調査地に出ているときをのぞき、ゼミには必ず参加すること、だつて発表する人に失礼でしょ。

キーワード /Keywords

人類学
フィールドワーク

特別研究 1 【夜】

担当者名 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

環境社会学に関する研究のために、調査方法、論文作成方法を理解し、自主的に研究をすすめることができるようにする。

教科書 /Textbooks

とくに使用しないが、必要に応じて論文やプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の関心テーマに合わせて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 研究の分担発表、討論
- 3回 研究の分担発表、討論
- 4回 研究の分担発表、討論
- 5回 研究の分担発表、討論
- 6回 論文講読の分担発表、討論
- 7回 論文講読の分担発表、討論
- 8回 論文講読の分担発表、討論
- 9回 論文講読の分担発表、討論
- 10回 研究の分担発表、討論
- 11回 研究の分担発表、討論
- 12回 研究の分担発表、討論
- 13回 研究の分担発表、討論
- 14回 研究の分担発表、討論
- 15回 修士論文発表会への参加

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(討論への参加状況含む) ...40% 事前調査と発表内容...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特別研究 1 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各自の研究テーマの関連文献を自主的に読み進めること、発表までの作業計画をたてて準備しておくことが求められる。

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文完成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析し、研究に応用できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化に関する課題を主体的に考える態度を養う。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

The course will provide a foundation for research in TESOL by addressing topics such as: How do you plan a TESOL research project? How do you analyze research data qualitatively and quantitatively? How should you report your results?

教科書 /Textbooks

Brown, J.D. 2014. Mixed Methods Research for TESOL. Edinburgh University Press. ISBN-10: 0748646396, ISBN-13: 978-0748646395

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Additional references will be provided by the instructor in line with students' specific needs and interests.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. The qualitative/quantitative continuum
2. Planning a project
3. Gathering data
4. Analyzing data
5. Report #1
6. Interpreting results
7. Reporting
8. Research in classrooms
9. Action research
10. Report #2
11. Conversation analysis
12. Discourse analysis
13. Surveys
14. Program evaluation
15. Report #3 (Project Proposal)

成績評価の方法 /Assessment Method

Report #1: 25%
Report #2: 25%
Report #3: 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特別研究 1 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文完成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析し、研究に応用できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化に関する課題を主体的に考える態度を養う。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文作成のために必要な基礎的知識を体得すると同時に、研究のための理論を習得します（例えばエコクリティシズム、フェミニスト批評、ポストコロニアル批評等々）。

修士論文で扱う作家、作品、関心のあるテーマなどを絞り込むことで、2年次からの論文作成の実践に備えます。

様々な資料を通じて理論を学びつつ、関心のある作家、作品、関心のあるテーマを深めるための資料なども読破していきます。

★到達目標： 多くの作品の中から自分の扱う作品やテーマを決定し、それらに対して批評方法を実践し、方向性を見出せるようになること。

- ①英米語圏の文学の知識を応用し、論文完成の基本能力を養うこと。
- ②英米語圏の文学や批評理論の資料を分析し、研究に応用できるようになること。
- ③英米語圏の文学に関する課題を主体的に考える態度を養うこと。

教科書 /Textbooks

適宜、指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

特別研究 1 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	導入。担当学生と相談の上、2学期の予定表を作成します。
第2回	1学期に決定した修士論文の題目に沿って課題1の発表。コメント。課題2の確認。
第3回	前回のコメントを踏まえた調整。課題2の発表。コメント。課題3の確認。
第4回	前回のコメントを踏まえた調整。課題3の発表。コメント。課題4の確認。
第5回	前回のコメントを踏まえた調整。課題4の発表。コメント。課題5の確認。
第6回	前回のコメントを踏まえた調整。課題5の発表。コメント。課題6の確認。
第7回	前回のコメントを踏まえた調整。課題6の発表。コメント。課題7の確認。
第8回	前回のコメントを踏まえた調整。課題7の発表。コメント。課題8の確認。
第9回	前回のコメントを踏まえた調整。課題8の発表。コメント。課題9の確認。
第10回	前回のコメントを踏まえた調整。課題9の発表。コメント。課題10の確認。
第11回	前回のコメントを踏まえた調整。課題10の発表。コメント。課題11の確認。
第12回	前回のコメントを踏まえた調整。課題11の発表。コメント。課題12の確認。
第13回	前回のコメントを踏まえた調整。課題12の発表。コメント。課題13の確認。
第14回	前回のコメントを踏まえた調整。課題13の発表。コメント。
第15回	総括。修士論文のおおよその流れの決定。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の報告書...80% 授業への参加度など...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回出す課題をしっかりとこなして行ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立つ能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文完成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析し、研究に応用できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化に関する課題を主体的に考える態度を養う。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

毎回、各自の研究内容に沿い、1000～1200字程度のエッセイ課題を出す。課題は授業の1日前にemailによって提出してもらう。提出されたエッセイの内容をもとにしてチュータリング方式で指導する。

教科書 /Textbooks

テキスト、参考文献は、研究内容の展開に応じて指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第2回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第3回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第4回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第5回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第6回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第7回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第8回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第9回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第10回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第11回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第12回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第13回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第14回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第15回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート、平素

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特別研究 1 【夜】

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文完成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析し、研究に応用できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化に関する課題を主体的に考える態度を養う。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

前期に引き続き、アメリカ文学、特に小説を分析する際の研究方法に関する理解を深め、身に付けることを目的とする。授業の詳細に関しては、出席者の研究テーマと興味のある領域を踏まえたうえで決定し、可能な限り、修士論文の作成につながる形での授業を行いたい。本年度は、ジョン・スタインベックの小説と批評論文の精読を行う予定である。前期に引き続き、修士論文執筆に必要な資料の読解と、収集に関する指導を継続する。後期は、夏休み明けに提出してもらった修士論文の構想を入念に検討し、その構想を確定する作業も行わない。

教科書 /Textbooks

必要に応じて、和文、英文のプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回の授業時に、受講生の実情を踏まえた上で指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、授業のテーマと方向性の決定
- 2回 夏季休業中の研究に関する報告
- 3回 夏季休業中の研究に関する指導
- 4回 修士論文のテーマに関する指導
- 5回 修士論文の構想に関する指導
- 6回 修士論文執筆に必要な資料の収集
- 7回 修士論文執筆に必要な資料の読解
- 8回 修士論文執筆に必要な資料の分析
- 9回 修士論文で取り上げる作品の精読：ストーリー展開
- 10回 修士論文で取り上げる作品の精読：人物描写
- 11回 修士論文で取り上げる作品の精読：伝記との関連性
- 12回 修士論文で取り上げる作品の精読：社会背景との関連性
- 13回 修士論文の構想の確定
- 14回 全体のまとめ
- 15回 次年度の研究に関する指導

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50% 平素の研究状況50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前に与えられた課題を行っておくこと。

特別研究 1 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立つ能力を修得する。	○	英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文完成の基本能力を養う。	
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析し、研究に応用できるようになる。	
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	英米語圏の言語、文学、文化に関する課題を主体的に考える態度を養う。	
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			特別研究 1	

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文の作成のために必要な応用的知識と方法論を学びます。修士論文のテーマに関する文献収集のやり方や収集した文献の評価検討のやり方や、研究の方法論について学びます。

教科書 /Textbooks

文献は初回の授業で紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に必要に応じて紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入
- 2回 資料収集の実践
- 3回 資料収集のまとめ
- 4回 収集した資料の評価
- 5回 研究方法論の検討 (19世紀まで)
- 6回 研究方法論の検討 (29世紀前半)
- 7回 研究方法論の検討 (1960年代・70年代)
- 8回 研究方法論の検討 (1980年代・90年代)
- 9回 研究方法論の検討 (2000年代以降)
- 10回 研究方法論のまとめ
- 11回 研究論文作成のための導入
- 12回 研究論文作成のための必要事項の確認
- 13回 研究論文作成の実践
- 14回 研究論文作成のまとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表報告・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習を必ず行い、プレゼンの資料を用意すること。

特別研究 1 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の頭で考えてください。教師に対し理論的な戦いを挑み、倒すことを考えている院生を大歓迎します。
演習室はコロシウム。

キーワード /Keywords

【文献収集】 【文献の評価検討】 【研究の方法論】

特別研究 1 【夜】

担当者名 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文完成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析し、研究に応用できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化に関する課題を主体的に考える態度を養う。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

研究課題を具体化する能力の養成を目的に、修士論文（又は特定課題研究）の作成において必要な基礎的・理論的知識及び文献・資料の収集・調査方法等を指導する。社会言語学的手法を用いて、人間の言語行動と彼らの属する社会との係わりを探究する課題の研究指導を行う。

教科書 /Textbooks

ハンドアウトを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 研究テーマについて(1)
- 3回 研究テーマについて(2)
- 4回 方法論について検討(1)
- 5回 方法論について検討(2)
- 6回 方法論について検討(3)
- 7回 方法論について検討(4)
- 8回 方法論について検討(5)
- 9回 課題研究(1)
- 10回 課題研究(2)
- 11回 課題研究(3)
- 12回 課題研究(4)
- 13回 課題研究(5)
- 14回 学生による研究報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表・平常の学習状況...50%、レポート...50%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特別研究 1 【夜】

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文完成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析し、研究に応用できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化に関する課題を主体的に考える態度を養う。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本学期から本格的な研究活動が始まります。来年度の修士論文を視野に準備を進めていきましょう。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 研究状況・課題の確認
- 第02回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(1)
- 第03回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(2)
- 第04回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(3)
- 第05回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(4)
- 第06回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(5)
- 第07回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(6)
- 第08回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(7)
- 第09回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(8)
- 第10回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(9)
- 第11回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(10)
- 第12回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(11)
- 第13回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(12)
- 第14回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(13)
- 第15回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(14)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表、論文の作成状況等に応じて評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特別研究 1 【夜】

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 中国学に関するあらゆる専門的知識を修得し、論文の構想と作成の基本能力を養う。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 中国に関するあらゆる資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 中国学の専門分野に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		特別研究 1

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文の題目を確定し、基本構造と章節を定める。

教科書 /Textbooks

授業ごとに配る

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○鄧紅著『王充新八論続編』中国社会科学出版社2007年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 論文第1ブロックの作成
- 第2回 論文第2ブロックの作成
- 第3回 論文第3ブロックの作成、「はじめに」
- 第4回 論文第4ブロックの作成
- 第5回 論文第5ブロックの作成
- 第6回 論文第5ブロックの作成、「第一節」
- 第7回 論文第7ブロックの作成
- 第8回 論文第8ブロックの作成
- 第9回 論文第9ブロックの作成、「第二節」
- 第10回論文第10ブロックの作成
- 第11回論文第11ブロックの作成
- 第12回論文第12ブロックの作成、「第三節」
- 第13回論文第13ブロックの作成
- 第14回論文第14ブロックの作成、「おわりに」
- 第15回 まとめ、解説

成績評価の方法 /Assessment Method

授業準備 30%、レポートの完成度 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特別研究 1 【夜】

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 中国学に関するあらゆる専門的知識を修得し、論文の構想と作成の基本能力を養う。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 中国に関するあらゆる資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 中国学の専門分野に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

論文と修論について討論する。

教科書 /Textbooks

体系的な研究論文と最新研究成果を反映してる資料のコピーを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 王 占華 他 『中国語学概論』（改訂版）駿河台出版社
- 朱 徳熙 『語法講義』（中国語原書と日訳）白帝社
- 相原 茂 他 『中国語の文法書』同社
- 杉村 博文 『中国語文法教室』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回
現代中国語文法に関する問題を分類する。
問題別に研究現状をまとめる。
修論のテーマを決めた上で、関係ある論文を読む。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の練習・発表・コメントにより100%で評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

修論を作成するための授業であるので、積極的な思考・問題提起・資料準備などを望んでいる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 胡 玉華 / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○	中国学に関するあらゆる専門的知識を修得し、論文の構想と作成の基本能力を養う。	
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	中国に関するあらゆる資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。	
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	中国学の専門分野に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。	
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			特別研究 1	

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

1学期に確定した修論テーマを取り上げ、その先行研究に関する論文を読むことともに、修論の構成を考える。

教科書 /Textbooks

随時配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『中国語教育とコミュニケーション能力の育成 「わかる」中国語から「できる」中国語へ』 胡玉華 東方書店 2009

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～4回 先行研究を知る 1 - 日本語の資料
- 5回～8回 先行研究を知る 2 - 中国語の資料
- 9～10回 先行研究を知る 3 - 英語の資料
- 11回 修論を考える 1 - 問題提起
- 12回 修論を考える 2 - 仮説
- 13回 修論を考える 3 - 方法
- 14回 修論を考える 4 - 構成
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発表・コメントにより総合的評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

英文資料を読むことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 論文の構想と作成に必要な文化に関する専門的知識を修得し、基本能力を養う。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	◎ 文化に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	◎ 比較文化の専門分野に関するグローバルな課題を考究する能力を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

特別研究 1

授業の概要 /Course Description

受講生が各自興味関心のある日本宗教史に関する原典資料を選択し、それを読解・報告する。報告内容について全員で議論する。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方
- 2回 報告および議論
- 3回 報告および議論
- 4回 報告および議論
- 5回 報告および議論
- 6回 報告および議論
- 7回 報告および議論
- 8回 報告および議論
- 9回 報告および議論
- 10回 報告および議論
- 11回 報告および議論
- 12回 報告および議論
- 13回 報告および議論
- 14回 報告および議論
- 15回 報告および議論

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 50% 平常の学習態度 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特別研究 1 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の宗教文化

特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 論文の構想と作成に必要な文化に関する専門的知識を修得し、基本能力を養う。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	◎ 文化に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	◎ 比較文化の専門分野に関するグローバルな課題を考究する能力を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文執筆のための基礎的な力を養う。受講者は具体的な構想を随時発表していく。

教科書 /Textbooks

授業で指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 研究テーマについての討議①
- 第3回 研究テーマについての討議②
- 第4回 研究テーマについての討議③
- 第5回 研究テーマについての討議④
- 第6回 研究方法についての討議①
- 第7回 研究方法についての討議②
- 第8回 研究方法についての討議③
- 第9回 研究方法についての討議④
- 第10回 資料解釈についての討議①
- 第11回 資料解釈についての討議②
- 第12回 資料解釈についての討議③
- 第13回 資料解釈についての討議④
- 第14回 資料解釈についての討議⑤
- 第15回 総括と今後の課題の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点20パーセント レポート80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特別研究 1 【夜】

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor だニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 論文の構想と作成に必要な文化に関する専門的知識を修得し、基本能力を養う。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	◎ 文化に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	◎ 比較文化の専門分野に関するグローバルな課題を考究する能力を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

特別研究 1

授業の概要 /Course Description

認知言語学を用いることにより、文化と文学の関連性を探求する。文学、新聞、広告などに登場するメタファーの文化的背景を視野に入れ、そのメタファーがいかなる認知的及び文化的過程を通して成り立っているかを検討する。

教科書 /Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生と相談した上で決定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 修士論文計画に関する検討
- 2回～14回 院生による口頭発表及び教員による指導
- 15回 今後の研究計画に関する検討

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：30% 小テスト：0% 期末試験：0% 課題：45% 態度：25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

修士論文計画書の通りに研究を行なうことが重要なポイントです。院生は計画の通りに研究を実行しなければ、修士論文提出締め切りまでに提出できなくなり場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較文学、メタファー論、表象、認知言語学、認知文学

特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor: ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year: 1年次
 単位 /Credits: 2単位
 学期 /Semester: 2学期
 授業形態 /Class Format: 演習
 クラス /Class: 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 論文の構想と作成に必要な文化に関する専門的知識を修得し、基本能力を養う。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 文化に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 比較文化の専門分野に関するグローバルな課題を考究する能力を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

This course will be an in-depth comparative cultural analysis of Japan and the United States of America. We will investigate different modes of analysis and interpretation for each student topic. Discussions and presentations in English will center on materials selected by students for their thesis. Students will lead the discussion in presenting their own interpretations. Thus, English for Academic Purposes will be another component of this course.

教科書 /Textbooks

Printed materials to be supplied by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The instructor will distribute supplemental materials while students are responsible for acquiring their own research materials.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Orientation and Introduction.
- 2回 Guidance for thesis research A
- 3回 Guidance for thesis research B
- 4回 Guidance for thesis research C
- 5回 Introduction of student thesis topics and materials.
- 6回 Discussions and Presentations A
- 7回 Discussions and Presentations B
- 8回 Discussions and Presentations C
- 9回 Discussion centered on methods of analysis and interpretation
- 10回 Student Discussion and Presentation A
- 11回 Student Discussion and Presentation B
- 12回 Orientations and Guidelines for Presentations to be led by students based on the contents of materials.
- 13回 Student-led Discussion and Presentation A
- 14回 Student-led Discussion and Presentation B
- 15回 Student-led Discussion and Presentation C

成績評価の方法 /Assessment Method

Preparation and presentations 50% Final 2000 word paper 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

特別研究 1 【夜】

履修上の注意 /Remarks

While the instructor will explain necessary preparations during the course, all materials for each session must be read beforehand and students should be ready for discussion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 論文の構想と作成に必要な文化に関する専門的知識を修得し、基本能力を養う。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	◎ 文化に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	◎ 比較文化の専門分野に関するグローバルな課題を考究する能力を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、論文指導を受けたい受講生と相談のうえ、修士論文作成の予備研究としての研究を開始する。そのために必要な文献講読を行う。そして、可能であれば複数の言語学関連教員の前での発表を通して、発表技術（ハンドアウト、発表、質疑応答への対応など）を身につける。

教科書 /Textbooks

授業時に指定。
その他プリント配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 受講生との相談
第2回 - 第9回 文献講読
第10回 - 第13回 課題研究
第14回 受講生による発表
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...45% 課題...10% レポート...45%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

文献の予習（特に英語文献は意味が取れるようにしておくこと）

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○	論文の構想と作成に必要な文化に関する専門的知識を修得し、基本能力を養う。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	文化に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	比較文化の専門分野に関するグローバルな課題を考究する能力を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

受講生と相談のうえ、修士論文作成のための予備研究を開始する。そのために必要な文献講読を行う。文献講読を通して、受講生の選んだテーマについて理解を深めながら、最後は、先行研究の概要をレポートとしてまとめる。到達目標は以下の通りである。

- (1)文献講読を通して、修士論文作成に必要な知識を身につける。
- (2)言語学に関する論文作成の技法を身につける。

教科書 /Textbooks

授業時に指定。
その他プリント配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 受講生と相談
- 第 2 回 - 第11回 文献講読
- 第12回 - 第14回 受講生による発表
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

文献の予習 (特に英語文献は意味が取れるようにしておくこと)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文作成のための研究発表と研究指導を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし、研究課題に即して指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 研究報告と指導
- 第3回 研究報告と指導
- 第4回 研究報告と指導
- 第5回 研究報告と指導
- 第6回 研究報告と指導
- 第7回 研究報告と指導
- 第8回 研究報告と指導
- 第9回 研究報告と指導
- 第10回 研究報告と指導
- 第11回 研究報告と指導
- 第12回 研究報告と指導
- 第13回 研究報告と指導
- 第14回 研究報告と指導
- 第15回 研究報告と指導

成績評価の方法 /Assessment Method

研究報告と討論により100%評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特別研究 1 【夜】

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

現代中国の対外認識および外交の変遷について検討し、内政と国際要因が中国の対外的な行動に及ぼす影響を与えてきたのかについて理解を深める。また研究テーマに関する資料の収集・読解能力を養う。詳細は受講生の研究テーマに応じて決定する。学期末にレポートを課す。

教科書 /Textbooks

授業で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の関心に基づいて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下のスケジュールを進める。
 1回 インTRODクシヨン
 2回～14回 指定した文献の輪読・報告・議論
 15回 レポート提出とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発言・報告...60 % レポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

課題を熟読して論点を把握し、自分の抱いた問題点(3点程度にまとめる)等を用意してから授業に臨むこと。
 中国・台湾の地図や新聞記事などを授業内容理解のために活用すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 白石 麻保 / 中国学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

中国経済理解のための実証分析の手法を身につけ、それを自身の研究に応用する。
個別に設定されたテーマについて中国経済に対する社会科学的・実証的な分析を行い、報告・ディスカッションを行う。

教科書 /Textbooks

履修生のテーマに沿って取り扱う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の際に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーリングと打ち合わせ
 - 2回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
 - 3回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
 - 4回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
 - 5回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
 - 6回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
 - 7回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
 - 8回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
 - 9回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
 - 10回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
 - 11回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
 - 12回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
 - 13回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
 - 14回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
 - 15回 まとめ
- * 内容については進捗状況に応じて変動することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度及びプレゼンテーション、ディスカッションへの参加状況やそれらの内容による。

レジュメの作成及び報告・・・ 60% ディスカッションへの参加状況・・・ 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

特別研究 1 【夜】

履修上の注意 /Remarks

(主にミクロ) 経済学及び統計学, 計量経済学等の知識を必要とするので, 学部レベルの当該科目の知識を習得しているとより理解が深まる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

東アジア三国（日本、清国・中国、朝鮮・韓国）の政治思想と国際関係への理解を深めるために、関連文献とともに原典・古典を読解する。ゼミ参加学生の論文テーマに沿って、報告・討論の機会を設ける。このゼミは基本的に、1学期の「特別研究基礎」の延長線上にある。

教科書 /Textbooks

随時紹介する。またゼミ参加学生各自の関心分野に関する参考文献は随時相談に応じる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回
読解する文献、原典・古典は授業中決める。
レジュメの作成・報告、討論

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 50% レポートや論文 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

関連文献を自主的に読むこと。

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

東アジアの経済発展について事例研究に関する主要文献を熟読して、修士論文作成に必要な研究テーマの設定と資料収集、分析を行うことを目指す。

教科書 /Textbooks

最初の授業時に研究テーマを考慮して決める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に必要に応じて指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、研究テーマの確認
- 2回～14回 各自、事例研究にかかわる文献を選んで、発表していく。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 40% 報告 40% ディスカッション 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

出来るだけ早い時期に、研究テーマに関する文献リストと各章の構成を確定しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文のための指導の時間です。今年を受講生がないため開講しません。
くずし字法の習得により修士論文に必要な古文書の解読を行います。

まず16か月間の研究計画を立てて、研究史の整理（先行研究の比較と分析）を報告してもらいます。
その後、修士論文のために集めた史料を紹介してもらいます。それに基づいて分析と解読を行います。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

見玉幸多編『くずし字解読辞典 普及版』（東京堂出版）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 研究計画①
- 第3回 研究計画②
- 第4回 研究史の整理①
- 第5回 研究史の整理②
- 第6回 研究史の整理③
- 第7回 基本史料の紹介①
- 第8回 基本史料の分析①
- 第9回 基本史料の紹介②
- 第10回 基本史料の分析②
- 第11回 基本史料の紹介③
- 第12回 基本史料の分析③
- 第13回 基本史料の紹介④
- 第14回 基本史料の分析④
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究史の整理（28000字程度）と基本資料の紹介と分析（14000字程度）の期末レポート・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

特別研究 1 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文作成に向けて、研究テーマ（日本政治外交史）を絞り込み、必要史料を収集・解説する手助けをしていく。

教科書 /Textbooks

学生との話し合いによる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション。
第2回～15回 学生による報告とそれに対する指導。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

その都度指示します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 篠崎 香織 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文の指導を行う。先行研究の整理を引き続き行い、論文のテーマとなる「問い」と「仮説」の設定、それを実証する方法について検討する。

教科書 /Textbooks

受講生の関心に応じて決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生に対して個別に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 イントロダクション
2回～14回 修士論文の経過報告
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ... 50 % レポート ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業中に指示する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文作成へ向け、研究史を丹念にフォローし、論点を整理したうえで、課題を明確化する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：研究史の作り方（講義）
- 第3回～14回：各自の報告・議論
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 報告 50%
- レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 田村 慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

戦後東南アジアの国際関係に関する英語および日本語文献を輪読、受講生を中心とする報告と討論を通して、【大学院生として身につけておくべき学問的素養】を身につける。同時に、【修士論文もしくは課題研究を執筆するために必要な技法を教示し、論文を完成させること】を目指す。また課題レポートをいくつか科す。レポートは添削・評価をして返却し、修士論文作成の技能を高めていく。

教科書 /Textbooks

受講生の修士論文（もしくは課題レポート）のテーマによって相談して決定するが、以下が候補となる。

- (1)Ho Khai Leong and Samuel C. Kuo ed.,China and Southeast Asia, ISEAS, 2005.
- (2)岩崎育夫編『アジアと民主主義』アジア経済研究所、1997年。
- (3)山影進『ASEANパワー：アジア太平洋の中核へ』東京大学出版会、1997年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 日本国際政治学会編『日本の国際政治学』4冊、有斐閣、2009年
 - * 「[学としての国際政治]」「国境なき国際政治」「地域から見た国際政治」「歴史の中の国際政治」の4冊がある。
- アジア政経学会編『現代アジア研究』3冊、慶應義塾大学出版会、2008年。
 - * 「越境」「市民社会」「政策」の3冊がある。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テキストとスケジュールの相談、説明
- 第2～4回 China and Southeast Asiaを3回に分けて輪読、議論する
- 第5～7回 『アジアと民主主義』を3回に分けて輪読、議論する
- 第8～10回 『ASEANパワー：アジア太平洋の中核へ』を3回に分けて輪読、議論する
- 第11～12回 これまでの議論を踏まえて、各自のテーマを決定して報告
- 第13～14回 報告に対する総括と全体の議論を2回に分けて行う
- 第15回 補足とまとめ

特別研究 1 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート ... 40% 報告や議論 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学院は各自が自主的に学ぶ場であるので、参考文献や資料を収集して熟読すること。

キーワード /Keywords

東南アジア、国民統合、国家建設、中間層、民主化、ASEAN

特別研究 1 【夜】

担当者名 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

受講生の修士論文のテーマに沿った文献講読ならびにプレゼンテーションを行う。

教科書 /Textbooks

原則として、各自で用意する。また、適宜必要な文献・資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、各自で調査・収集する。また、適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 授業の進め方などについての説明
- 2 回 論文作成方法や資料収集方法の確認
- 3 回 プレゼンテーションと討議
- 4 回 文献講読と解説
- 5 回 文献講読と解説
- 6 回 プレゼンテーションと討議
- 7 回 文献講読と解説
- 8 回 文献講読と解説
- 9 回 プレゼンテーションと討議
- 10 回 文献講読と解説
- 11 回 文献講読と解説
- 12 回 プレゼンテーションと討議
- 13 回 文献講読と解説
- 14 回 文献講読と解説
- 15 回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度... 30% プレゼンテーション... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

プレゼンテーションの際には、レジュメを作成すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特別研究 1 【夜】

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文の作成に向け、参加者の関心に沿って文献の輪読を行う。

教科書 /Textbooks

受講生と相談の上、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献リストをオリエンテーション時に配布する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 文献紹介
- 第3回 文献の背景説明
- 第4-8回 一冊目の輪読
- 第9回 文献の背景説明
- 第10-14回 二冊目の輪読
- 第15回 講義の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ... 70 % レポート ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

この講義はアメリカ社会研究とあわせて履修すると効果的です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

特別研究 1

授業の概要 /Course Description

修士論文の執筆に向けての指導を行う。

教科書 /Textbooks

授業中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 インTRODクシヨN。
第2～14回 修士論文の経過報告・テキスト輪読・討論
第15回 まとめ
詳細は受講生と相談のうえ決定する。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...30% 討論への参加度...40% レポート類...30%
ただし、報告の放棄や無断欠席が一度でもあった場合には単位はない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業中に指示する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文の指導。

教科書 /Textbooks

受講生の研究分野に応じて決める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて各自で調査する。個別の相談に応じる。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 修論作成に向けた指導(1)
- 3回 修論作成に向けた指導(2)
- 4回 修論作成に向けた指導(3)
- 5回 修論作成に向けた指導(4)
- 6回 修論作成に向けた指導(5)
- 7回 修論作成に向けた指導(6)
- 8回 修論作成に向けた指導(7)
- 9回 修論作成に向けた指導(8)
- 10回 修論作成に向けた指導(9)
- 11回 修論作成に向けた指導(10)
- 12回 修論作成に向けた指導(11)
- 13回 修論作成に向けた指導(12)
- 14回 修論作成に向けた指導(13)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の内容・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

報告準備を十分に整えておくこと。

特別研究 1 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 五月女 律子 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

この授業では、北欧諸国の国内政治、対外政策、EUとの関係などについて、英語の文献を用いながら、学生が独自の研究を進めることを目指す。受講生が北欧諸国の政治についての基礎知識を持っていることを前提として進める予定である。

教科書 /Textbooks

必要に応じて授業時に適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業時に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、スケジュールの決定
- 2回 北欧諸国の政治・国際関係に関する基礎知識の確認・復習
- 3回 学生による研究計画の発表(1)
- 4回 学生による研究発表(2)
- 5回 学生による研究発表(3)
- 6回 学生による研究発表(4)
- 7回 学生による研究発表(5)
- 8回 学生によるレポートのアウトライン発表
- 9回 学生によるレポート内容の発表(1)
- 10回 学生によるレポート内容の発表(2)
- 11回 学生によるレポート内容の発表(3)
- 12回 学生によるレポート内容の発表(4)
- 13回 学生によるレポート内容の発表(5)
- 14回 レポートの添削
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

議論への参加40%、口頭発表30%、レポート30%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特別研究 1 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

- 各自興味ある研究課題を見つけ、修士論文を作成するためのスキルを身につける。到達目標は以下の通りである。
- ・ 国際経済の数理モデルの分析アプローチを理解できる。
 - ・ 諸経済理論により現実の国際経済問題を説明できる。
 - ・ 学習したスキルを応用できる。

教科書 /Textbooks

受講生の研究テーマを考慮して決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第14回 受講生による報告・討論
- 第15回 課題の提出・まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常授業への取り込み 60% 課題の提出 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

大学院レベルのミクロ・マクロ経済学の履修が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

この演習では、新興援助国が国際開発援助レジームに対してどのようなインパクトを与えているのかについて学習し、グローバル開発ガバナンスの行方について考えます。

教科書 /Textbooks

Sachin Chaturvedi, Thomas Fues and Elizabeth Sidiropoulos eds., Development Cooperation and Emerging Powers, London: Zed Books, 2012.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Emma Mawdsley, From Recipient to Donors: Emerging Powers and the Changing Development Landscape, London: Zed Books, 2012.
エマ・モーズリー『国際開発援助の変貌と新興国の台頭 - 被援助国から援助国への転換』明石書店、2014年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

上記のChaturvediらの文献を読み、ディスカッションを行う。
第1回 インタロダクション
第2回～第11回 Chap. 1～Chap. 10
第12回～第14回 関連する学術論文を用いて輪読を行う。
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・・・70% レポート：30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

国際機構を主題とする修士論文の作成に向けて、文献を収集および整理しつつ、修得した知識と技能をもとに問題関心を深める。

教科書 /Textbooks

受講生の関心に沿って決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 はじめに
 第2回-第14回 報告と議論
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告30%、参加70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 2 【夜】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係の諸課題について調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定め整理できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 2

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

特別研究基礎や特別研究1の成果及び出てきた課題をふまえ、研究論文の作成に向け、必要な理論的知識及び研究法を習得する。

目標

- ① 研究に必要な知識を習得する
- ② 研究の課題設定に応じ効果的な研究法を実践する

教科書 /Textbooks

なし。
資料は授業で配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 研究計画の検討 1【課題設定】
- 3回 研究計画の検討 2【先行研究と研究方法】
- 4回 研究データの検討 1【インタビューデータ】
- 5回 研究データの検討 2【収集資料】
- 6回 研究データ分析の検討 1【インタビューデータ分析】
- 7回 研究データ分析の検討 2【収集資料分析】
- 8回 研究データ分析の検討 3【追加調査の計画】
- 9回 中間発表
- 10回 追加調査データの検討 1【追加インタビューデータ】
- 11回 追加調査データの検討 2【収集資料】
- 12回 追加調査データ分析の検討 1【追加インタビューデータ分析】
- 13回 追加調査データ分析の検討 2【追加収集資料分析】
- 14回 論文構成の検討【章構成】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度 50%
発表報告 50%

特別研究 2 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

配布資料はよく読んでおくこと。発表者は事前の準備を行い、発表当日はレジюме等、プレゼン資料を準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 2 【夜】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係の諸課題について調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定め整理できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 2

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

「社会福祉の実践と研究の視角」
社会福祉の（ないしは社会福祉問題に近接する）領域において頻繁に取り上げられる実践上および研究上の課題を取り上げ、それらを多角的に検討することによって、この領域における研究論文の作成について検討を深める。

教科書 /Textbooks

適時指定する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1～5回 論文作成と社会福祉研究の動向に関する討論
- 第 6～10回 研究・調査方法に関する検討
- 第11、12回 論文作成に関する報告と討論
- 第13、15回 論文内容の討論および吟味

成績評価の方法 /Assessment Method

論文作成やレポートおよび報告を総合して評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 2 【夜】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係の諸課題について調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定め整理できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 2

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文作成のための個別指導を行う。論文作成に必要な専門的知識と研究方法を習得し、研究テーマを具体化するための能力を養成する。修士論文中間発表の準備・指導を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 研究に関する報告と討議・検討
- 3回 研究に関する報告と討議、検討
- 4回 研究に関する報告と討議、検討
- 5回 研究に関する報告と討議、検討
- 6回 研究に関する報告と討議、検討
- 7回 研究に関する報告と討議、検討
- 8回 研究に関する報告と討議、検討
- 9回 研究に関する報告と討議、検討
- 10回 研究に関する報告と討議、検討
- 11回 研究に関する報告と討議、検討
- 12回 研究に関する報告と討議、検討
- 13回 研究に関する報告と討議、検討
- 14回 研究に関する報告と討議、検討
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度50%、発表報告50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特別研究 2 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 2 【夜】

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化に関する専門知識を応用し、論文完成に必要な能力を修得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化に関する資料を分析する能力を養い、研究に適用できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化に関する課題を主体的に解決できる態度を養う。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 2

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

1年次の「特別研究基礎」、「特別研究1」の成果を踏まえつつ、修士論文を作成するために具体的に個別指導を行うことで、多くの文献を集め「文献の網羅」をすると同時に、「コンテンツの確定」、ならびに修士論文の概略の作成を目指します。

教科書 /Textbooks

適宜、指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

最初に論文作成計画書を作成し、それによって指導をしていきます。

- 第1回 導入。1学期間の計画書の作成(1)
- 第2回 計画書の作成(2)
- 第3回 計画書に従い、指導など(1)
- 第4回 計画書に従い、指導など(2)
- 第5回 計画書に従い、指導など(3)
- 第6回 計画書に従い、指導など(4)
- 第7回 計画書に従い、指導など(5)
- 第8回 計画書に従い、指導など(6)
- 第9回 計画書に従い、指導など(7)
- 第10回 計画書に従い、指導など(8)
- 第11回 計画書に従い、指導など(9)
- 第12回 計画書に従い、指導など(10)
- 第13回 計画書に従い、指導など(11)
- 第14回 計画書に従い、指導など(12)
- 第15回 総括。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の報告書 ... 80% 授業への参加度など ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出す課題をしっかりとこなして行ってください。

特別研究 2 【夜】

キーワード /Keywords

特別研究 2 【夜】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2単位 学期 /Semester 1学期 1学期 授業形態 /Class Format 演習 演習 クラス /Class 2年 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化に関する専門知識を応用し、論文完成に必要な能力を修得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化に関する資料を分析する能力を養い、研究に適用できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化に関する課題を主体的に解決できる態度を養う。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究2

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

毎回、各自の研究内容に沿い、1000～1200字程度のエッセイ課題を出す。課題は授業の1日前にemailによって提出してもらう。提出されたエッセイの内容をもとにしてチュータリング方式で指導する。

教科書 /Textbooks

テキスト、参考文献は、研究内容の展開に応じて指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指摘する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（基礎1）
- 第2回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（基礎2）
- 第3回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（基礎3）
- 第4回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（基礎4）
- 第5回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（基礎5）
- 第6回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（展開1）
- 第7回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（展開2）
- 第8回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（展開3）
- 第9回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（展開4）
- 第10回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（展開5）
- 第11回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（応用1）
- 第12回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（応用2）
- 第13回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（応用3）
- 第14回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（応用4）
- 第15回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（応用5）

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加・課題エッセイ

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

課題を準備してくること。

特別研究 2 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 2 【夜】

担当者名 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化に関する専門知識を応用し、論文完成に必要な能力を修得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化に関する資料を分析する能力を養い、研究に適用できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化に関する課題を主体的に解決できる態度を養う。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 2

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文完成に向けての個別指導を対面形式で行う。最初は、確定した修士論文の構想に沿って、引用文献の収集と分析、テキストの再分析を行ってもらい、修士論文執筆に向けての基礎固めを行ってもらう。それらの作業の進捗状況を授業時に報告してもらう。修士論文の執筆開始後は、毎回、新たに執筆された箇所に関する指導を行う。毎回、修士論文の完成へと向けた課題を与える予定である。

教科書 /Textbooks

必要に応じて、修士論文のテーマと関連した和文、英文の評論文をプリントの形で配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

MLA 英語論文の手引き 第5版 (北星堂)
修士論文中の引用は上記に記載されている規則に則って行うこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 修士論文の構想に沿ったテキストの再読・引用文献の購読 1
- 3回 修士論文の構想に沿ったテキストの再読・引用文献の購読 2
- 4回 修士論文の構想に沿ったテキストの再読・引用文献の購読 3
- 5回 修士論文の構想に沿ったテキストの再読・引用文献の購読 4
- 6回 修士論文の構想に沿ったテキストの再読・引用文献の購読 5
- 7回 修士論文の構想に沿ったテキストの再読・引用文献の購読 6
- 8回 修士論文の執筆状況の報告と指導 1
- 9回 修士論文の執筆状況の報告と指導 2
- 10回 修士論文の執筆状況の報告と指導 3
- 11回 修士論文の執筆状況の報告と指導 4
- 12回 修士論文の執筆状況の報告と指導 5
- 13回 修士論文の執筆状況の報告と指導 6
- 14回 修士論文の執筆状況の報告と指導 7
- 15回 夏休み中の研究に関する指導

成績評価の方法 /Assessment Method

修士論文の執筆状況に関する報告100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

修士論文執筆に向けての基礎固めの進捗状況、修士論文執筆開始後は、その執筆状況を授業時に説明できるようにしておくこと。

特別研究 2 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 2 【夜】

担当者名 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○	中国学に関する専門的知識を駆使して、論文の完成に関する基本能力を磨く。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	中国に関するあらゆる資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	中国学の様々な分野に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			特別研究 2

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文のテーマに従い、論文の構成章節を決めて、論点と資料を確認する。そのうえで、論文を作成していく。

教科書 /Textbooks

授業ごとに学生が用意する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業ごとに配る

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第一回から第十五回まで、授業ごとに、修士論文の章節に従って、資料を確認して、できあげた部分を読み合せて、添削修正する。

成績評価の方法 /Assessment Method

論文の進展 80%、授業への構え 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

最後の頑張り

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 2 【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2単位 /Semester 1学期 1学期 /Class Format 授業形態 演習 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○	中国学に関する専門的知識を駆使して、論文の完成に関する基本能力を磨く。	
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	中国に関するあらゆる資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。	
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	中国学の様々な分野に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。	
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			特別研究 2	

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修論指導。

教科書 /Textbooks

研究論文が中心になっているので、授業中に適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 王 占華 他 『中国語学概論』（改訂版）駿河台出版社
- 朱 徳熙 『語法講義』（中国語原書と日訳）白帝社
- 相原 茂 他 『中国語の文法書』同社
- 杉村 博文 『中国語文法教室』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回
修論作成について討論する。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の練習・発表・コメントにより100%で評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

積極的な思考・問題提起・資料準備などを望んでいる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 2 【夜】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 論文の構想と作成に必要な文化に関する専門的知識を修得し、基本能力を養う。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	◎ 文化に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	◎ 比較文化の専門分野に関するグローバルな課題を考究する能力を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

特別研究 2

授業の概要 /Course Description

修士論文作成にむけて日本宗教史に関する原典資料や論文を選択し、それを読解・報告する。報告内容について全員で議論する。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方
- 2回 報告および議論
- 3回 報告および議論
- 4回 報告および議論
- 5回 報告および議論
- 6回 報告および議論
- 7回 報告および議論
- 8回 報告および議論
- 9回 報告および議論
- 10回 報告および議論
- 11回 報告および議論
- 12回 報告および議論
- 13回 報告および議論
- 14回 報告および議論
- 15回 報告および議論

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 50% 平常の学習態度 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特別研究 2 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の宗教文化

特別研究 2 【夜】

担当者名 大平 剛 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 2

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

特別研究基礎および特別研究 1 で発見した課題をもとに、修士論文作成に必要な文献を読み進めながら徐々に論文のアウトラインを形作っていく。

教科書 /Textbooks

毎回、必要な文献をコピーして配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1 回 インTRODクシヨN
第 2 回～第 9 回 先行研究のまとめ
第 10 回 研究目的、リサーチ・クエスチヨNの作成
第 11 回～第 14 回 修士論文における序論の検討
第 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表報告・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 3 【夜】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係の諸課題について調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題について実践的に対応策を提示できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 3

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

「社会福祉の実践と研究の視角」
社会福祉の（ないしは社会福祉問題に近接する）領域において頻繁に取り上げられる実践上および研究上の課題を取り上げ、それらを多角的に検討することによって、この領域における研究論文の作成について検討を深める。

教科書 /Textbooks

適時指定する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1～5回 社会福祉研究における論文の位置に関する討論
- 第 6～10回 研究・調査方法に関する検討
- 第11、12回 論文作成に関する報告と討論
- 第13、15回 論文内容の討論および吟味

成績評価の方法 /Assessment Method

論文作成やレポートおよび報告を総合して評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 3 【夜】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係の諸課題について調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題について実践的に対応策を提示できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 3

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文作成のために個別的な指導を行う。論文の構成や内容などの検討を図りながら論文の完成を目指す。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な場合は適宜指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 オリエンテーション
- 2回目 研究に関する報告と討議、検討
- 3回目 研究に関する報告と討議、検討
- 4回目 研究に関する報告と討議、検討
- 5回目 研究に関する報告と討議、検討
- 6回目 研究に関する報告と討議、検討
- 7回目 研究に関する報告と討議、検討
- 8回目 研究に関する報告と討議、検討
- 9回目 研究に関する報告と討議、検討
- 10回目 研究に関する報告と討議、検討
- 11回目 研究に関する報告と討議、検討
- 12回目 研究に関する報告と討議、検討
- 13回目 研究に関する報告と討議、検討
- 14回目 研究に関する報告と討議、検討
- 15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度20%、論文80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特別研究 3 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 3 【夜】

担当者名 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化に関する専門知識を駆使し、論文を完成させながら、専門分野の研究者として必要な能力を修得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化に関する論文を完成させながら、専門分野の研究者として必要な分析研究の技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化に関する課題を主体的に解決し、専門分野の研究者として必要な態度を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 3

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

1年次の「特別研究基礎」、「特別研究1」、及び2年次1学期の「特別研究2」の成果を踏まえつつ、修士論文を作成するために、具体的に個別指導を行い、論文の完成を目指します。（講義全体のキーワードは「修士論文作成」「論の拡大」などです。）

教科書 /Textbooks

適宜、指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

最初にこれまでの進捗状況を確認した上で、2学期の論文作成計画書を新たに作成し、それによって指導をしていきます。

- 第1回 導入、担当学生と相談の上、計画書を作成
- 第2回 前回作成した計画書に従い、指導など(1)
- 第3回 計画書に従い、指導など(2)
- 第4回 計画書に従い、指導など(3)
- 第5回 計画書に従い、指導など(4)
- 第6回 計画書に従い、指導など(5)
- 第7回 計画書に従い、指導など(6)
- 第8回 計画書に従い、指導など(7)
- 第9回 計画書に従い、指導など(8)
- 第10回 計画書に従い、指導など(9)
- 第11回 計画書に従い、指導など(10)
- 第12回 計画書に従い、指導など(11)
- 第13回 計画書に従い、指導など(12)
- 第14回 計画書に従い、指導など(13)
- 第15回 総括。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の報告書...80% 授業への参加度など...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出す課題をしっかりとこなして行ってください。

特別研究 3 【夜】

キーワード /Keywords

特別研究 3 【夜】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化に関する専門知識を駆使し、論文を完成させながら、専門分野の研究者として必要な能力を修得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化に関する論文を完成させながら、専門分野の研究者として必要な分析研究の技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化に関する課題を主体的に解決し、専門分野の研究者として必要な態度を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 3

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

各自、修士論文作成に向けて研究内容を報告し、内容について議論する。問題点を指摘し、次回の課題とする。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 報告および議論
- 2回 報告および議論
- 3回 報告および議論
- 4回 報告および議論
- 5回 報告および議論
- 6回 報告および議論
- 7回 報告および議論
- 8回 報告および議論
- 9回 報告および議論
- 10回 報告および議論
- 11回 報告および議論
- 12回 報告および議論
- 13回 報告および議論
- 14回 報告および議論
- 15回 報告および議論

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 50% 平常の学習態度 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特別研究 3 【夜】

キーワード /Keywords

特別研究3 【夜】

担当者名 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化に関する専門知識を駆使し、論文を完成させながら、専門分野の研究者として必要な能力を修得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化に関する論文を完成させながら、専門分野の研究者として必要な分析研究の技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化に関する課題を主体的に解決し、専門分野の研究者として必要な態度を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究3

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文作成のための詳細な個別指導を継続的に対面形式で行う。個別指導に沿った加筆訂正を原稿に加え続けることにより、修士論文を無理なく完成させることを目指す。

教科書 /Textbooks

必要に応じて、和文、英文のプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

MLA 英語論文の手引(第5版) (北星堂)
修士論文中の引用は上記の書物を参照した上で行うこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 修士論文草稿の全体的構成に関する指導 1
- 2回 修士論文草稿の全体的構成に関する指導 2
- 3回 修士論文草稿の全体的構成に関する指導 3
- 4回 修士論文草稿の全体的構成に関する指導 4
- 5回 修士論文草稿の全体的構成に関する指導 5
- 6回 修士論文草稿の章立に関する指導 1
- 7回 修士論文草稿の章立に関する指導 2
- 8回 修士論文草稿の段落構成に関する指導 1
- 9回 修士論文草稿の段落構成に関する指導 2
- 10回 修士論文草稿に関する指導：センテンスレベル 1
- 11回 修士論文草稿に関する指導：センテンスレベル 2
- 12回 修士論文草稿に関する指導：センテンスレベル 3
- 13回 修士論文草稿に関する指導：単語レベル
- 14回 修士論文草稿に関する指導：引用文献リスト
- 15回 完成した修士論文の最終チェック

成績評価の方法 /Assessment Method

修士論文の執筆状況に関する報告100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

指示に従って、修士論文の加筆修正作業を行っておくこと。
修士論文の執筆状況に関して、授業時に報告できるようにしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特別研究 3 【夜】

キーワード /Keywords

特別研究 3 【夜】

担当者名 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 中国学に関する専門的知識を駆使して、論文の完成を目指し、中国学の研究者と専門職の職業人としての能力の完成に到達する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ あらゆる資料を使い、中国に関する多分野の研究に役立つ分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 中国学のすべての分野に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 3

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文の最後のスパート。論文を細かくチェックして、論文を完成させる

教科書 /Textbooks

授業ごとに配る

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業ごとに配る

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第一回から第十五回まで、毎回論文の進捗を確認して、十五回目の授業の時に、最終チェックを入れる。

成績評価の方法 /Assessment Method

論文の完成度、論点の確立状況による

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

修士論文を完成しないと、本授業の単位をもらえないかも。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 3 【夜】

担当者名 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 中国学に関する専門的知識を駆使して、論文の完成を目指し、中国学の研究者と専門職の職業人としての能力の完成に到達する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ あらゆる資料を使い、中国に関する多分野の研究に役立つ分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 中国学のすべての分野に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 3

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修論指導。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

研究論文が中心になっているので、授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回
修論作成について討論する。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の討論・修論の作成により100%で評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

積極的な思考・問題提起・資料準備などを望んでいる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特別研究 3 【夜】

キーワード /Keywords

特別研究 3 【夜】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 論文の構想と作成に必要な文化に関する専門的知識を修得し、基本能力を養う。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	◎ 文化に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	◎ 比較文化の専門分野に関するグローバルな課題を考究する能力を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 3

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文作成にむけて研究内容を報告する。
報告内容について全員で議論する。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方
- 2回 報告および議論
- 3回 報告および議論
- 4回 報告および議論
- 5回 報告および議論
- 6回 報告および議論
- 7回 報告および議論
- 8回 報告および議論
- 9回 報告および議論
- 10回 報告および議論
- 11回 報告および議論
- 12回 報告および議論
- 13回 報告および議論
- 14回 報告および議論
- 15回 報告および議論

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 50% 平常の学習態度 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特別研究 3 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の宗教文化

特別研究 3 【夜】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 論文の構想と作成に必要な文化に関する専門的知識を修得し、基本能力を養う。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	◎ 文化に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	◎ 比較文化の専門分野に関するグローバルな課題を考究する能力を修得する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		特別研究3

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

これまでに身につけてきた修士論文作成にあたって必要な知識・技術をさらに向上させることを目的とした授業をおこなう。修士論文完成のために、草稿を作成し、随時発表、議論を継続していく。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業にて指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 引用文献の確認
- 第3回 参考文献の確認
- 第4回 全体構想の確認
- 第5回 草稿の発表
- 第6回 草稿の発表
- 第7回 草稿の発表
- 第8回 草稿の発表
- 第9回 草稿の発表
- 第10回草稿の発表
- 第11回全体の読み合わせ
- 第12回全体の読み合わせ
- 第13回全体の読み合わせ
- 第14回全体の読み合わせ
- 第15回総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度20% 授業での発表80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特別研究 3 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 3 【夜】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 修士論文作成にあたり、研究テーマに関する専門的な知識を修得するとともに、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 修士論文作成にあたり、先行研究を整理し、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 3

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

特別研究 2 で作成した論文のアウトラインをもとに、序論、本論、結論を作成する。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 インTRODクシヨN
- 第 2 回 ~ 第 9 回 本論の作成
- 第 10 回 ~ 第 12 回 結論の作成
- 第 13 回 全体を通しての最終チェック
- 第 14 回 要旨の作成
- 第 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 3 【夜】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係の諸課題について調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題について実践的に対応策を提示できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究3

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

受講者各自の研究テーマを論文として結実させることが、特別研究基礎、特別研究1、特別研究2、特別研究3を通じた目標である。受講前に研究をどの程度行ってきたかや、採用する研究手法等によって進め方は異なるために、共通した授業内容としてここに表記することは困難である。しかし基本的には、研究テーマの絞り込み、関連する先行研究の渉猟とまとめ、問題の明確化、実験・調査の計画と実施、データの分析、論文の執筆、という流れであり、これらを受講者が互いに発表、議論しながら進めていく。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 受講者の研究の進捗状況に沿って進めていく

成績評価の方法 /Assessment Method

研究内容 ... 50 % 研究への積極的取り組み等 ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

積極的に研究を進めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords